

IDEA 277

Special Feature:

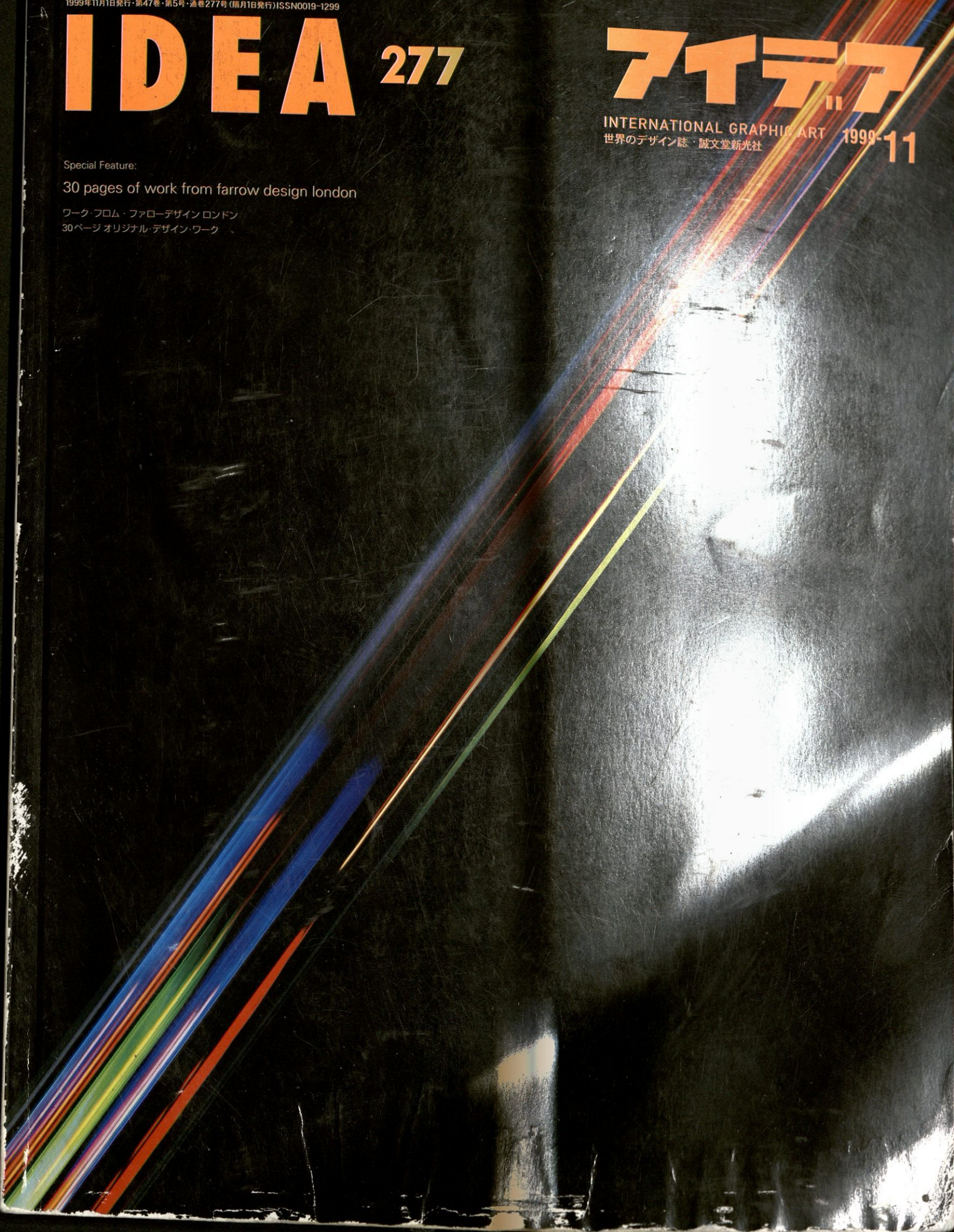
30 pages of work from farrow design london

ワーク・フロム・ファローデザイン ロンドン

30ページ オリジナル・デザイン・ワーク

アイデア

INTERNATIONAL GRAPHIC ART 1999-11
世界のデザイン誌 誠文堂新光社



ICC

INTERCOMMUNICATION CENTER

NTT
東日本

モーリス・ベナユン(フランス)
 近森 基(日本)
 ジャン＝マリ・ダレ(フランス)
 ケン・ゴールドバーグ＋
 ランダル・パッカー＋
 ヴォイツェ・マトゥーシク＋
 グレゴリー・クーン(アメリカ)
 ペリー・ホバーマン(アメリカ)
 エドゥアルド・カック(ブラジル)
 マーティン・リッチズ(イギリス)
 ダグラス・エドリック・スタンレー(アメリカ)
 スタジオ・アッサーロ(イタリア)
 グラハム・ワインブレ(イギリス)
 Maurice BENAYOUN (France)
 CHIKAMORI Motoshi (Japan)
 Jean-Marie DALLE (France)
 Ken GOLDBERG and
 Randall PACKER and
 Wojciech MATUSIK and
 Gregory KUHN (USA)
 Perry HOBERMAN (USA)
 Eduardo KAC (Brazil)
 Martin RICHES (UK)
 Douglas Edric STANLEY (USA)
 Studio Azzurro (Italy)
 Grahame WEINBREN (UK)

ICC

BIENNALE '99 | Interaction

「ICCビエンナーレ」とは、メディア・アートの分野における新しい表現の可能性を追求し、優れた新人の発掘・育成・支援を目的とした隔年ごとに開催される指名制による公募展です。

ICC

ビエンナーレ '99 | インタラクション

1999年10月15日(金)－11月28日(日) NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

ギャラリー A,D(一部作品はギャラリーBに展示されます) 開館時間:10:00am-6:00pm(金曜日のみ9:00pmまで) 入館は閉館の30分前まで
 休館日:月曜日 入場料(常設展入場料含む・税込):一般800(600)円/大高生600(450)円/ 中小生400(300)円 ()内は15名様以上の団体料金、シアターは無料
 主催:NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー4階 京王新線 初台駅東口から徒歩2分
 お問い合わせ: ☎0120-144199 E-mail:query@ntticc.or.jp URL:http://www.ntticc.or.jp/

フォント自体

Adobe Acrobat 4.0 日本語版でフォントのエンベット(埋め込み)が可能

文字のアウトラインデータが抽出可能

MORISAWA FONT

●NewCID低・高解像度ATMフォント発売中 ●OCFフォントの販売中止
 時期：2000年2月末 ●OCFフォントのサポート中止時期：2001年7月末
 ●NewCIDへの無償バージョンアップ対象品のバージョンアップ申込受付
 期間：2000年2月末 ●NewCIDへの有償バージョンアップ対象品のバー
 ジョンアップ申込受付期間：2000年7月末 ●NewCIDフォント価格：
 低解像度用1200dpi以下＝¥29,000(ATM含まず)／高解像度用1201
 dpi以上＝¥229,000(低・ATM含まず)／ATM専用版＝¥20,000

フォントの
インストールを
簡素化

字体置き換え機能
(JIS83、JIS78、
旧字体等)を搭載

**NEW
CIDへのバージョン**

**アップの申し込みを
ただ今受け付け中**

1台のMacintoshで
OCFフォントと
の共存ができ
識別が可能

マルチメディアへの
対応可能

なシステムで、CD-ROMやインター
ネット等での電子配信にも対応で
き、無駄のないデータ活用が可能

メモリ
容量の
消費を
少なく
抑える
ことが
可能

CID対応アプリケーション及びプリンター
を併用することにより、最高の
**パフォーマンス
を発揮**

未来を担うモリサワフォント

●毛筆のなごりを
残しながらも彫刻刀の
刃を左右のハライや点に
生かしたスタンダードな明朝
体「リュウミンファミリー」
●シャープな線率の太明朝体
「太ミンA101」●格調と風格の見
出明朝体「見出ミンMA31」●スタ
ンダードな中ゴシック体「中ゴシ
クBBB」●人気のゴシック体「見出
ゴMB31」●筆の強さと美しさ
が調和した楷書体「新正楷書
CBSK1」●カジュアルでポップな
雰囲気のある丸ゴシック体「じゅんシリ
ーズ」●シンプルな骨格が生きる現
代的なゴシック体「新ゴファミリー」
●伝統的なゴシック体の風格を生か
しつつ、現代性を兼ね備えた骨太
な表情「ゴシックMB101ファミリー」
●親しみやすく読みやすい教育分
野のあらゆる書籍にお応えする「教
科書体ICAファミリー」●メディア：
2HD FD+CD-ROM(注：FDドライ
ブ、CD-ROMドライブが必要、但し
条件あり)●推奨システム：Power
PCプロセッサを搭載したMac-
intosh及びPower Macintosh/
漢字Talk 7.5以降または、Mac-
OS 8.0以降/32MBのRAM
／ハードドライブを備えた
Macintoshコンピュータ/
CD-ROMドライブ/
フロッピードライブ

わたしも地球のことを
考えています。



たとえば毎日目にするカレンダー。

しっかりと吊るせる強度や使いやすさはもちろん
使い終わってからのリサイクルや処理がしやすいように
金属やプラスチックを使わないとか、再生紙や自然にやさしいインクを使うとか
実はたくさん考えなければならないことがあります。
環境と資源を大切にするために必要なこと。ひとつひとつを考えて
DNPはさまざまな印刷物をつくっています。

大日本印刷株式会社

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町 1-1-1 TEL 03-3266-2111 (ダイヤルイン案内台)
DNPに関する情報はインターネットでご覧ください ● <http://www.dnp.co.jp/>

DNP
大日本印刷

環境にやさしいこと、それは私たちの「あたりまえ」です。

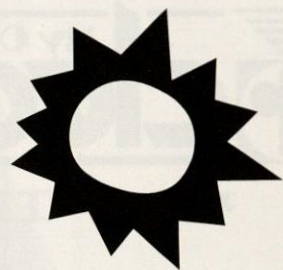
人間モノ環境

コミュニケーションをデザイン

デザイン学と医療福祉学の融合をめざす

メディカルデザイナーの

養成をめざして



「機能重視から人間(ひと)重視のデザイン」「バリアフリーデザイン」をキーワードに
ハンディキャップをもつ人の立場に立って人間環境をデザインする学科です。

グラフィックデザインやメディカルイラストレーションなど

人と人の円滑なコミュニケーションを図る視覚伝達デザインコース。

医療福祉施設や住宅など生活空間のインテリアデザインや

車椅子医療福祉機器などプロダクトデザインをする生活環境デザインコース。

医療福祉の総合大学としての恵まれた環境を活かし

人間として調和のとれた豊かな感性と高度な技術を身に付けた

デザイナーや医療福祉従事者の養成をめざします。

入試日程

- 特別入試——平成11年11月14日
- 推薦入試——平成11年12月5日
- 一般入試前期——平成12年2月6日
- 一般入試後期——平成12年3月16日

川崎医療福祉大学

Kawasaki University of Medical Welfare

医療福祉学部

医療福祉環境デザイン学科 [平成12年4月開設]

[視覚伝達デザインコース] [生活環境デザインコース]

701-0193 岡山県倉敷市松島288

TEL: 086-462-1111 [代] 086-464-1004 [入試係直通]

FAX: 086-462-1193

ホームページアドレス <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw>

設置学科

医療福祉学部

医療福祉学科

臨床心理学科

保健看護学科

医療福祉マネジメント学科

医療福祉環境デザイン学科

◎平成12年4月開設

医療技術学部

医療情報学科

感覚矯正学科

健康体育学科

臨床栄養学科

リハビリテーション学科

部屋を汚さない!

エアーブラシ洗浄容器



マイオリンポス エアーブラシ クリーンポット

- ブラッシング途中での色替えや
作業終了の際
エアーブラシの洗浄に
便利な機能を発揮!!
- 洗浄のために噴射する洗浄液,
残った絵具(色材)などは
すべてボトル内部に収容されて
室内に飛び散らない。



¥5,500.

送料・消費税別

■エアーブラシ・ハンドピース・ピースコン・ピースコンビー・ピースボン
■小型精密コンプレッサー・オリンポス アドコン

オリンポス 株式会社 ■本社 〒550-0014 大阪市西区北堀江1丁目1-26TEL:06-6543-6770/FAX:06-6543-6771
■本社工場 〒518-0411 三重・名張市滝之原大黒屋 1545 TEL:0595-68-3111/FAX:0595-68-3118

2000年 カレンダーシリーズ

2000 GOLDEN RETRIEVER calendar

本体1600円

●縦29.7×29.7cm

2000 LABRADOR RETRIEVER calendar

本体1600円

●縦29.7×29.7cm

2000 MINIATURE DACHSHUND calendar

本体1600円

●縦29.7×29.7cm

2000 MOON(月齢)calendar

本体1300円

●縦29.7×29.7cm

2000 水墨画 calendar

本体1500円

●縦29.7×29.7cm

2000 Herb calendar

本体1600円

●縦29.7×29.7cm

2000 子猫 calendar

本体580円

●縦15×17.2cm

2000 柴犬 calendar

本体580円

●縦15×17.2cm

2000 ハムスター calendar

本体580円

●縦15×17.2cm

2000 うさぎ calendar

本体580円

●縦15×17.2cm

2000年 年賀状シリーズ

2000 年賀状デザイン集

2000 年賀状カット集

2000 イラスト年賀状

2000 水墨画年賀状

2000 版画年賀状

2000 ファンシー年賀状

2000 年賀状アイデア集

2000 年賀状水墨画カット集

2000 多色刷り年賀状

本体各505円 *上より9点 ●A5判 ●各136頁

2000 年賀状データ集 CD-ROM版

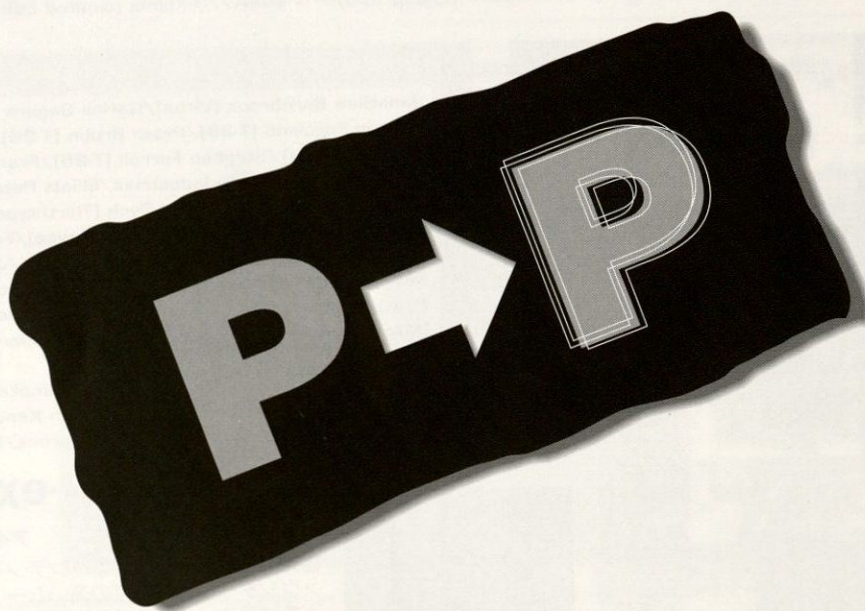
本体1500円

●B5判 ●72頁

水墨画塾 龍を描く

本体800円

●B5判 ●64頁



PrintingからPProducersへ

私たちは普通の印刷会社でした。

でもちょっとだけ調べることが好きでちょっとだけ印刷以外が得意でお客様のお役に立ってきました。だからいっそのこと社名から印刷会社を取り除き錦プロデューサーズ株式会社に変えました。

印刷から始まる“何作ろう”“どうしよう”に応え、予算を上手に活かせる会社です。ご相談下さい。

錦プロデューサーズ株式会社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-11 Tel.03-3291-1516 Fax.03-3293-4550 E-mail nsk002@mxm.mesh.ne.jp

当社は**アイデア**に協力させていただいております。 ●ご希望の方には、当社の会社案内をお送りいたします。

募 集

クリエイティブ部門拡大のため、お手伝いしていただける外部スタッフ(コピーライター、デザイナー、オペレーター等)を募集しています。
詳細は 錦プロデューサーズ株式会社 NCC事業部 TEL03-3291-7504まで

typography-eX [pt.00]

--What's New in Typography-- IDEA270 Remix [Limited Edition]



Jonathan Barnbrook [Virus]/Carlos Segura [T-26]/Erik... [T-26]
/Mário Feliciano [T-26]/Peter Bruhn [T-26]/Dirk Uhlen...
[Eyesaw Fontz]/Stephen Farrell [T-26]/Frank Heine [T-26]
/Edward Fella/House Industries/Elliott Peter Earls/P...
Makela/Rick Valicenti/Paul Sych [Thirtype]/Patrick G...
[Thirtype]/Magnus Rakeng [Thirtype]/Frank Ford
[Thirtype]/The Attik Design/Scott Clum/Joshua Berge...
Media]/Pete McCracken [Plazm Font]/Marcus Burlile [P...
Font]/Charles Wilkin [Plazm Font/Prototype]/Pablo Medi...
[Plazm Font]/Kyle Cooper/Jonathan Hoefler

--Active Typography--

Alexei Tylevich/Smoke and Mirrors
Productions Limited/Dylan Kendle/Jonathan
Barnbrook/David Carson

タイポグラフィ-eX [イー-エックス] >>>> pt.00

--タイポグラフィの行方-- アイデア編集部編
世界で活躍するインディペンデントなタイプフ
アウンダーに、注目度の高いムーヴィングタイ
ポをプラス。『タイポグラフィ-eX』第1弾とな
ったアイデア270号の待望のリニューアル!

A4変型判>>>114ページ>>>本体3000円

Size: 297×225mm / 114pages
Price per copy: ¥3000
ISBN4-416-69901-8

ID A
Special Edition

Shade Design Workshop

CD-ROM 付録 Windows版
Macintosh版

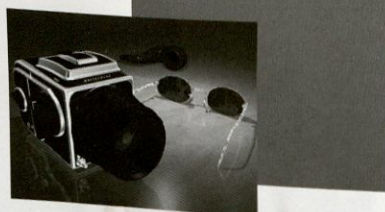
3DソフトShadeを
マスターする
実制作ノウハウガイドの
決定版!

Shadeデザインワークショップ 岩井庸之介 著



本体3000円
B5判●168ページ
ISBN4-416-19902-3

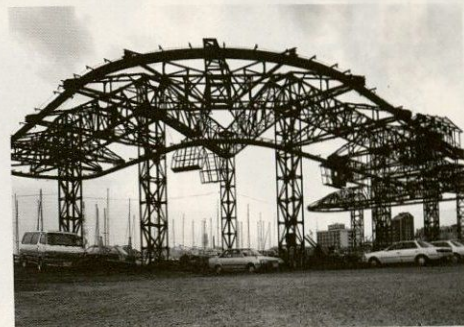
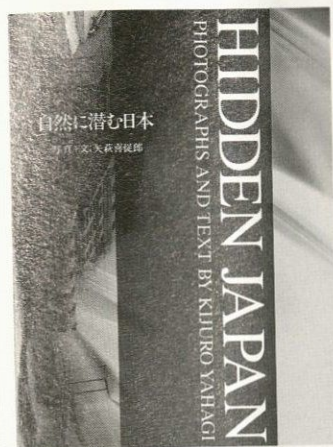
ソフトの機能と基本操作はもちろん、基本的な
形状、カットグラス、メガネ、バイク、カメラ、キャ
ラクターなどの作例の制作過程を詳述し、解説する。



『HIDDEN JAPAN-自然に潜む日本』

写真+文+デザイン: 矢萩喜徒郎 税込価格=7,800円 A4判
変/196頁/上製/箱入 撮下写真115点 新装版8月1日発売

無数の日本論から遠く離れ、矢萩喜徒郎は無意識の日本の地下水脈をすくいとろうとする。ここにあふれだしているのは、いまだかつて誰も撮りおさえたことのない多義的で、透明な日本の気配であり、夢のように震え、ざわめく日本という現象のたたずまいである。そこには驚くほど柔軟で、直感的で流動する視線が吸い寄せた未知の日本の多様な要素が鏡の王国のポリフォニーを清冽に奏でている。伊藤俊治



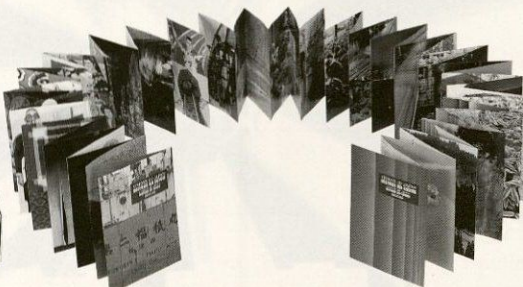
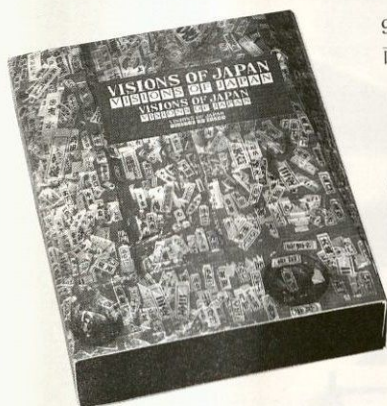
今年から国際交流基金の海外巡回展としても世界各地で開催されている。新しい視点から現代日本の自然を捉えた写真集

国際交流基金 海外巡回展 ツアー中

『VISIONS OF JAPAN』 ヴィジョンズ・オブ・ジャパン

企画+写真+デザイン: 矢萩喜徒郎
税込価格=12,232円 A4判変上製/箱入

94年以来、ロングセラーを続けるロンドンでのジャパン・フェスティバル展公式カタログ。根強い人気の稀有な日本紹介本。日本紹介写真集は両面で約24メートルに及ぶ壮大なパノラマ。日本文化に手で触れられる驚きの現物張り込み付写真版、23種とテキスト付の豪華三冊セット。



『FH Represent』 Recent Photo Essay Series

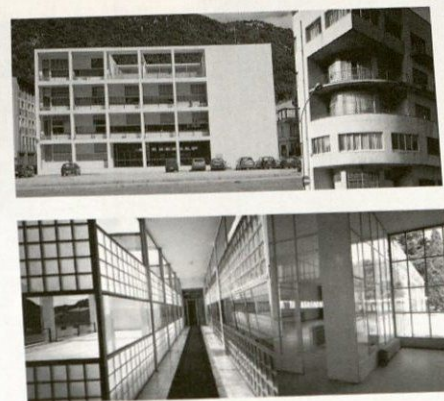
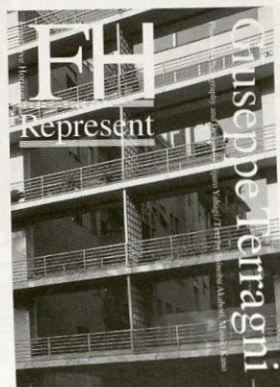
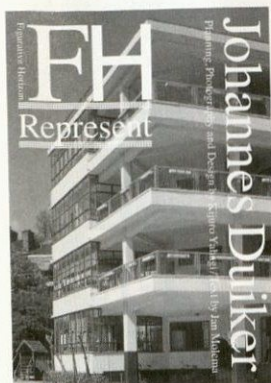
アー・ドウ・エス パブリッシングの建築シリーズ

『FH Represent 2/Johannes Duiker』 ヨハネス・ダイカー

『FH Represent 1/Giuseppe Terragni』 ジュゼッペ・テッラーニ

『オランダ新建築』のデメンション、国際様式との隙間

『イタリア合理主義』建築の光と影



企画+写真+デザイン: 矢萩喜徒郎 テキスト: ヤン・モレマ (デルフト工科大学教授)
税込価格=1,800円 並製・撮下し写真60点/図版12点・A5判変/56ページ オランダ近代建築運動の先駆者として著名なヨハネス・ダイカー [1890-1935]。ダイカー研究の第一人者モレマ教授のテキスト、日本ではじめて全体像を紹介した単行本。「新建築 住宅特集」「SD」他専門誌の書評 掲載。

企画+写真+デザイン: 矢萩喜徒郎 テキスト: 赤堀忍、鹿野正樹
税込価格=1,600円 並製・撮下し写真45点・A5判変/48ページ イタリア合理主義の巨匠ジュゼッペ・テッラーニ [1904-1939]の名作を網羅した、珠玉の建築作品集。
『新建築』『新建築 住宅特集』『建築文化』『a+u』『SD』など各専門誌の書評欄掲載。

ど真ん中をねえ！
求む、敏腕クリエーター。

作品募集

応募締め切り 1999年11月30日 火曜日(必着)

参加部門／一般部門：プロ・アマチュアを問わず、一般の方を対象に作品を募集します。学生部門：学生の方を対象に作品を募集します。
賞および賞金／グランプリ(1点)賞金200万円、一般部門・優秀賞(2点)賞金50万円ほか、学生部門・優秀賞(2点)賞金30万円ほか
応募要項、応募用紙の請求は切手120円分を同封のうえ、下記事務局宛に郵送してください。
〒104-0061 東京都中央区銀座1-6-11 土志田ビル4階 読売広告大賞「読者が創る広告の部」事務局 電話 03-3564-1357～8
インターネットでも情報を提供しています。http://www.yomiuri.co.jp/から「広告ガイド」をクリックしてください。

第16回読売広告大賞 読者が創る広告の部

■協賛企業 キヤノン販売株式会社 救心製薬株式会社 サントリー株式会社 株式会社 資生堂 株式会社 上越後楽園(東京ドームグループ)
財団法人 省エネルギーセンター 株式会社 スヴェンソン 住友海上火災保険株式会社 ダイムラー・クライスラー日本株式会社 チューリッヒ・インシュアランス・カンパニー
株式会社 チヨダ 東京通信ネットワーク株式会社 東宝株式会社 株式会社 豊島園 日石三菱株式会社 日本移动通信株式会社 株式会社 日本交通公社(JTB)
バイオニア株式会社 富士通株式会社 松下電工株式会社 丸美屋食品工業株式会社 三菱マテリアル株式会社 三菱レイヨン株式会社 株式会社 明光商会
明治乳業株式会社 名城大学 森下仁丹株式会社 ヤマト運輸株式会社 学校法人 読売理工学院 株式会社 リクルート(50音順)

主催 読売新聞社

contents

1999年11月1日発行(毎月偶数月10日発売)
第47巻6号・通巻第277号
定価2910円(本体2771円)
国内年間購読料19,790円(税・送料込)

Sept. 1999/Vol.47, No.277/Bi-monthly
Price per copy: ¥2771

For one-year overseas subscriptions,
Please inquire our sales agent directly. Nippan IPS Co., Ltd.
Fax: +81 (3) 3238-7944

発行人: 滝田 実
編集人: 吉田洋介
編集長: 小関 学
編集: 室賀清徳

発行所: 誠文堂新光社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-11
編集 / Tel: 03-5805-7763 Fax: 03-5805-7766
広告 / Tel: 03-5800-5757 Fax: 03-5800-5721
販売 / Tel: 03-5800-5780 Fax: 03-5800-5781

誠文堂新光社 ホームページアドレス:
<http://www.seibundo-net.co.jp/>

印刷所: 錦プロデューサーズ株式会社
大日本印刷株式会社

レイアウト: アイデア編集部

翻訳: 青木俊夫、日笠千晶、岩井恵美、奥田由恵
編集協力: 今竹 翠

Publisher: Minoru Takita
Editorial Director: Yosuke Yoshida
Editor in Chief: Manabu Koseki
Senior Editor: Kiyonori Muroga

Published by
Seibundo Shinkosha Publishing Co., Ltd.
3-3-11 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan
Fax: +81-3-5805-7766
e-mail: idea@tokyo.email.ne.jp

Printers:
Nishiki Producers Co., Ltd.
Dai-Nippon Printing Co., Ltd.

Layout: IDEA Editorial Staff
Translations: Toshio Aoki, Chiaki Hikasa, Emi Iwai, Yui Okuda
Editorial Cooperation: Midori Imatake

Cover Design: Farrow Design (UK)

小社発行の雑誌: アイデア・天文ガイド・子供の科学・MJ無線と実験
農耕と園芸・フローリスト・愛犬の友・囲碁・水墨画塾・陶工房

ご注文は下記販売部までお願いします。
誠文堂新光社 販売部 Tel: 03-5800-5780 Fax: 03-5800-5781

〔注〕本誌からの複写を希望される場合は日本複写権センター
(Tel: 03-3410-2382)にご連絡下さい。

Special Feature

010 30 Pages of Work from
Farrow Design London

特集: ワーク・フロム・ファローデザイン ロンドン
30ページ オリジナルデザインワーク
Design + Layout: Farrow Design [010-039]

049 PAUL ELLIMAN

Keep a clear head and always carry a lightbulb
ポール・エリマン いつも頭はスッキリと、いつも頭上に電球を
Text + Layout: Paul Elliman

064 MANHATTAN TRANSFER
Beyond the Visual Effect

マンハッタントランスファー
ポストプロダクションの現状と展望

076 CSA Plastock®
Living in the Plastic Age

CSAプラストック 一誌上プレビュー
Text + Layout: Charles S. Anderson Design Company

088 YASUhide KUGE
The Realistic Tone - from the series CLINIC

久家靖秀 リアリスティック・トーン
—シリーズCLINICより
Editorial Cooperation: Masayoshi Nakajo
編集協力: 仲條正義

084 Series: TADANORI YOKOO -Source Vision of Design [vol.5]
連載: 横尾忠則—デザインの原ヴィジョン [第5回]

付録 SHINRO OHTAKE: Serial Bound - in Magazine Supplement -Part 5
大竹伸朗「連載とじ込み付録パート5」

105 News & Information ニュース&インフォメーション

- 110 CSAプラストック 誌上プレビュー 日本語解説
- 112 エキシビジョン・レコメンデーション
大阪DDDギャラリー「スコット・マケラ WIDE OPEN展」
- 114 Exhibitions 一展覧会案内
- 116 Book Review Recommendation
ブックレビュー・レコメンデーション



30 pages
of work
from
farrow design london

Released
08 03 99

Available on
2xCD and 12"

Orbital

Style

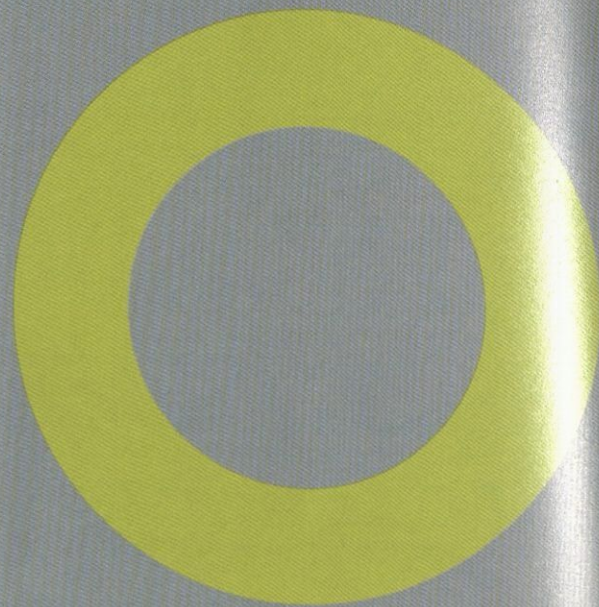


Released
05 07 99

Available on
2xCD and 12"

Orbital

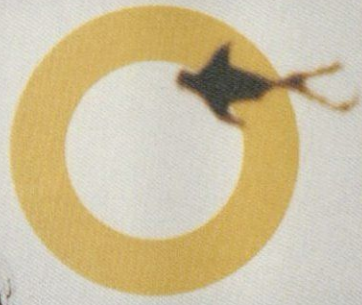
Nothing
Left





The Middle
Of Nowhere

Orbital



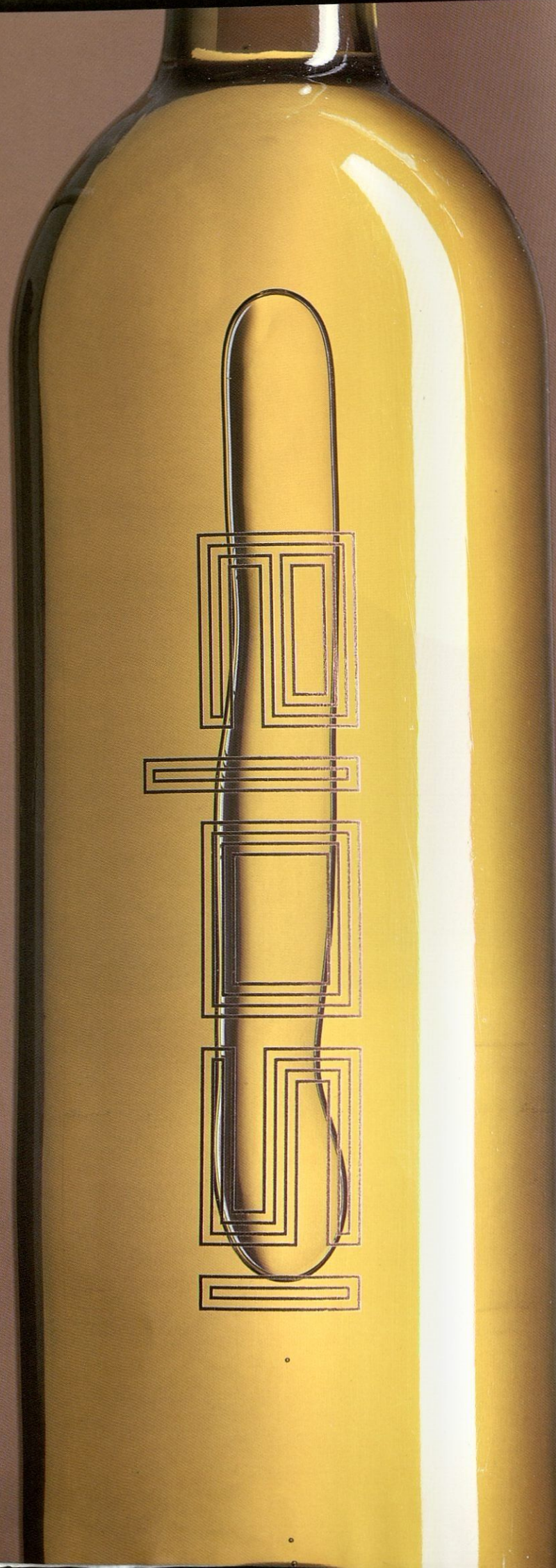
Coins & Cards

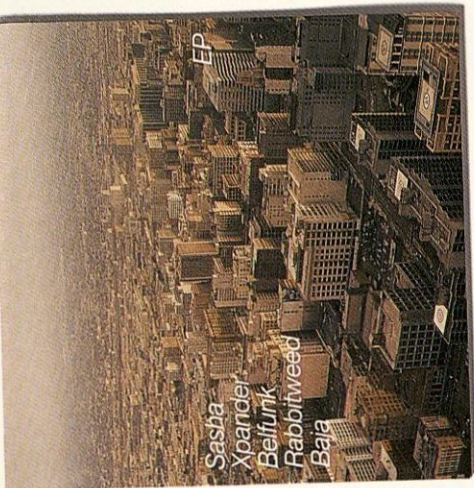
Coins & Cards

EXAM
NOTE

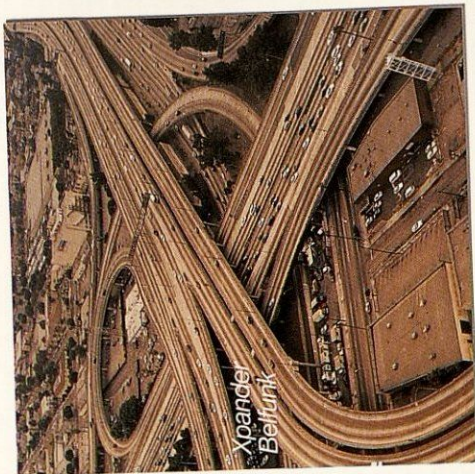




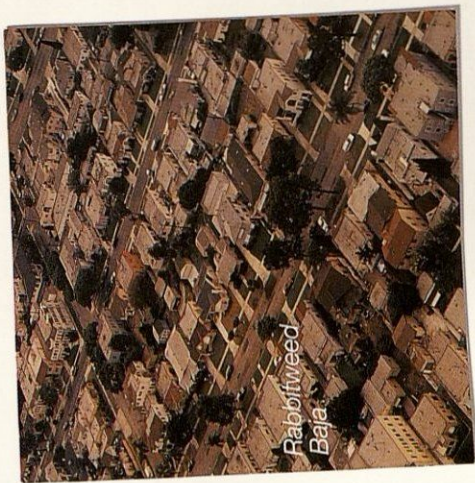




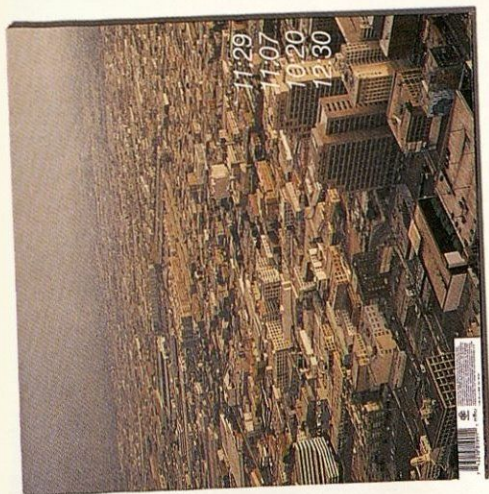
Sasba
Xpander
Belfunk
Rabbittweed
Baja
EP



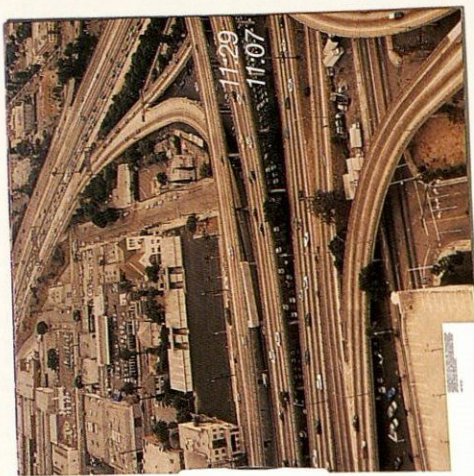
Xpander
Belfunk



Rabbittweed
Baja



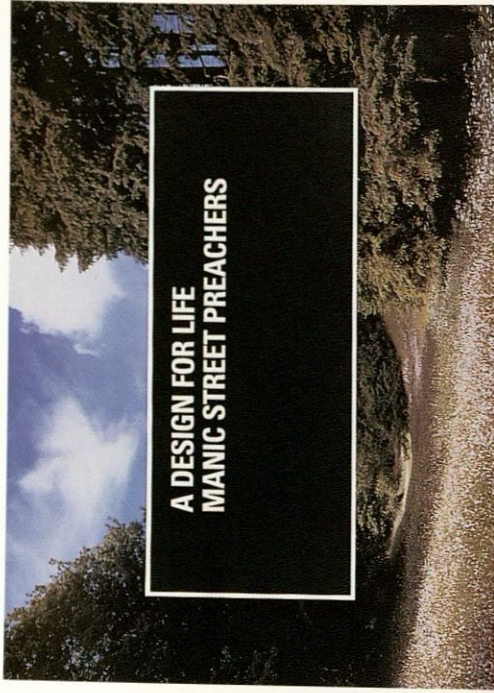
11:29
11:07
10:20
12:30



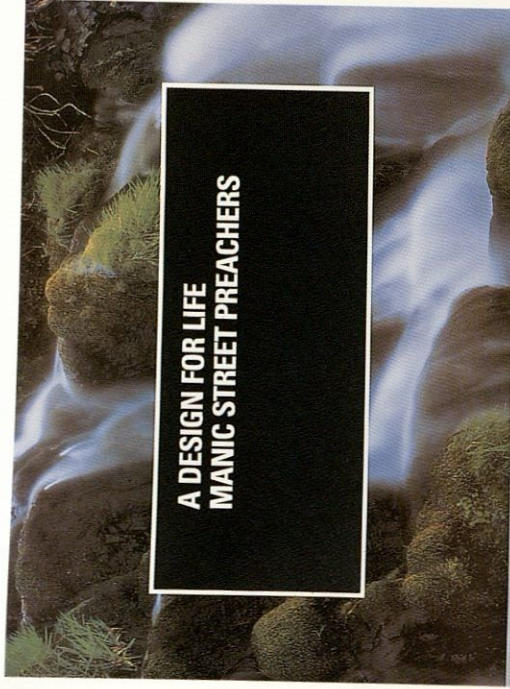
11:29
11:07



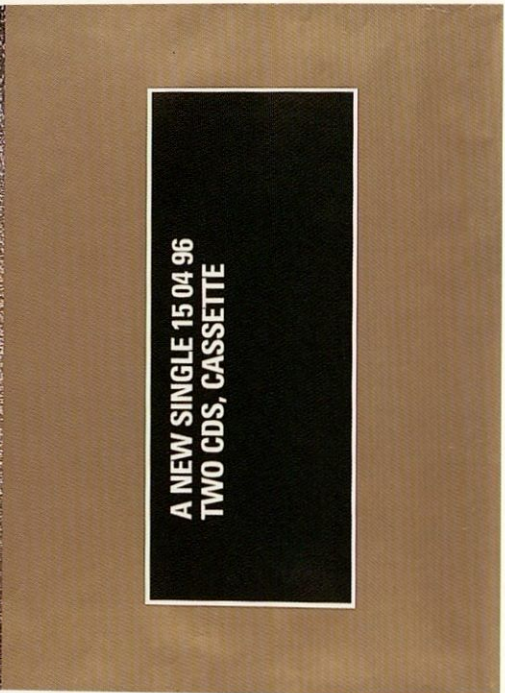
10:20
12:30



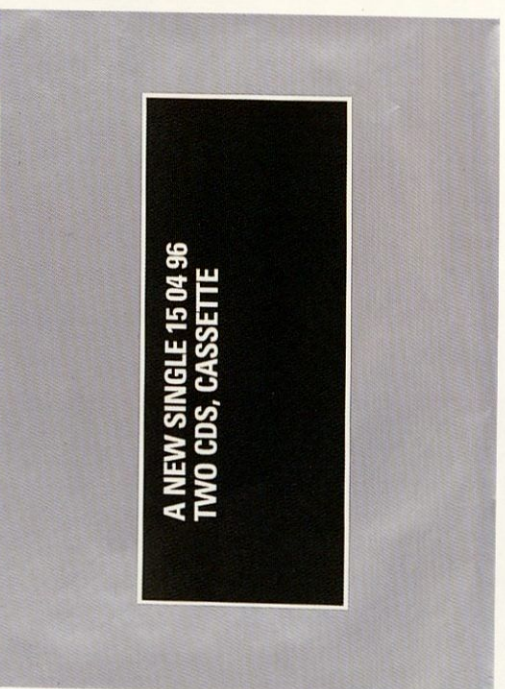
**A DESIGN FOR LIFE
MANIC STREET PREACHERS**



**A DESIGN FOR LIFE
MANIC STREET PREACHERS**



**A NEW SINGLE 15 04 96
TWO CDS, CASSETTE**



**A NEW SINGLE 15 04 96
TWO CDS, CASSETTE**

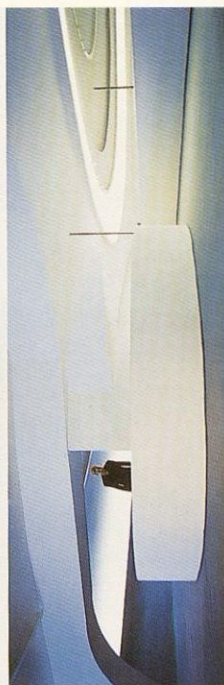
home[™]

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ßfi!i?[]\^_+==><?underline
↕↗@#i\$%^_+==><?underline

home 51°30'N 0°02'W london[™]
home 33°52'N 51°25'W suph[™]
home 40°42'N 73°58'W new york[™]



abc ***



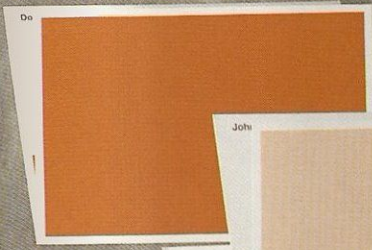
The new single
Stranger things 10/03/97



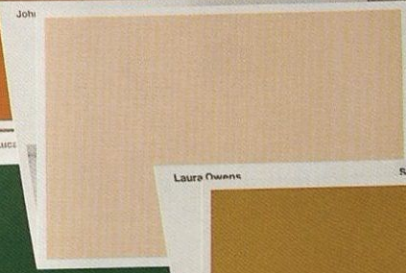
VIVID DREAMS RISE UP
INCLUDES REMIX BY ORIGIN UNKNOWN
03 06 96

Dave Clarke Archive one

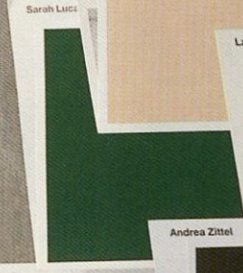
Break seal for access



De



Joh



Sarah Lucas



Laura Owens

Sadie Coles HQ



Richard Prince

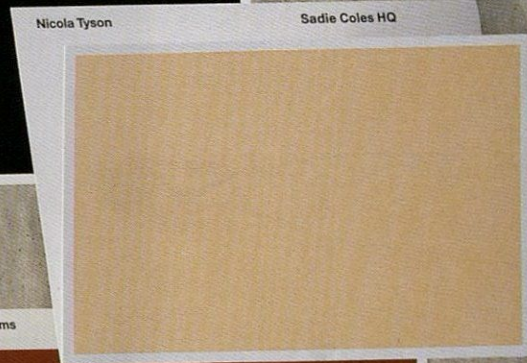
Sadie Coles HQ



David Powell



Andrea Zittel

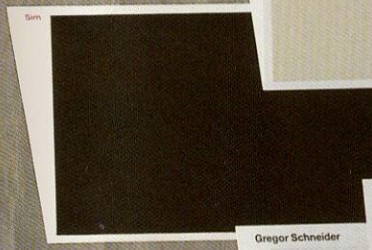


Nicola Tyson

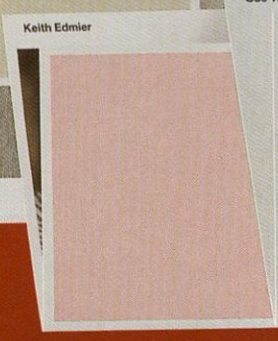
Sadie Coles HQ



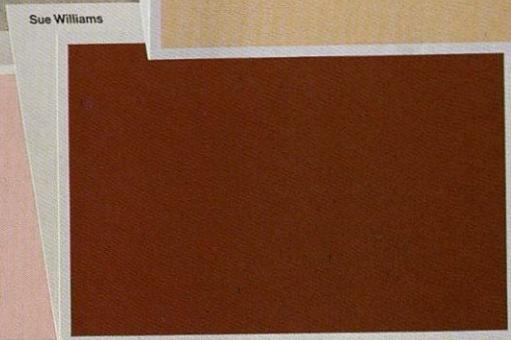
Saul Fletcher



Sam



Keith Edmier



Sue Williams



Daniel Oates

Gregor Schneider



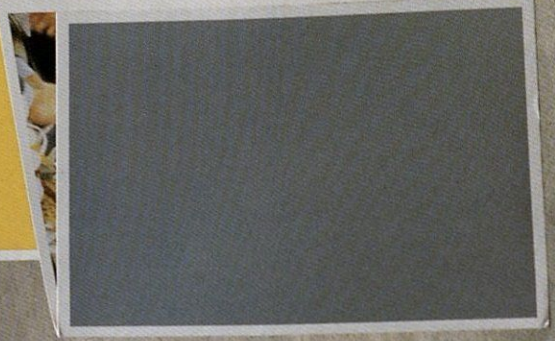
Angus Fairhurst

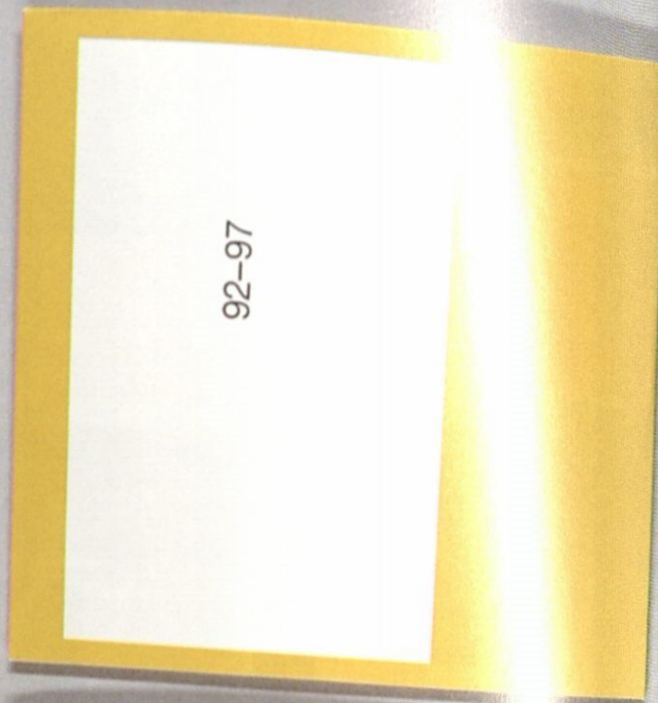
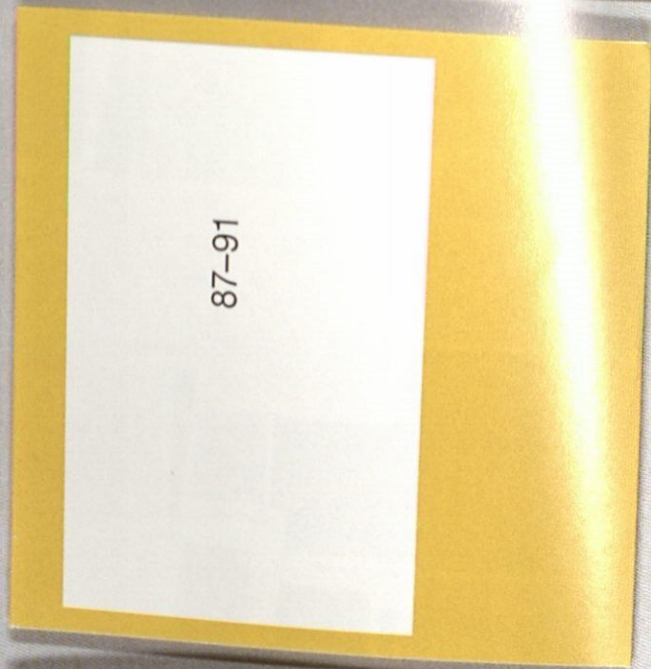
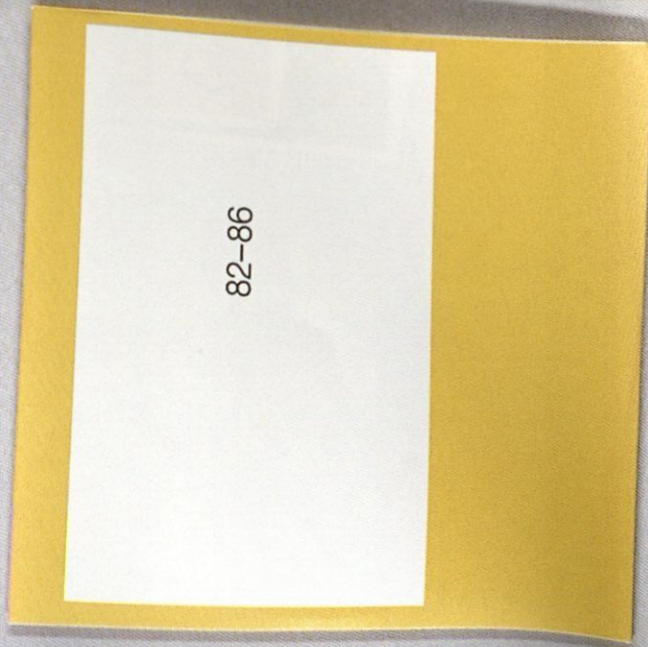
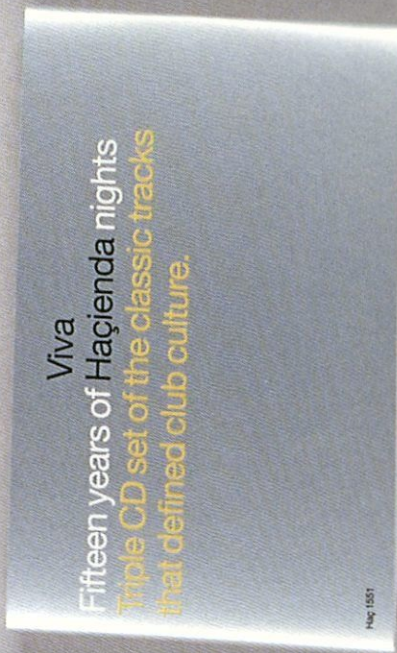
Sadie Coles HQ



Elizabeth Peyton

Sadie Coles HQ







THE MANIC STREET PREACHERS
OFFICE: 0171 278 9070
FAX: 0171 278 9071
E-MAIL: info@manicstreetpreachers.co.uk
WWW.MANICSTREETPREACHERS.CO.UK



WARNING

WARNING

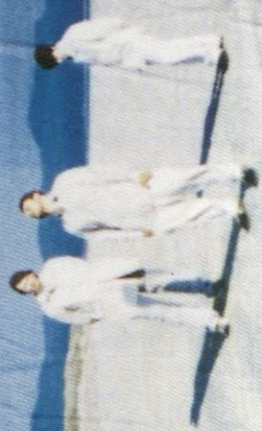
THIS IS MY TRUTH TELL ME YOURS
MANIC STREET PREACHERS



SEPTEMBER 14

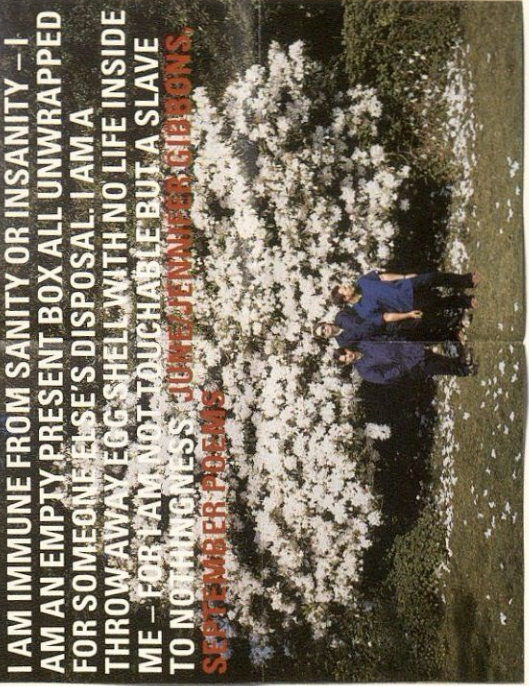
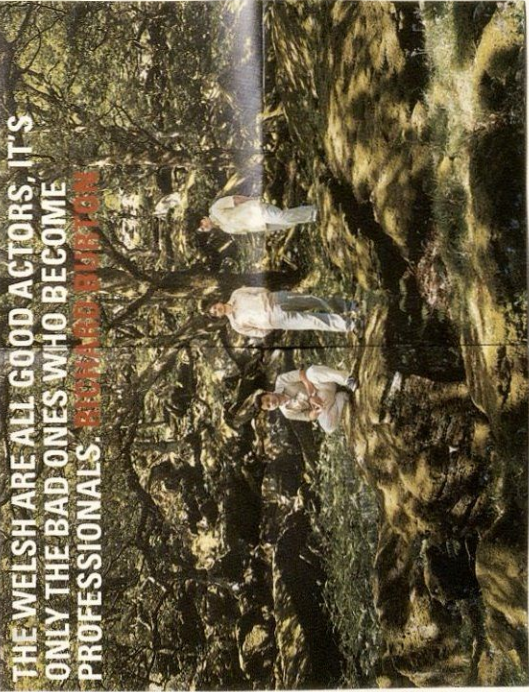
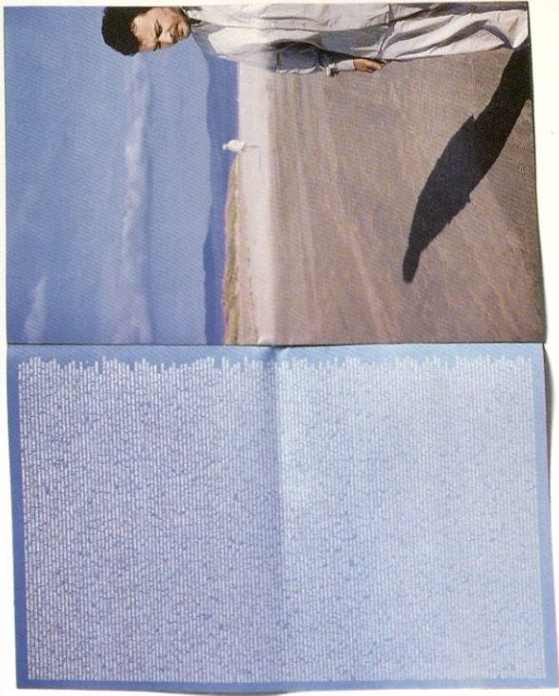
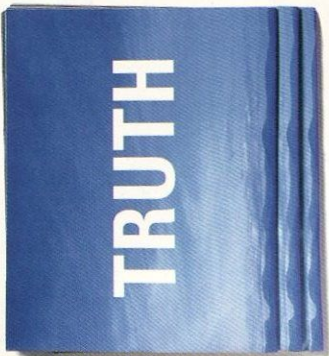
NEW ALBUM INCLUDES THE HIT SINGLE 'IF YOU TOOK ME TO YOUR TOILET' THIS YOUR CHILDREN WILL BE NEXT

THIS IS MY TRUTH TELL ME YOURS
MANIC STREET PREACHERS



SEPTEMBER 14

NEW ALBUM INCLUDES THE HIT SINGLE 'IF YOU TOOK ME TO YOUR TOILET' THIS YOUR CHILDREN WILL BE NEXT



I AM IMMUNE FROM SANITY OR INSANITY - I
AM AN EMPTY PRESENT BOX ALL UNWRAPPED
FOR SOMEONE ELSE'S DISPOSAL. I AM A
THROW AWAY EGG SHELL WITH NO LIFE INSIDE
ME - FOR I AM NOT TOUCHABLE BUT A SLAVE
TO NOTHINGNESS. **JUNE/JANUARY GIBBONS,**
SEPTEMBER POEMS



Promo 98

This compilation © 3 ©
1998 Deconstruction Ltd.
Promo only not for resale
Farrow Design

All featured tracks will appear
on Deconstruction, Dedicated,
Concrete, Heavenly and Camp
-fabulous in the next year



deepdishjunkscience

0102.190209.280307.
160404.470507.1006
03.510707.520804.05
0906.521002.551110.
281205.161305.29

— deep dish

— junk science

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0307.10

— 0306.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

— 0804.05

— 0603.51

— 1002.55

— 0102.19

intro — morning wood

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0507.10

— 0906.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

— 0804.05

— 0603.51

— 1002.55

— 0102.19

the future of the future (stay gold)

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0507.10

— 0906.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

— 0804.05

— 0603.51

— 1002.55

— 0102.19

summer's over

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0507.10

— 0906.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

— 0804.05

— 0603.51

— 1002.55

— 0102.19

mohammad is jesus...

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0507.10

— 0906.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

— 0804.05

— 0603.51

— 1002.55

— 0102.19

stranded

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0507.10

— 0906.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

— 0804.05

— 0603.51

— 1002.55

— 0102.19

junk science

— 1110.28

— 0209.28

— 0707.52

— 0307.16

— 0507.10

— 0906.52

— 1305.29

— 1205.16

— 0404.47

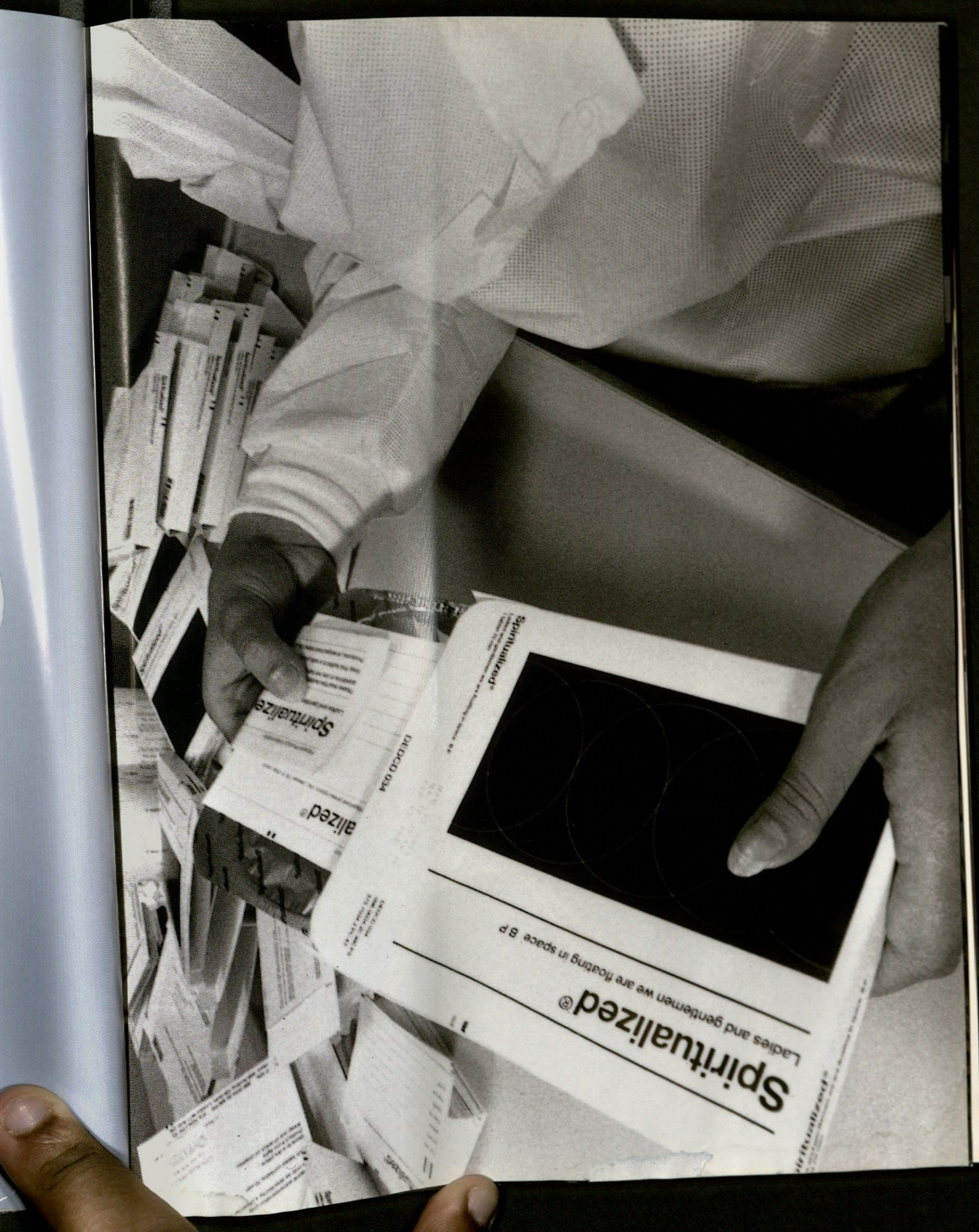
— 0804.05

— 0603.51

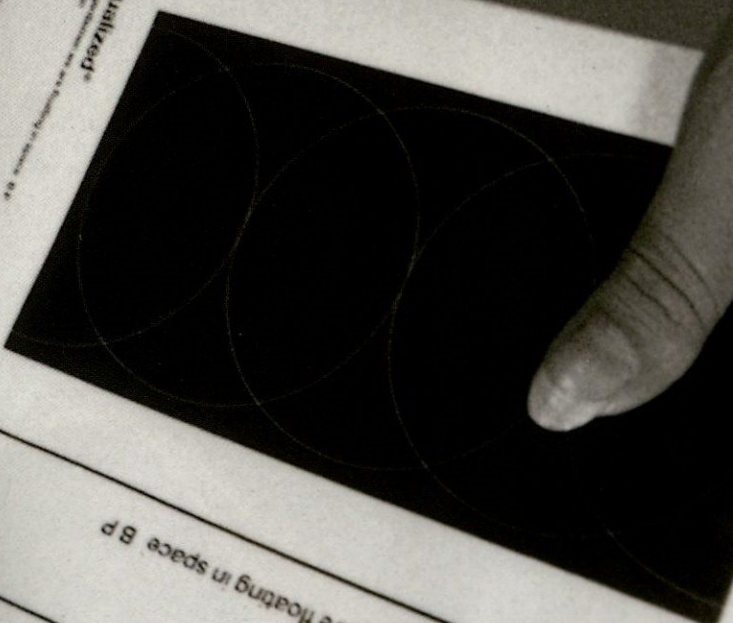
— 1002.55

— 0102.19





Spiritualized®



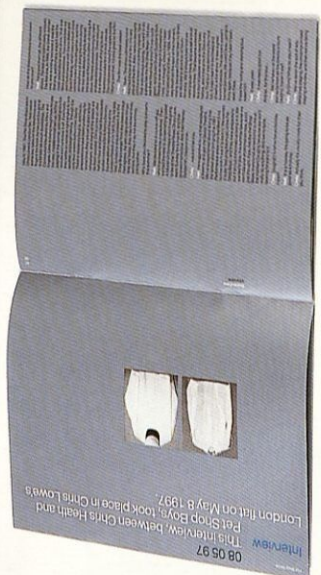
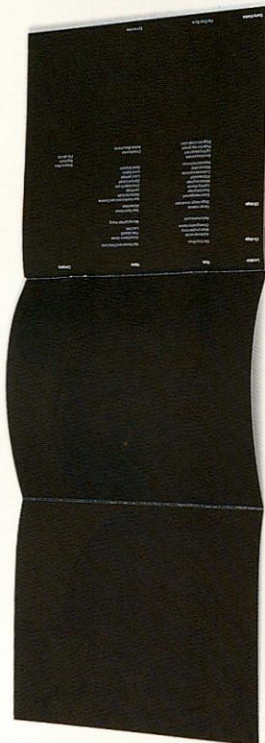
Ladies and gentlemen we are floating in space B P

Spiritualized®

DEEPCO USA

Spiritualized®

alized®



Quote
Christopher Sean Lowe
Because you said I had to find a cover version to do to release as a single to flog our album a bit more. [They both laugh.] I was listening to a tape I'd made of some of my favourite music at the time, and that was on it.

Profile
The artist Sam Taylor-Wood has made the films shown during the Pet Shop Boys and is responsible in collaboration with the Pet Shop Boys, for the overall composition of the stage design.

Interview
08 05 97
Pet Shop Boys, look place in Chris Heath and London that on May 8 1997.

הנה המסמך
המסמך המסמך
המסמך המסמך

STAN

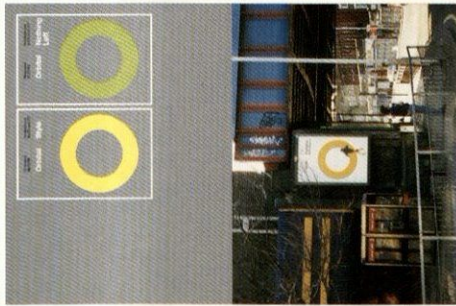
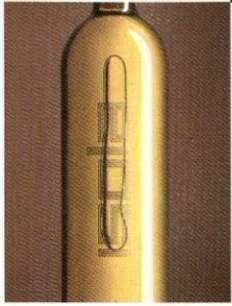


30 pages of work from farrow design london

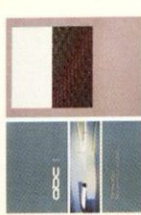
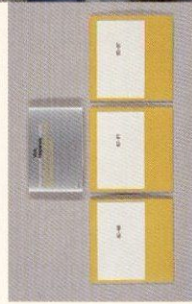
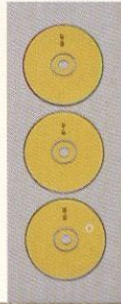
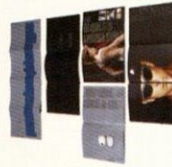
cover

10	12	14	16	18	20
11	13	15	17	19	21
22	24	26	28	30	32
23	25	27	29	31	33
34	36				
35	37				

cover home home corp elements from 'home' identity	14 manic street preachers epic records posters for the single a design for life.	20/21 viva hacienda deconstruction promo packaging for viva hacienda an album which presented a musical history of 15 years of the famous manchester club.	28/29 spiritualized dedicated blister pack for ladies and gentlemen we are floating in space. all of the packaging took place in the sterile surroundings of a pharmaceutical plant.
page 6 muzik masters deconstruction / muzik magazine packaging for triple cassette and cd, each surface is covered in a different wood finish and was a deliberate move away from 'rave' graphics.	15 home home corp elements from 'home' an identity for a new global club concept. each venue is distinguished by its geographical grid reference. the identity is typographic and uses a typeface designed specifically for the project	22 manic street preachers epic records street fly poster for the album this is my truth tell me yours. photographer andy earl.	30/31 pet shop boys somewhere psbp pet shop boys played a season of shows in london's theatre land for which we developed a typeface which was used for a neon sign above the theatre and on the merchandise.
8/9 orbital orbital/london records middle of nowhere back lit poster. graphic versions of orbital single posters, for each release the colour of the 'o' changes.	16 cream birthday cream photograph from cream seventh birthday advertising showing the logo used as a party game. each advertisement that appeared used a different image. photographer valerie phillips.	23 truth valley boy tour book for manic street preachers. this was designed in a large format a3mm x 45mm. sold folded throughout the tour. photographer andy earl.	32/33 spiritualized dedicated packaging for the album live at the albert hall features an aerial photograph of london with the venue of the concert circled by a symbol of their logo. the logo was blocked in iridescent foil to echo the bands spectacular light show.
10/11 hujie hujie/booth-clibborn editions cover for a book about hujie minogue. hujie's arm appears life size on the slip case. this is the first full book we have designed and is out in october. cover photograph john ross.	17 abc blatant / deconstruction poster for the single stronger things. photograph taken in museum of art contemporanea, designed by oscar niemeyer. brazil. photograph andy earl	24 music conference cd deconstruction a promotional cd featuring acts signed to deconstruction records. all of the information is printed in fluorescent green directly onto the cd box.	typeset in home roman © 1999 farrow design
12 isola gruppo olive oil bottle featuring the logo from a new restaurant identity which opens in the autumn in london. isola means 'island' in italian.	17 vivid dreams deconstruction poster for the single rise up	25 matches gruppo a selection of matches from various restaurant identities.	
13 sasha deconstruction double 12" packaging for sasha on deconstruction records. photographs of los angeles by nick clogue.	18 archive one deconstruction sealed cd packaging which is accessed by tearing a perforated orange strip.	26/27 deep dish deconstruction cd packaging for the album junk science. the track numbers and times are represented by the depth of the coloured liquids in each test tube. this numerical code was also used for promotional items. photographer john ross.	farrow design are mark farrow jonathan jeffrey gary stillwell nick tweedle pack photography john ross
	19 sodie coles hq sodie coles identity for sodie coles hq an art gallery in london. invitations to each show contain an image by the artist who also picks the colour for the outside of the card.		



30 pages
of work
from
farrow design london

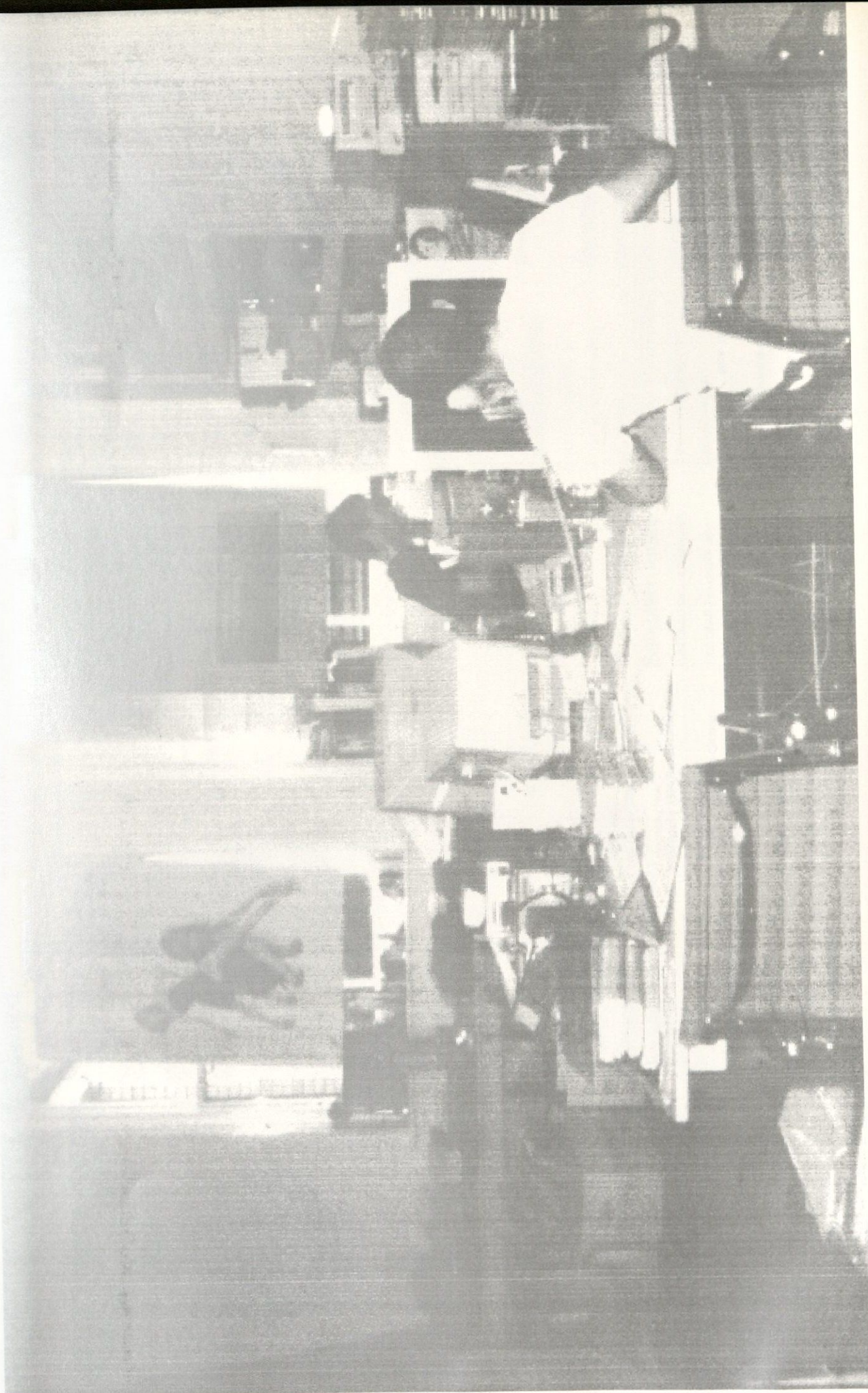




cf. IDEA
No. 250 "Design X"
No. 263 "Post Chaotic but Pre Chaotic Design"

1995 -05
1996 -07

Afterword for Farrow Design

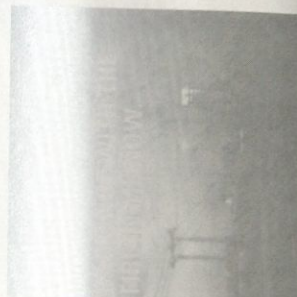




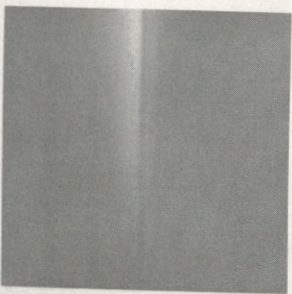
ANTHONY HOPKINS



WILLEM DE KOOIJING



SAMUEL BECKETT



MANIC STREET PREACHERS
YOU STOLE THE SUN FROM MY HEART



MANIC STREET PREACHERS
TSUNAMI



FRANCIS BACON

PAINTING IS STRONGER
THAN I AM - IT MAKES
ME DO WHAT EVER IT
WANTS



PABLO PICASSO



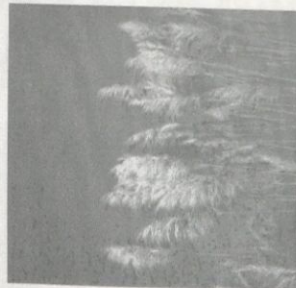
MANIC STREET PREACHERS
THE EVERLASTING



MANIC STREET PREACHERS
TSUNAMI



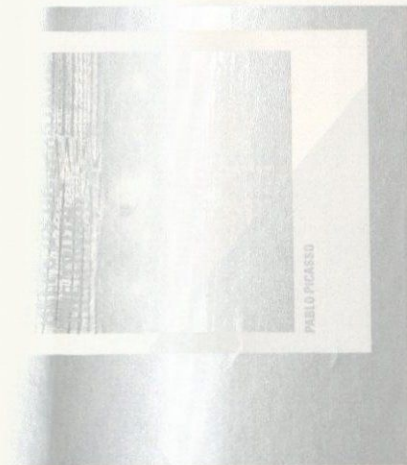
MANIC STREET PREACHERS
THE EVERLASTING
OUR CHILDREN WILL BE NEXT



MANIC STREET PREACHERS
THE EVERLASTING



TED HUGHES



Manic Street Preachers
CD outer + inner sleeve

666345 2 / 666345 5
666686 2 / 666686 5
666953 2 / 666953 5
667411 2 / 667411 5

If You Tolerate This Your Children Will Be Next
The Everlasting
You Stole The Sun From My Heart
Tsunami

Designed by Farrow Design

Polaroids by
Nicky Wire
666345 2 / 666345 5
666953 2 (inner) / 666953 5 (inner)

Mitch Ikeda
666686 2 / 666686 5
667411 2 / 667411 5
666953 2 (outer) / 666953 5 (outer)

Orbital
The Middle Of Nowhere

556 076-1
07314 556 076-1(1)

Minimalist or post chaotic. Many discourses on Farrow Design went around. Their work has often been referred to as one of the counter forces against the chaotic design, which accompanied with the digital revolution in terms of both industrial and aesthetic aspect. For past several years, almost all the discourses about graphic design were/still has been talked on the basis of the structure of confrontation between order and chaos. But those discourses are apparently getting to be out of date and a kind of Mannerism has come after the fuss. Now is the time for judgement on the real merit of Design. "I like to think our work transcends graphic fashions. So our work may be 'Post Chaotic' but it is also 'Pre chaotic'." once explained Mark Farrow. Now the situation is just as he expected. As you see, Works from Farrow

ミニマリスト、あるいはポスト・カオティック。ファローデザインを巡ってはすでに多くの言説が存在する。彼の仕事は今までデザインの産業的、美的デジタル革命に伴うカオスとオーダーの対立構造の言説の中で、カオスに対抗する力の一つとして語られてきた。もちろん、ファローだけでは足りない。凡そすべてのグラフィックデザインはこの言説に巻き込まれ(た)ている)。そして、グラフィックデザイン界を巡るカオスの波はとうやうや過ぎ去った。以後のマニエリスモ (manierism) が蔓延する現在こそ、デザインの力の真価が問われるときではないだろうか。数年前ファローは「私たちの作品がグラフィックデザインの流行を超えたところにあるものだと思いたい」と語っていた。果たして、その言葉は真実であつたようである。Farrow Designのデザイン・ワークにはある種のユニバーサルティがあることを、冒頭の30Pは語っている。

Design proves universality beyond chaos and order.

Minimalism in their work may be the most popular topic. They often adopt a technique of variation, making difference and repetition especially in series of CD covers as seen in those of Manic Street Preachers. Although every one of them is a simply finished piece, it makes a certain exquisite composition when collected altogether. More element of the set, more delicate whole it would be.

On the other hand, he bring surprising idea into a sole work; the jacket of Spiritualized imitating an aspirin tablet, Dave Clarke's inventive paper package and so on. There consistently exist the microcosmos of series and permutation and the perfect monus in their world of design.

しばしば言われることであるが、彼の仕事はミニマルである。例えばマニック・ストリート・プリチャーズその他のシングルに顕著であるように、一つのシンブルなフォーマットをベースにして、差異と反復のヴァリエーションを繰り返す手法を彼はしばしば用いる。一つ一つの構成に際さないデザインが複数組そろふことで、さらなる全体のコンポジションが立ち現れ、集合の要素が増えるほど、より豊かな全体になる。その一方で、彼は一点物の仕事では意外なアイデアを導入する。SpiritualizedのCDでは錠剤のパッケージを模し、Dave Clarkeでは独創的な紙パッケージを使用した。彼のデザイン世界には連続と順列によって形成されるミクロコスモスと、完全なるモノスの両者があ

る。また、彼の作品はCDのみならずポスターにしろ、冊子にしろ、それがどんなに平面のものであっても、決してイメーシングだけが遊離してくることはな

い。例えば、単一に並べられたインクの色は紙に根

Moreover, images in their work don't separate from the medium. For example, color which is evenly painted all over is stuck to the paper and the whole graphic image never converge in the representation. It is neither an illusion nor object and has the retentive character between material and idea. But their design is released into our world at the point that we are pleased with it.

It makes us happy, after all.

Mark Farrow, a founder of Farrow Design, started his career as designer in early 1980's when he worked for Factory records and club Hacienda in Manchester his born place. In 1986 he moved to London and worked with XL records and Deconstruction label, where he began designing for Pet

を下ろして、グラフィックが何かの表象として、我々の概念に回収されることはない。物真と概念の間にある像の維持性という点で、存在性を発揮している。それが印刷されている物、体一たいは紙だが一を含めて、いずれも、オブジェというよりテクスチャー感において、持っていて嬉しくなるようなパッケージジである。嬉しくなる。なるほど、完成された彼のデザインはその点に置いて、我々に解放されてくる。

Farrow Designの創設者、マーク・ファローは1980年初頭、出生地マンチェスターのファクトリーレコード、及びハシエンダというクラブの仕事からキャリアをスタートさせた。彼は初めてのジャケッデザインでD&AD賞を受賞する。1986年、ロンドンに仕事の場を移した彼はXLレコードやデコンストラクション・レーベルの仕事を手がけはじめ、Pet Shop Boysをはじめとする多くのミュージシャンの仕事に関わっていく。その頃知り合ったメンパーランドとFarrow Designの

Shop Boys. Around that time, he teamed up the antecedent of Farrow Design which was founded several years later.

Their studio is now located in a building on St. Portland Street, Oxford Circus. On the ground floor, there are bar/restaurant MASH which Farrow Design undertook its graphic identities. It immediately proves Farrow Design's ability and possibility to whoever visit there.

This summer, I fortunately had an opportunity to visit their studio. The atmosphere in the studio was slightly keen and all the members worked seriously. Farrow Design must be one of the busiest studio which I have seen in London.

For my impudent request to show some unreleased experimental works, they kindly showed me an identity project for a F-1 racing team; painting on car, uniforms and

前身となるチームを組み、現在に引き継がれている。現在、ファローデザインのスタジオはロンドンの繁華街、オックスフォードサーカスはグレートポートランド・ストリート沿いのビルにある。一階には彼らがアイデンティティ関連のデザインをしたカフェ/バー「MASH」が入っている。白とオレンジを基調にしたこの店の上が、数々日のオレンジを基調にしたこの店の上が、数々の創作の現場である。ファローデザインはCDのみに留まらない。むしろCDは彼らの全体活動のあくまでも一環なのだ。何でも直観的に面白いことが彼らの信条である。チームとして、それぞれのタレントが上手く生きていることの証でもある。

この夏、彼らのスタジオを訪れる機会があった。半年ほど前に越してきたという彼らのスタジオは、4人を収容するには十分なスペースで、こざれいにまとまっている。締め切りが近いせいか、ちょっとした緊張感に包まれていた。未発表の実験作品を見せてくれたの厚かましいお願

other goods. It is regrettable that I can't show it here and the project wasn't realized. But I was quite excited for their idea, ambition and range of interest.

Sitting at the window, Mark seemed to think something over and over in his head, drawing some rough sketch. On his desk, there were proof sheets of Kylie picture book which is published by Booth-Clibborn in

October. Its cover design will be an elaborate one. There are still many projects in progress; the identities for the club 'home' as seen in this article, new album campaign for Pet Shop Boys, and so on. The god of design seems not to have mind to give them rest for the time being.

(Ed. KM)

いに、彼らはF1レーシングチームのアイデンティティ・プロジェクト・プランを見せかけてくれた。残念ながらここではお見せできないが、黄色とグレイをベースにした優美なデザインで、ボディはもちろん、チーム・ユニフォーム、関連グッズまで丁寧にデザインされていた。このプランが実現しなかったことは我々にとっても残念だが、とにかくその着想は非常に刺激的だった。ファローは実際の席で通りを眺めながら、頭の中で猛烈にアイデアを練っているようであった。彼の机の上には、この10月にBooth+Clibbornからリリースされるカイリー・ミノーグの本の校正刷りが積まれている。この本は様々なアーティスト、デザイナー、写真家たちによるカイリーへのトリビュート作品集である。装丁はまた凝ったものになるらしい。他のプロジェクトとしては今回の表紙にも使われているクラブ「home」の為のアイデンティティデザインや、Pet Shop Boysの新譜その他多くが進行中である。当分、彼らに安息の日は訪れそうにない。(編集部 室岡)

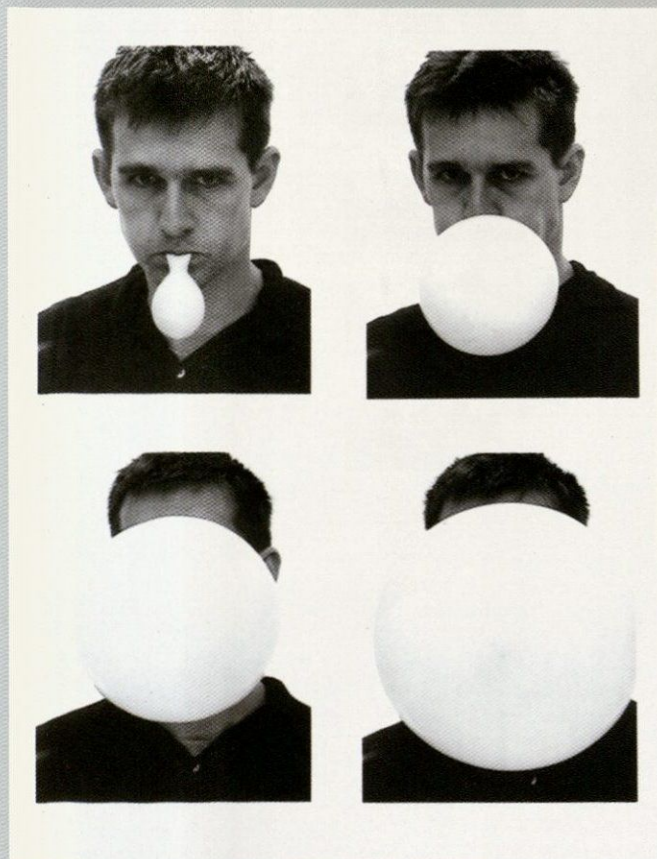
30 pages
of work
from
farrow design london

cover	10	12	14	16	18	20
	11	13	15	17	19	21
	22	24	26	28	30	32
	23	25	27	29	31	33
	34	36				
	35	37				

cover home home corp	home corpのためのアイデアディティザインのエレメントを用いて構成	19 home home corp	新しいローバルなクラブのコンセプトを表すhomeのマークを構成するためのエリメント。各ダンススペースは、それぞれにラベルされた着目状の区切りで識別される。このマークは、タイポグラフィであり、また、このプロジェクトのためにオリジナルで作成されたカスタムタイプフェイスを使っている。	24/25 viva hacienda deconstruction	マンチエスターの有名なクラブ「ハシエンダ」の15年間にわたる音楽の歴史を収めたアルバム「Viva Hacienda」の宣伝用パッケージ	32/33 spiritualized dedicated	プリストルパック(タブレット状)の裏面にプラスチックで包装し台紙に張りつけた後に仕上げたspiritualized Ladies and Gentlemen we are floating in spaceのパッケージ。 製品工場の無断ですべての包装工程が行われた
page 10 muzik masters deconstruction/muzik magazine	三枚組セットとCDのためのパッケージ。それぞれ違った材質の木(目)のイメージを使って表紙を仕上げた。流行的「グラフィックアート」からの計画的脱却。	20 cream birthday cream	Creamのロゴマークがパーティのゲーム(Twister)として使われるシーンを描画した。Cream誕生7周年のための広告。写真: 爆発の広告。それぞれ違った画像を使用している。写真担当はValerie Phillips。	26 maric street preachers epic records	アルバム「This is My Truth Tell Me Yours」の街頭広告用「Tシャツ」。 写真はAndy Earl。	34/35 pet shop boys somewhere psbp	フロアデザインが動いたオリジナルタイプフェイスを組んだネオンサインと商品に使用しているロンドンのシアターランドで、Pet Shop Boysは活発にコンサート活動を行った。
12/13 orbital orbital/london records	Middle of Nowhere 2000年ポスター、個々のOrbitalのポスターの、それぞれ0の色を変えたグラフィックアート版。	21 abc blatant/deconstruction	シングル「Stranger Things」のためのポスター。Oscar Niemeyerデザインによる、ブラジルのMuseu de Art Contemporaneaで撮影された。 撮影担当はAndy Earl。	28 music conference cd deconstruction	Deconstruction Recordsのための宣伝用CD。すべての情報は、薄るような緑色で直にCDのケースに印刷されている。	36/37 spiritualized dedicated	彼らのロゴを記号にしてコンサート開場を囲ったロンドンエリアの航空写真を用いた。彼らはAlbert Hallのバックステージ、彼らの大がかりな光のショーを反映して、その口舌も虹色の指に閉じ込められたものになっている。
14/15 hujie hujie/booth-cliborn editions	Kylie Minogueについての本の表紙。本の外箱にKylieの顔が複数枚で映されている。フロアデザインがデザインを手がけた。初めの本。(小冊子やパンフレットではない、いわゆる「本」として。) 10月発売。 表紙写真担当はJohn Ross。	21 vivid dreams deconstruction	シングル「Rise Up」のポスター	29 matches gruppo	これまで手掛けた色々々なストランのマーク入りのマッチ	typeset in home roman ©1999 farrow design	
16 isola gruppo	ロンドンに今秋開店予定のレストランのロゴをあしらったオリーブオイルのボトル。Isolaは、イタリア語で「島」を意味する。	22 archive one deconstruction	封印されたCD(パッケージ)。ミシン目の付いたオレンジ色のストリップを破って開封する仕組みになっている。	30/31 deep dish deconstruction	アルバム「Junk Science」のCDパッケージ。曲の番号と時間は、試飲書の中の色のついた液体の深さで表示される。この番号体系は他の宣伝用マテリアルにも使われている。写真担当はJohn Ross		
17 sasha deconstruction	Deconstruction レコードから発表されるSashaの二枚組12インチCDのパッケージデザイン。Los Angelesの写真はNick Dagelによる。	23 sodie coles hq sodie coles	ロンドンのアート・プロジェクト「Society One」のロゴ				

**Keep a clear head and
always carry a lightbulb.**

Paul Elliman



Self-portrait

Paul Elliman

Born London, November 5, 1961

He grew up on the outskirts of Liverpool

Joined City Limits Magazine collective in 1984.
He worked on production of the weekly London
city guide, became art director of Wire magazine,
1986-88

Took a few years off

Working again, independently, and teaching part
time, 1992

Spent one year teaching at the University of Texas
in Austin, 1994-95

Opened a studio in London, 1995-97

Joined the design programme at Yale in 1997

Currently living in New Haven, Connecticut,
teaching at Yale, 1999

ポール・エリマン

1961年10月5日ロンドン生まれ。リヴァプールの町は
ずれて育つ。

1984年、『City Limit Magazine』誌のスタッフに参加。
週刊ロンドンシティガイドの編集を務める。
1986年～1988年まで『Wire』誌のアートディレクター
を務めた後、数年間仕事から離れる。

1992年、仕事に復帰。臨時で講師も始める。

1994年～95年までの一年間、オースチンのテキサス大
学で教鞭を執る。

1995年～97年、ロンドンにスタジオを開く。

1997年、エール大学でのデザインプログラムに参画。

1999年現在、コネチカット州ニューハヴン在住。

エール大学で教鞭を執る

**From Luther
to Popper**

Translated by Joris De Bres

**Herbert
Marcuse**

**Critique Of
Dialectical
Reason**

VOLUME ONE

**Jean-Paul
Sartre**

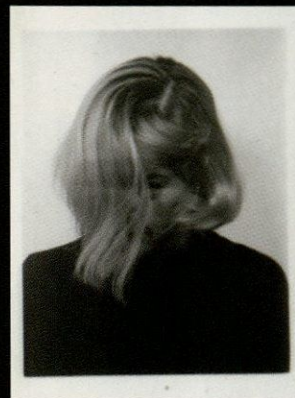
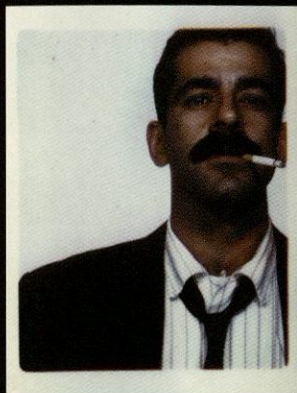
Theory of Practical Ensembles



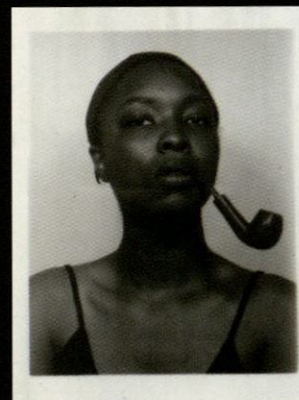
1-2: Too much type: The type on this series of book covers (for Verso/ New Left Books, London, 1988) was chosen blindly from a selection of about fifty typefaces. I wasn't quite working with a computer yet - although I had a Macplus - and I remember the typesetter being quite proud of the range of fonts, whereas I was really confused. I decided to improvise a system that would sort of neutralise them all. It wouldn't matter which were used... who cares? I decided on line-breaks and line-length for the jacket copy, and asked the typesetter to set each line to a point size that would fill the given length. I think they were reluctant to show me the result, maybe they thought a mistake had been made (maybe one had), but I was quite excited. Verso were horrified.

3: Not enough type: Typography could easily be included among the forms co-opted by the artist Andrea Fisher, whose work questioned the seamlessness of modernism. Certain items in her installations call attention to the same kind of authorising function that we expect from a typographical mark. A sheet of glass, for example, or a handrail, things that interrupt - marking the viewers distance - and yet also continue (and influence) any reading of the work. This catalogue (1991) for a show in London and Barrow-in-Furness included a series of images of Kuwaiti oil fires, re-photographed from news publications. If a picture crossed the spine of a magazine, the spine then took on a significant presence in Andrea's image. For the cover this seemed to me to be a strong enough gesture to replace the need for words, title, typography.

1-2: 多すぎる文字。この表紙 (Verso/New Left Books, London, 1998) の連作に使われている活字は約50種類の選択肢から無作為に選ばれた。それらの活字の種類は、その印刷所で利用可能なすべてということで、植字工が見せてくれたものだ。その頃僕は、マッキントッシュ・プラスを持ってはいたけれど、すべての仕事をコンピュータ上でやっていたわけではなかった。植字工が文字の種類が多さに自慢げだったことを覚えている。僕はすいぶん混乱してしまったけど。僕はこれらの字をすべて同列に扱うようなやり方で即興することに決めた。どれを使うのかなんて大した問題じゃない。誰か気にするというのだ。表紙の文字列の区切りと行間だけ決めて、植字工には各行の決めた長さをびったり埋めるような文字の大きさに合わせるように頼んだ。彼らは僕に仕上がりを見せるのをためらっていたようだった。たぶん、どこか失敗したと思ったんだと思う。(たぶんどこか失敗していたのかもしれないが。) でも、僕はとても興奮した。Versoは呆れていたけれども。

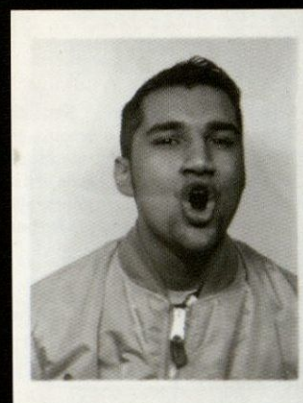


3: 文字の不足。タイポグラフィはAndrea Fisher (アーティスト) の作品領域に、たやすく組み込まれるだろう。彼女の作品はモダニズムの整合性 (seamlessness) に問いを投げかける。彼女のインスタレーションに使われている道具なかには、印刷された記号の権力性と同様なものへの注意を喚起するものがある。例えばガラス板や手すりといった遮蔽するもの。これらは見る者に距離を与えるが、作品の読みとりを許容し続け、読みとり方に影響を及ぼす。ロンドンとBarrow-in-Furnessでの展覧会のためのこのカタログには、報道資料から複写したクエートの石油火事の写真が収録されている。写真が本の背の部分にまで掛かる場合、この背はAndreaの作品的に意義をもつ存在となる。このカタログカバーにとって、そうすることは言葉、題名、タイポグラフィの必要性になりかわるには十分強力な振る舞いであるように思えたのだ。



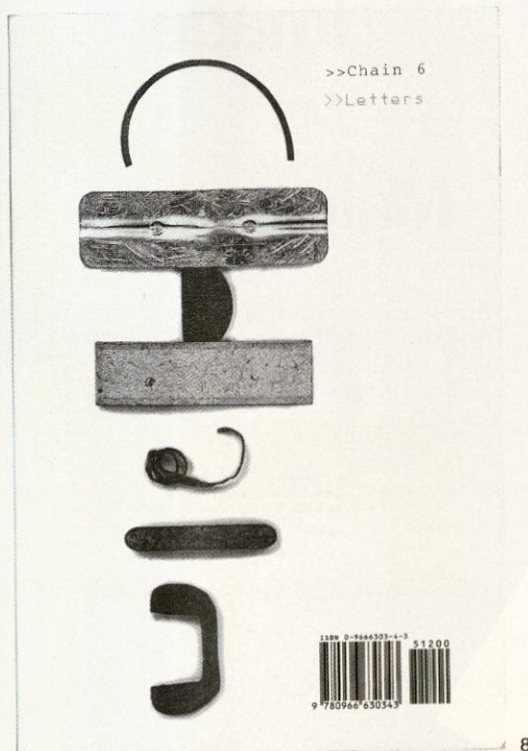
4-6: Rosemary Butcherと共作によるアルファベット (FUSE 5収録), 「Virtual Reality」(1992)

4, 5: 最初に構成された文字のかたち。二人の人物, Fin WalkerとMichelle Smithが背中合わせに、まるで逆立ちでもしそうだ。もしかしたらカシオペア座の並びをまねているのかも。この時はグラフィックデザイナーの仕事の可能性を広げてみようとした以外は、そんなに多くのディレクションをしなかったと思う。だからRosemary Butcher (英国のコリオグラファー。他のヴィジュアル・アーティスト達との共作で知られる。)と一緒に仕事をすることが必要不可欠だった。Fuseフォント「Alphabet」(6)も同時期の作品で、明らかにRosemaryとの仕事を通じた経験から生まれたものだ。僕はタイプフェイスのデザインはなんとなく避けてきた (他に選択の余地がない時は、今でもやるが)。僕は形態的、表現的、連想的など、様々な文字のかたちに向けて、より開かれた関係をもつ何かを始めてみたかった。Geoffroy Toryの文字の解剖学的類型学から、Dieter Rothがフルクサスでやっていたアルファベットのパフォーマンスまで、肉体をアルファベット記号の探求の最中に位置づける作品領域の範囲に、今はではもっと自覚的だ。僕は自分のウェブサイトでこういう何かを試してみるかもしれない。



1. Book jacket, *From Luther to Popper*, Herbert Marcuse. Verso/New Left Books, London, 1998
2. Book jacket, *Critique of Dialectical Reason*, Jean-Paul Sartre. Verso/New Left Books, London, 1998
3. Cover of a catalogue for Andrea Fisher, Gimpel Fils, London, 1991
4. Photograph from a collaboration with choreographer Rosemary Butcher, London, 1992 (b&w print, Nigel Shafran)
5. Frames from *Body as Site*, collaboration with Rosemary Butcher, Nottingham 1993 (photo: Mark Lewis)
6. Photobooth portraits (Y,S,B,Q,P,O) for Alphabet, font published by FUSE, London, 1992





8

7. Collection of pieces used for Bits, font published by FUSE, London, 1995 (Photo: Nigel Shafran)

8. Chain, journal published in U.S., 1999

9. Lost and Found, Critical Voices in New British Design, British Council, London 1999

4-6(Previous page): Collaboration with Rosemary Butcher and Alphabet, published in FUSE 5; Virtual Reality (1992).

4: First constructed letter forms: Two people, Fin Walker and Michelle Smith, back to back as if about to go into headstands, or perhaps mirroring the constellation of Cassiopeia. I don't think I had much of a direction at the time, other than needing to expand the more predictable role of a graphic designer. So working with Rosemary Butcher, a British choreographer known for her collaborations with other visual artists, seems now to have been indispensable. The FUSE font Alphabet (6) happened around the same time, and obviously came out of the experience with Rosemary. I sort of wanted to avoid designing a typeface (still do, although at times I seem to have no choice). I wanted to begin with something that had a more open relationship with the forms of language: figurative, expressive, associative, and so on. Now I'm much more aware of a range of work that situates the body within an exploration of alphabetical signs, from Geoffroy Tory's anatomical typology of letters, to Dieter Roth's fluxus performance of the alphabet. I might do something on my website about that.

7: Bits, published in FUSE 15; Cities (1995). Photograph of a character set, by Nigel Shafran. 8: Cover of Chain 6, Letters (1999), a journal published in the U.S.A. These "bits" were laid directly onto a photocopier. 9: Cover of Lost and Found, critical voices in new British design, catalogue for an exhibition organised through the British Arts Council (1999). Designed by Anne Odling-Smee and Stephen Coates.

You need to be able to make something from nothing; to be able to find the personal resources to do that. "Any problem can be solved using the materials in the room," said Edwin Land. Bits uses material found in the street. I know others with similar collections, and there's Claes Oldenburg's Ray Gun collection. Awesome. In my opinion typography has room for its own narrative structures. Bits, for example, was intended to be saying something about cities and their relationship with our language and writing systems. Maybe it could

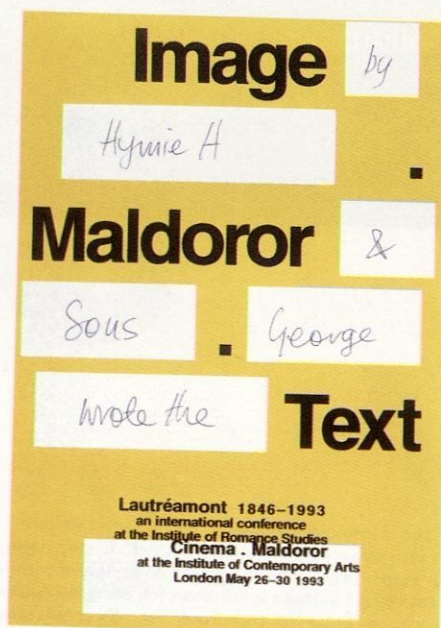
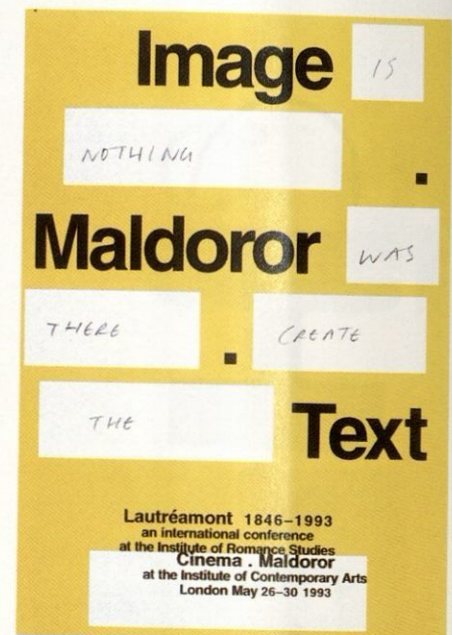
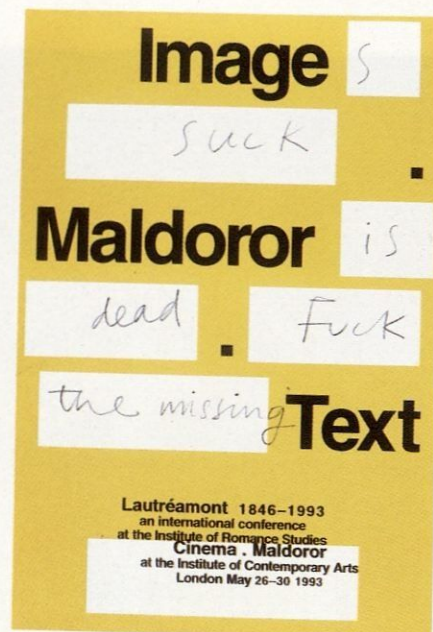


9

exist as a collection of industrial materials: "... pieces of die cast metals, heat resistant plastics, sections of zinc, polypropylene, chromium, butyl, PVA and perspex, samples of so-called 'memory plastics', a coil of black annealed wire, a disc of bright spangled galv..." As a functional character set I wanted it to somehow defy being regularised like a "proper" typeface. And - although I have little control over this - to a certain extent it defies being used, as if it came from a depressed but still beautiful part of the city.

7: Bits (FUSE 15 [Cities.] (1995) 収録)。文字組みはNigel Shafran撮影。8: [Chain6] 誌の文字特集号 (1999)。アメリカで発行されているテーマ文学年鑑。カバーデザインはJanet Zweig。これらの「小片」はコピー機に直接レイアウトされた。9: [Lost and Found-Critical voices in new British Design] 表紙。英国デザイン協会が主催する展覧会のカタログ。デザインはAnne Odling-SmeeとStephen Coates。

無から何かを創り出せるようになる必要がある。そして、そのための個人的な素材源を見つけられるようにもね。Edwin Land曰く、「すべての問題は部屋の中にあるもので解決することができる」と。「Bits」では道ばたで見つけた素材を使った。他にも同様な収集物の作品があることは知っている。Claes Oldenburgの「Ray Gun」誌での作品も。これはため息がでるよ。僕の意見では、タイポグラフィはそれ自身の物語構造を持つ余地がある。例えば、「Bits」は都市そして都市と我々の言語及び著述のシステムとの関係について何かを語っているように意図された。この作品は工業素材のコレクションとしても存在しうるかもしれない。ダイキャスト、耐熱プラスチック、亜鉛の断片、ポリプロピレン、クローム、butyl、PVAにバースベックス、いわゆるメモリーチップの見本、黒い針金のコイルに電気蒸着のキラキラひかる円盤・・・関数的な文字セットとして、僕はこれを「適切な」タイプフェイスとして規格化されることに頑として抵抗するものにしたかった。そして、これらそのものについて僕はほとんど操作不能であるが、確かに「Bits」はある程度までは使用されることに抗う。まるで、都市の陰鬱だが美しい所から生まれてきたみたいだ。



10-13

Two examples that share, both in theme and process, a kind of urbanism.

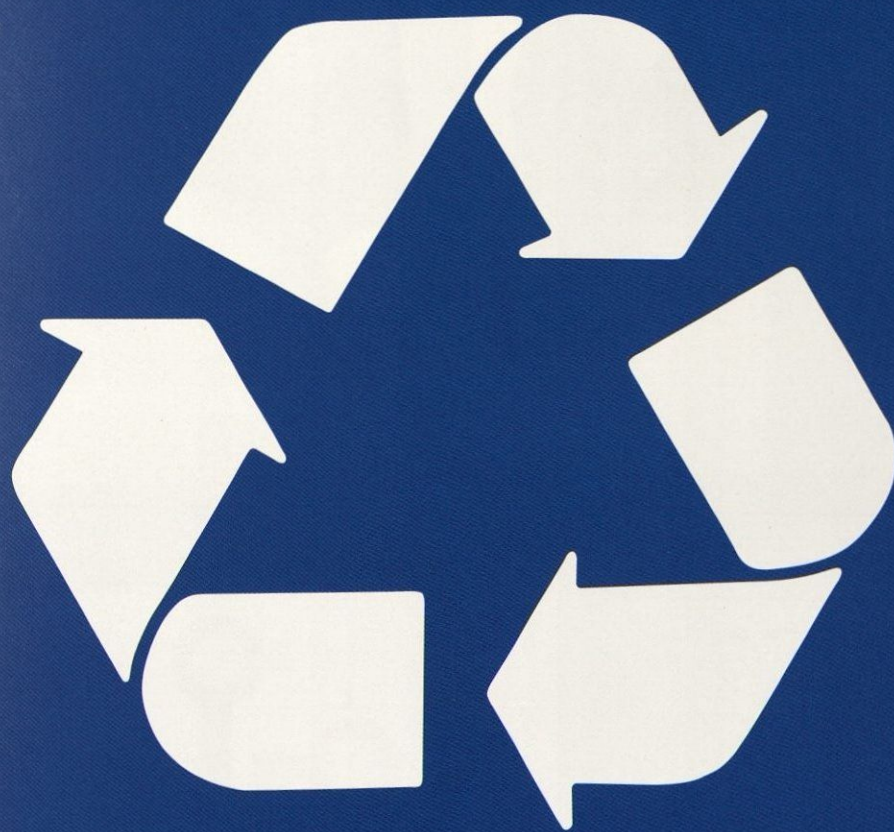
10-13: Poster for a conference on the 19th century French author Issidore Ducasse, held at London University and the Institute for Contemporary Arts (1993). For Ducasse - who published his work *Les Chants de Maldoror* under the name Comte de Lautréamont - every text conceals or suggests further readings. The poster negotiates this idea, allowing its own text to be corrected, disrupted, negated or simply left incomplete.

14: Graphic (T-shirt, poster/flyer, messenger bag etc) for cycling activists Critical Mass, a monthly gathering of cyclists in cities all over the world. Made by improving a New Haven recycling bin (1999). Both London and New Haven Critical Mass takes place on the last Friday of each month. Just a coincidence.

テーマと制作過程の両方において一種の都会主義 (urbanism) を共有する作例を2つ。

10-13 : 19世紀フランスの作家Issidore Ducasseについての会議のためのポスター。ロンドン大学、及びICAにて開催 (1993)。DucasseはComte de Lautréamontの名前で『Les Chants de Maldoror』(「マルドローールの歌」)を発表した。彼にとってあらゆるテキストは次にくる読解を隠蔽し、示唆するものである。このポスターはそのアイデアと連携して、文字面を補完して読ませたり、混乱させたり、消してしまったり、あるいは単に不完全なままにしたりした。

14 : Critical Massの為のグラフィックデザイン (Tシャツ、ポスター、チラシ、配達用バッグ)。Critical Massは毎月世界中の都市で開催されている、自転車乗り達の活動集会。ロンドンとニューハベンのCritical Massは両方とも毎月最終金曜日に開かれるが、これはただの偶然。



WE CYCLE

Critical Mass



15



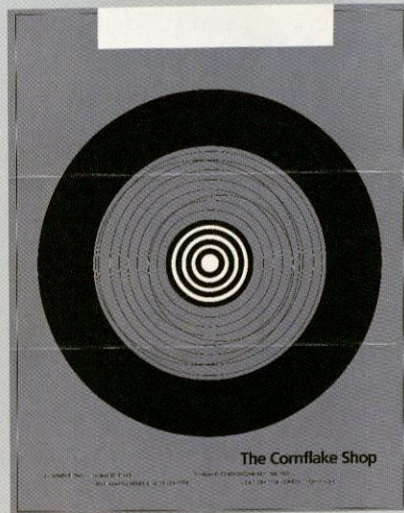
- 15, 16. Constructing a target with a record and a CD (Photo: Nigel Shafran)
 17. Ad for The Cornflake Shop, London, 1996
 18. Leaflet for The Cornflake Shop, London, 1995
 19. Brochure for The Cornflake Shop, London, 1995

The Cornflake Shop and Shoreditch Electricity Showrooms are examples of fairly regular graphic design practice. Both are based in London, the first is a consultancy for audio and video technology, the other is a bar and restaurant. The Cornflake Shop doesn't have a fixed "corporate" identity - I can't be fully trusted with those things - but I found the figure of a target by combining a record and a CD (15-16), and I've been exploring that for a while. The target is a common form, a kind of cliché really, which can be useful: it more or less opens up its own path of associations and readings. It's like a natural logarithm. Designers are expected to transform these signs into a trademark or logo - variations on the target are registered by quite a few companies. One of my targets (22) is a Cornflake C in the form of a copyright symbol.

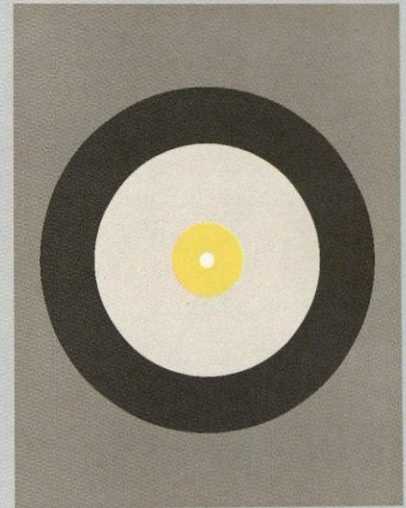
The Cornflake ShopとShoreditch Electricity Showroomsは至極普通のグラフィックデザインの仕事例。どちらもロンドンにあり、前者はオーディオ・ビジュアルのコンサルタント会社で、後者はレストラン・バー。The Cornflake Shopは決まった「企業」アイデンティティを持っていない。僕はそういうものに関しては十分信用されることができない。でも、レコードとCDを組み合わせて的の形になることを発見し（15-16）、しばらくの間色々試してみた。的はよくある形で、ひとつの紋切り型なのだが、有用な形である。多かれ少なかれ、的は連想と読解への道を開く。まるで自然対数みたいなものだ。デザイナーの仕事はこれらの記号をトレードマークやロゴに変えることである。的の形のヴァリエーションを登録している企業は極めて少ない。僕のつくった的形（22）のひとつは、コピーライトマークの形をしたCornflake ShopのCの字だ。



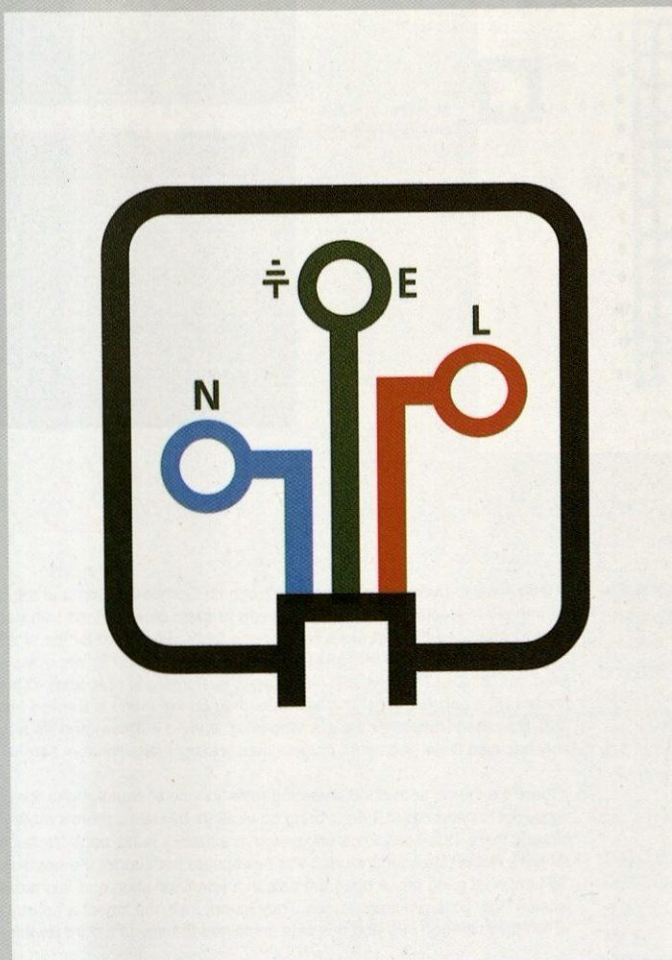
17



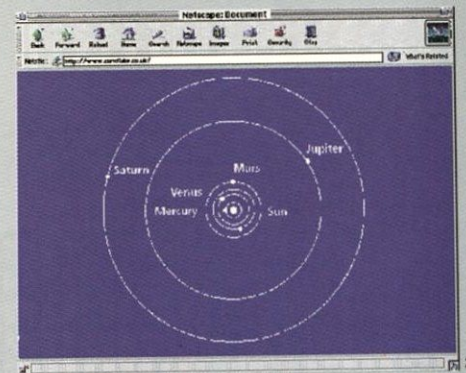
18



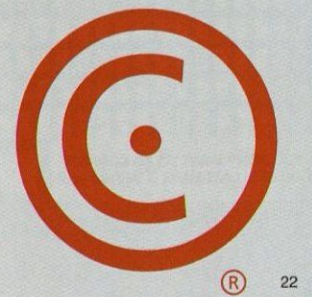
19



20



21

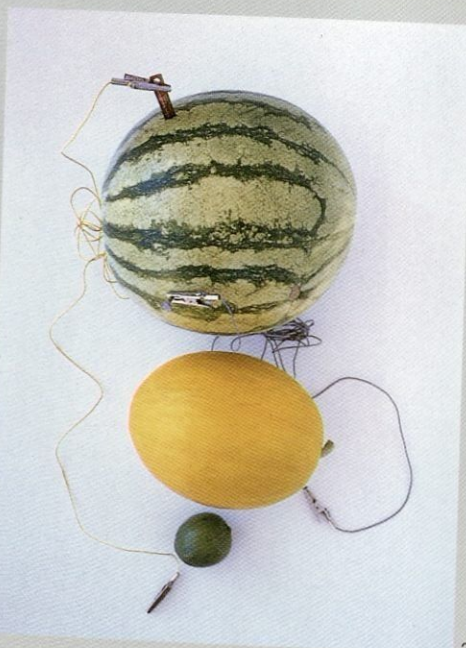


22

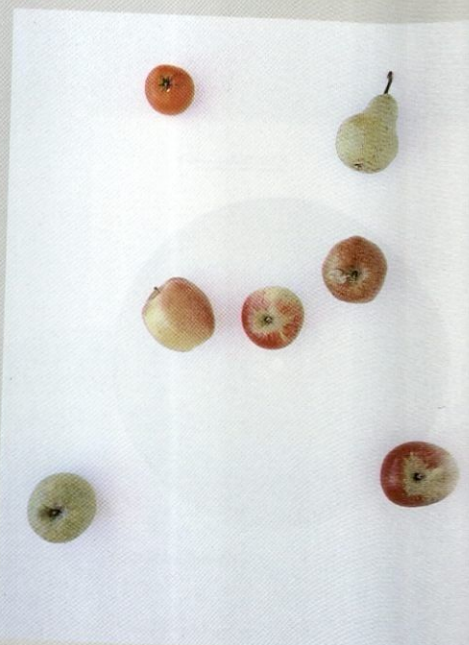
20. Christmas card for The Cornflake Shop, London, 1996
 21. Frontpage for The Cornflake Shop website, London 1999
 22. Graphic for The Cornflake Shop, London, 1998



23



24



Shoreditch
Electricity
Showrooms

348
Hoxton Square
London N1 6NU
Tel 171 739 6934
Fax 171 739 6451

If you would like something posted to our LED display sign, please fill in your news, messages or other information using the grid below - the sign is 12 lines x 32 characters. You're welcome!

FOR YOUR INFORMATION

IF YOU DON'T WANT US TO CORRECT YOUR SPELLING MARK X IN THIS BOX

Juice Bar
Restaurant
etc

26

Fresh Juices:
Orange, Apple, Grapefruit
Watermelon, Carrot: 2.80

Combo Mixers:
(With any juice) Strawberry
Raspberry, Pineapple
Passion Fruit, Banana: 1.60

27

Towerblock Demolition:
A towerblock on Nightingale
Estate, Hackney Downs, will
be demolished on Sunday
June 25 at mid-day

28

僕は両者ともに電気に関心を持っているという事実を本当のところ、もっと大事に扱わなければならない。僕はこの両者の間でアイデアを交換しようとして続けたが、まだ現実化には至っていない。前の年に一方の為にカードを作成したら、今度はまたもう片方にも作成するとか、そういったことだ。果物の図像はジュース・バー・カウンターの向こうにあるファスト・フードの照明ディスプレイケースの一部だ(23-25)。この記入用紙はお客さんにバーのLED掲示板上にメッセージを投函してらうためのもの(26)。メニューに使われている書体はその電光掲示板上からとった(29)。この書体は掲示板のプログラムを組んだ男の名にちなんで「Dave」と呼ばれている。少しばかり風変わりに見えるのは、ただDaveが今まで小文字のアルファベットをプログラムしたことがなかったから。

もし、ここになんらかのテーマや方法論があるとしたら、状況それ自体によって目の前に放り出された形体と構想で作業するということだ。僕はそんなに多くの素材を机の上にもこまない。たいいてい必要な材料はすでにそこにある。しかし一皮剥いてみたり、違った見方をしたりという必要はある。プレッソンはその著書「Note on Cinematographer」の中で、「まず行動を起こせ」という見出しの下にこのような新聞記事を使っていた。「ロンドンで強盗団が宝石店の金庫を荒らして、真珠のネックレス、指輪、金、貴金属を手にかけた。その場所で彼らは近所の宝石店の金庫の鍵も見つけて、そちらも片づけた。その宝石店でもまた次の宝石店の金庫の鍵を見つけた。」

I really have to make more of the fact that both Cornflake Shop and the Showrooms share an interest in electricity. I've been meaning to swap certain ideas with each of them but haven't managed that yet. Do a card for one that I already did for the other the year before. Something like that. The fruit images are part of a fast-food lightbox display that sits over the juice bar (23-25). The form slip encourages customers to post texts to the bar's custom made LED signboard (26). The typeface used on the menu is derived from the signboard (29). It's called Dave after the guy who programmed it (Dave) and it's a bit eccentric looking only because Dave had never programmed a lower case alphabet before.

If there's a theme or method emerging here, it's one of working with forms and ideas thrown up by the situation itself. I don't bring so much to the table, there's mostly enough material already there. But it has to be uncovered or situated. In his book "Notes on the Cinematographer", Robert Bresson included this newspaper item under the heading Take Action First: "In London a gang broke open the safe in a jewellers' shop and laid hands on pearl necklaces, rings, gold, precious stones. They found, also, the key of a nearby jewellers' safe, which they cleaned out, and this safe contained the key of a third jewellers' safe."

23-25. Lightbox display for Shoreditch Electricity Showrooms juicebar, London, 1998

26. Form for posting signboard texts at Shoreditch Electricity Showrooms, London, 1999

27, 28. LED signboard for Shoreditch Electricity Showrooms, London, 1998

00000
0000000
000000000
000000000
000000000
000000000
0000000
00000

Shoreditch
Electricity
Showrooms

393
Hoxton Square
London N1 6NU
Tel 171 739 6934
Fx 171 739 6451

Restaurant
Juice Bar etc

August 1998

Main course
Evening only, 6.00-10.00pm

Grilled lamb with flageolet
beans and roasted garlic 7.50

Charred swordfish with
nasturtium butter, rocket,
tomato compote 9.50

Baked polenta with wild
mushrooms and asparagus 7.00

Calves liver with braised
lemon cavolo nero and mustard
mash 7.50

Juice Bar

Fresh Juices 2.80
Orange, Grapefruit, Apple,
watermelon, carrot

Combo mixers
(with any juice) 0.60
Banana, Strawberry, Raspberry,
Pineapple, passion fruit

Smoothies (with yoghurt, ice
cream or soya milk) 3.50
Breakfast *Summer* *Fruit*
Tropical *Chocolate*

Coffees
Espresso 1.00 Cappuccino 1.20
Latte 1.20 Mocha 2.00
Hot Chocolate 1.50

Teas 1.00
English Breakfast,
Earl Grey, Camomile, Fruit,
Lapsang 1.00

Starters

White sauce 3.50

Calamari with chilli and lime
mayonnaise 4.50

Tapenade with hot walnut toast
3.50

Terrine of chicken livers and
parma ham with herb oil and
baby spinach 5.50

Salads

Grilled radicchio, Gorgonzola
and toasted pine kernels 4.50

Red mullet marinated in lamb,
coconut, coriander and
garlic 6.50

Chicken breast salad with
rosemary, olive oil, baby
potatoes, mustard leaves and
peach dressing 6.50

Wheatgrass and pepper salad
with roasted red onion and
fresh oregano 3.75

Summer leaf salad 3.50

Specials:
Daily specials and sandwiches,
see notice board

Puddings

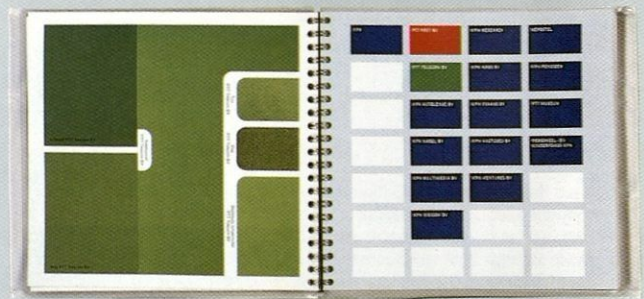
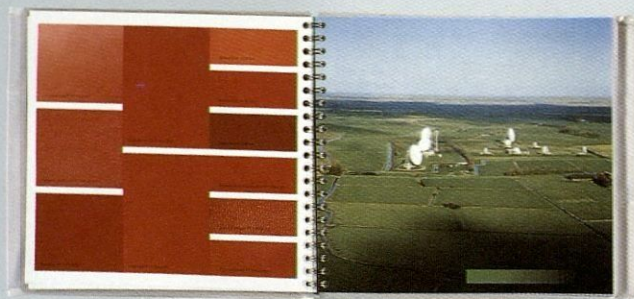
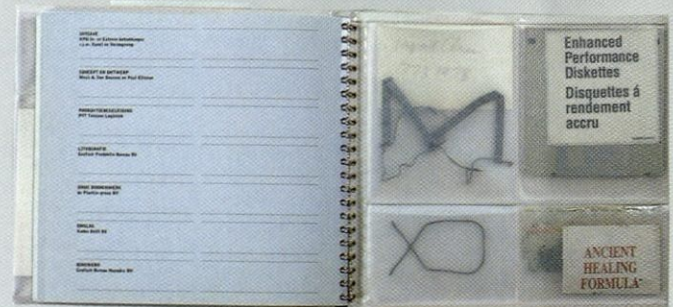
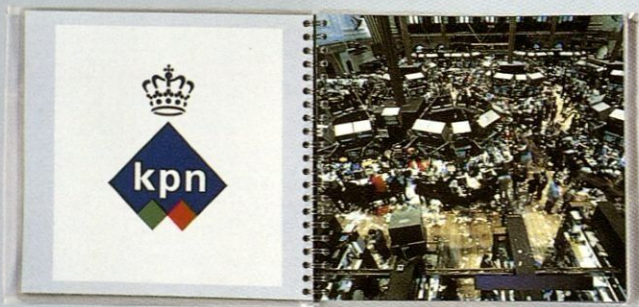
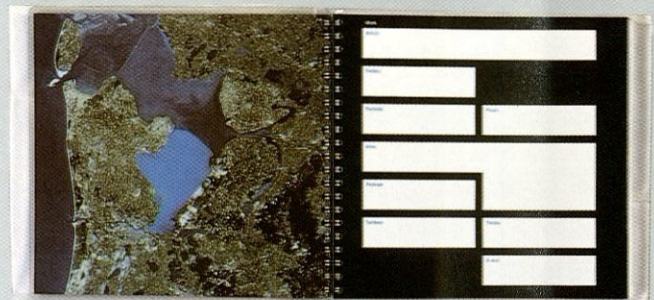
Fresh figs, organic greek
yoghurt and theme garnished
with honeycomb 3.50

Orange and hazelnut torte with
marinated strawberries 3.50

Side Orders:

Fat fries 1.50
Vegetable fries 2.25
Hot organic bread 1.00
Seasonal vegetables 2.00
Mixed olives 1.50
Rosemary bar nuts 1.50

Service not included



30

30 (all - Amsterdam, 1996)

Front cover of an agenda for KPN/PTT Netherlands

Front and back cover with pockets filled

Inside pages (1)

Page with KPN logo

Red swatches

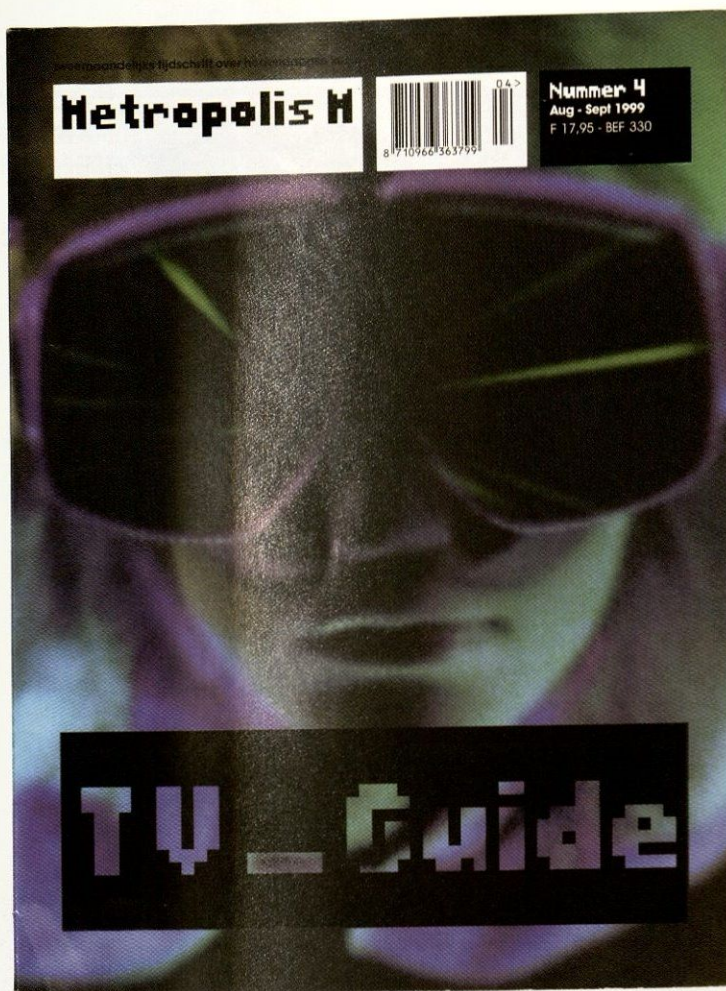
Front and back cover with pockets empty

Inside front

Inside pages (2)

Inside back cover with sleeves filled

Green swatches

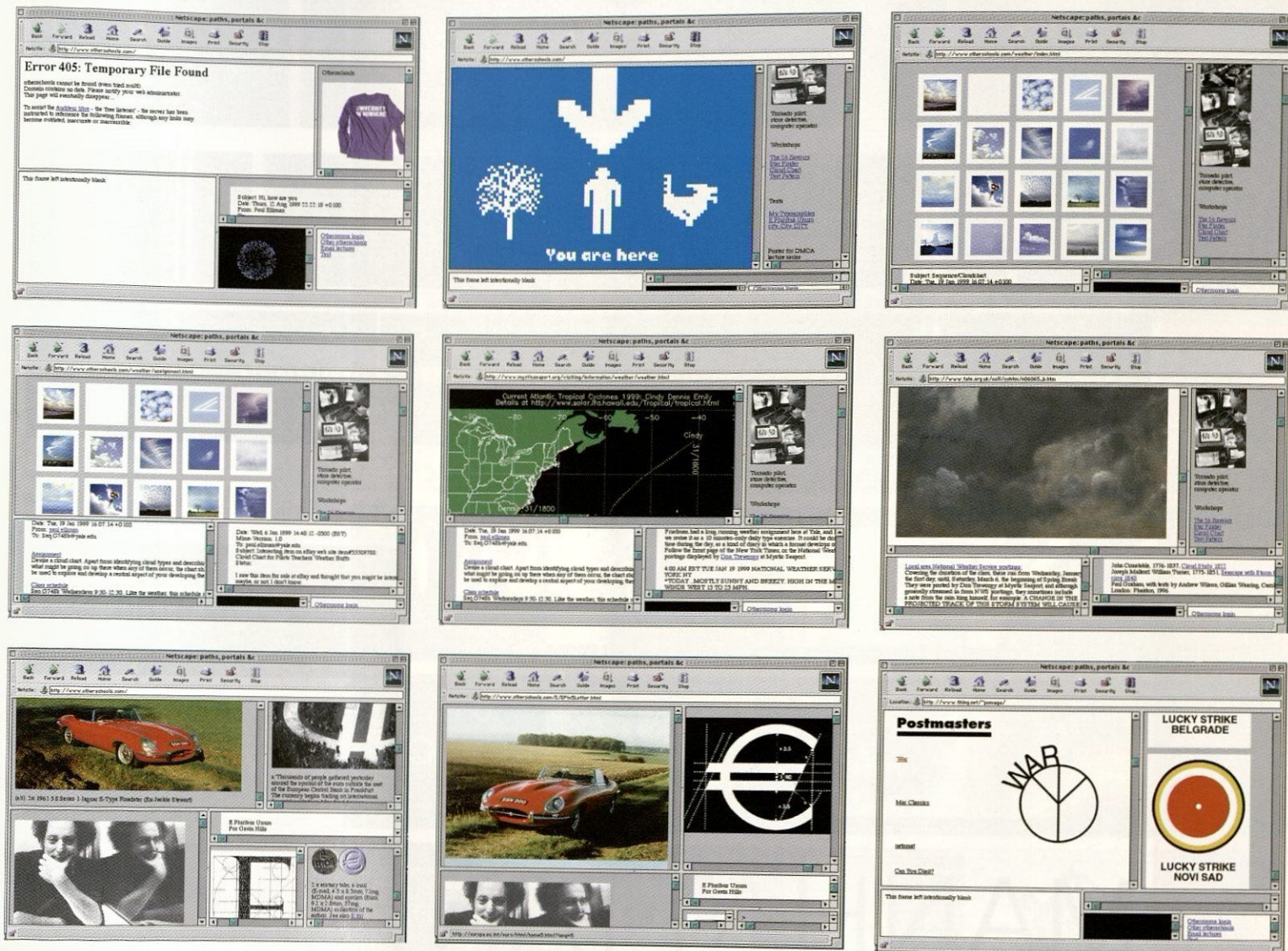


I prefer working collaboratively on projects, sometimes with other designers. In Amsterdam I've had great times working with Armand Mevis and Linda van Deursen. A few years ago we produced a day-planner for the Dutch post office KPN/PTT(30), and we've also shared ideas about a redesign for the Dutch contemporary art magazine Metropolis M. The KPN agenda gave us room to explore aspects of the corporate world - pockets on the cover are sized to house the accoutrements of an office life; stamps, aspirin, CD's, floppies, coins, condoms, business cards etc. And the 3 colours of the Postman's jacket, or the casing for a telephone kiosk - eventually take on the irregularities of a city. This summer I was invited to design a special issue of Metropolis M, an issue that would focus on artists working with television (31-33). A sort of Metropolis MTV. I thought we should make a teletext version. Loosely based on teletext pages, which is how most people in Europe currently approach the notion of digital TV, with different things going on, boxes of text over the top of images. It also makes a funny association with the formal characteristics of de Stijl.

僕は時には他のデザイナーとコラボレートすることが好きだ。アムステルダムでArmand MevisとLinda van Deursenの二人と仕事をし、大変面白い時間を過ごせた。数年前に我々はオランダの郵便局KPN/PTTのためのスケジュール帳(30)を作成し、オランダの現代アート雑誌『Metropolis M』のリニューアル・デザインと一緒に考えた。KPNの仕事は我々に会社世界の側面を探求する余地を与えてくれた。表紙のポケットは切手、錠剤、CD、フロッピー、コイン、コンドーム、名刺等々、オフィス生活の色々な道具を入れられるサイズになっている。それと、青、緑、赤の三色の会社マークは、違った意味を持つものとしても眺められる。郵便配達員の制服生地や公衆電話ボックスのカラリング、ついには都市の不規則さの様相としてもね。この夏、僕は『Metropolis M』誌の特別号のデザインを依頼された(31-33)。この号はテレビを使って作品をつくるアーティスト達の特集で、言ってみればMetropolis MTVみたいな感じだ。僕は多重放送のようなものを作るべきだと思ったんだ。今やヨーロッパの大部分の人がデジタルテレビの観念に慣れ親しみつつあるように、多重放送の構成におおまかに基づいた。違う要素が同一画面上に流れて、画像の上にテキストが流れるボックスがあったらね。これはまた、de Stijlの堅苦しい特徴との面白い連想を呼び起こす。



35. (H, R, M, S, C, I) Font Made of Waste, version of Font made in recycled plastic bottles, London, 1997



36-44. Pages from www.otherschools.com,
London/Amsterdam/New Haven, 1996-99

Font (35) is a long term type project that began from a skeletal version of the alphabet based on specific classical Roman letters. It looks like other typefaces - which, if you think about it, is a funny thing to remark... I mean isn't that the defining characteristic of a typeface? There are numerous versions or permutations of Font, in 2, 3 and 4 dimensions. This one was made with product designer Jane Atfield and her recycled plastic bottles: Font Made of Waste.

otherschools (36-44) is another long term project. It's still in an early phase, even though I've been talking about it ("the university of nowhere") for ages. The idea for an independent "school" has been partly interrupted by having a teaching position at Yale, but I'm also able to develop the project out of the practicalities of this. So I have my various classes and interests publicly accessible through the otherschools site; test patterns, targets, the letter E, meteorology, stars, bus time-tables, electricity... It's worth remembering that the Internet, as a communication technology, is amalgamated from the technology's that have preceded it. And most of it's jargon has a similar relationship to language. *Cyberspace*, says William Gibson - who invented the term - is merely an "assembled word", encouraged by the cut and fold techniques of certain writers before him. otherschools relies on similar patterns of connection and assemblage. Which is not so far from how I've always worked. The Fetch puppy makes an appearance, bits of html code, borrowed gif animations and entire sites, all incorporated into otherschool dialogues.

It's not easy to say exactly why particular qualities in your own work are those ones you are trying to achieve. You have to claim they are there, for a start, and who'll believe that? But I think the three examples I began this presentation with contain ideas that I'm still working on. The clumps of type on the Verso book jackets, trying also to describe a kind of everythingness ("An image of the world"); or the kind of nothingness on the cover of the Andrea Fisher catalogue, no words at least; and then the involvement of people and language, presented in the image of the two dancers. Forced to be specific I'd make more of a point about the use of type as type, a kind of silly-putty for language; the use of a tear as type (searching for a better image of language?). And that, along with those people again, all three examples share in an attempt to convey the tangible experience of things; objects, people, words, letters; another cache of pearl necklaces, gold, precious stones... But also the intangible, which has even more to do with our experience of the material world, and especially with our relationship to ideas.

Paul Elliman,
New Haven, September 1999

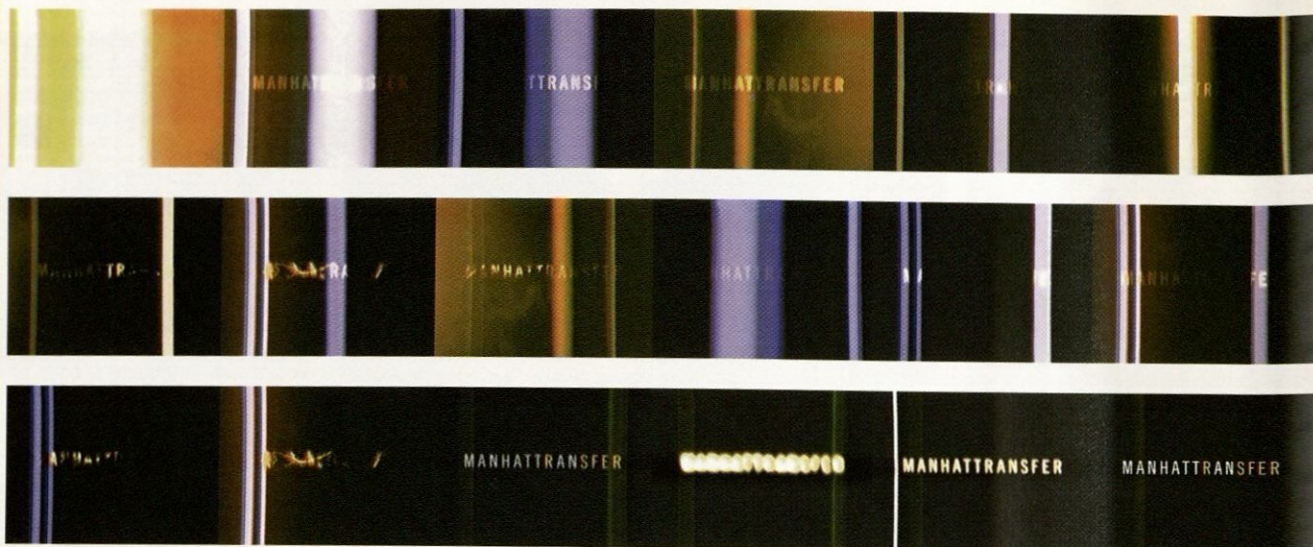
Font(35) は長期間に渡る文字プロジェクトだ。まずローマン体に基づいて、アルファベットの骨組みからはじまった。このフォントは他のタイプフェイスに似ている、ということは少し考えてみると面白い指摘であると思う。つまりその事実自体がタイプフェイスを定義づける性質のものなんじゃないだろうか？ 平面に、立体に、4次元に、タイプフェイスは膨大な順列と変形を持つ。この作品はプロダクト・デザイナーのJane Atfieldと一緒に、彼女のペットボトル再生プラスチックで作られた。廃棄物からつくられたフォントだ。

Otherschools(36-44)はもう一つの長期間プロジェクト。「非存在の大学」構想については長い間語ってきたが、実際の制作はまだ初期段階だ。インデペンデントな「学校」のアイデアはエール大学で教鞭執ることでも一時、頓挫してしまっている。しかし、エールでの実践経験からこのプロジェクトを進展させることもできる。そこで、テスト・パターン、射的的、「Eの文字」、気象学、星、バスの時刻表、電気などなど、僕の受け持つ様々な講義や興味のある事柄をこのサイトで公開し、アクセスできるようにしている。コミュニケーション・ツールとしてのインターネットは、先行するテクノロジーの amalgam (融合物) であることを覚えておくといいたいだろう。この世界での用語は言語に類似した関係性を持つ。サイバースペースという言葉の発明者、ウィリアム・ギブソンが言うには、サイバースペースは先行する書き手からの切り張り技術によって成り立つ、単なる「言葉の集積物」である。同様に、otherschoolsも結合、集積パターンにおいて成り立っている。これは今まで僕がしてきたことから、そうかけ離れたものではない。Fetchの子犬が現れてる。htmlコードをちよいと入力。gifアニメやサイト全体を拝借してきて、すべてはotherschoolの「対話」に組み込まれる。

なぜ自身の作品の持つ特定の性質が、自身が成し遂げようとしていたことなのか、正確に語るのには容易ではない。それらはそもそもの始まりからそこにあったとしか言うほかないが、誰が信じてくれるのだろうか？ しかし、この記事の冒頭の3作品には、僕が未だに考え続けているアイデアがあるように思う。Versoの本の表紙での文字群、これはまた一種の総体性を記述しようとしたものだ（「世界のイメージ」）。あるいは一文字もないAndrea Fisherのカatalog表紙が持つ、一種の不在性。それから二人のダンサーの画像に表された人間と言葉の関係づけ。明確に説明しろといわれたら、僕は文字としての文字の使い方一馬鹿みたいな言葉回しみたいだが一の点をもっと理解せねばならない。例へば、言葉、文字の実体的経験を伝達する試みという点で共有している。真珠のネックレスや、金塊、宝石・のもうひとつの貯蔵庫だ。しかし同時に我々の物質世界での経験と、そして特に我々と思との関係に多く関係づけられる、非実体的なものを伝達する試みでもあるのだ。

ポール・エリマン

title sequence from
MT's showreel >>



MT's new
design wing+
logo >>

MANHATTAN
TRANSFER



MANHATTAN TRANSFER

introduction >>

Manhattan Transfer is one of the leading post-production company in N.Y. It consists of over 100 of various talents: designer, animator, director, editor, programmer and so on.

They are unique in its way of work. On the one hand, as post-production, they have worked with a lot of designers to realize the final piece, such as The Attik, tomato, and Jonathan Barnbrook.

Their wide range of talents can provide the best and flexible solution for clients and sublimate creators' idea into the real world, even programming their own proprietary software.

On the other hand, their activity and ability are not limited within

traditional post-productive works. More and more they come to work from conception through realization. This means they can do everything in-house.

Manhattan Transfer has grown up and changed since it started as film-to-video production. Now it can be said that Manhattan Transfer is a future form of postproduction, a creative complex where talents freely fuse.

Here we IDEA would like to introduce their recent projects which are worth seeing.

マンハッタン・トランスファーはニューヨークを拠点に活動するユニークなポストプロダクション・カンパニーである。

そのメンバーはデザイナー、エディター、ディレクター、アニメーター、プログラマーなど総勢100人以上の才能の集団で構成される。

これまで数多くのCM、プロモを手がけ、the attik, tomato, Jonathan Barnbrookをはじめとする多くのデザイナー、ディレクターの作品を現実化してきた。特にそのヴィジュアル・エフェクトには定評がある。

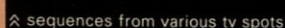
しかし、彼らの活動はいわゆるポスト・プロダクションの域に留まらない。今やコンセプト・メイキングからデザイン、撮影、ポストプロに至る全てを手がける仕事も多くなっている。つまり制作の構想から仕上げまで、完全に内部で処理することが可能なのである。

テレシネ変換所から出発し、成長と変容を遂げてきたマンハッタン・トランスファーは、従来のポスト・プロダクションの枠組みを超えた、才能と才能が自由に融合しあえる、新たな創造複合体のかたちといえるだろう。

Partial Software List:
flame, fire, inferno, Henry,
HAL, Paintbox, Photoshop,
Illustrator, After Effects,
Painter, SoftImage I 3D,
Alias Maya, Digital Fusion,
3D Studio Max, Renderman,
Rabbit, Mental Ray,
and Rhino.

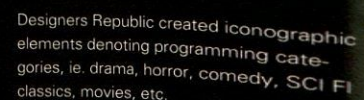


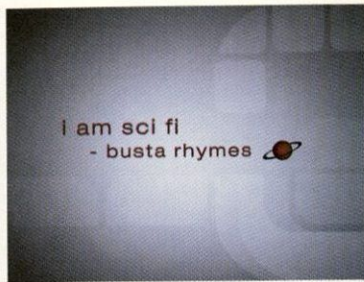
IDEA 277 065



- >>redesign and relaunch

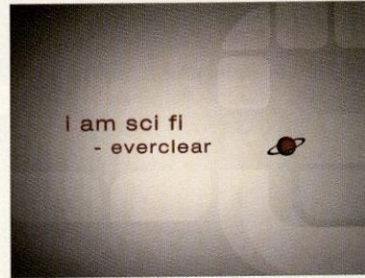
SCI FI Channelはアメリカで5400万軒以上に配信されている、SF専門のケーブルテレビチャンネルである。ヒット映画、オリジナルテレビシリーズほか、特集番組、古典SF、ファンタジーやホラーなどの番組を24時間放映している。SCI FIチャンネルは今年の3月に、チャンネルイメージの抜本的改変を含めた全体的なリニューアルを行なった。マンハッタントランスファーは当番組のADトッド・ミューラーと共に、新たなチャンネルイメージ・デザインを手がけた。結果、デジタル時代の美的感覚を豊富に組み込んだ大胆なデザインとなった。



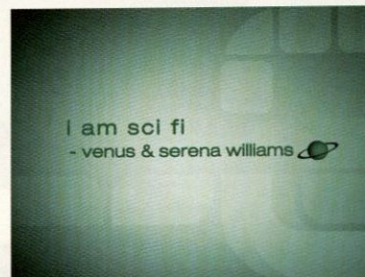
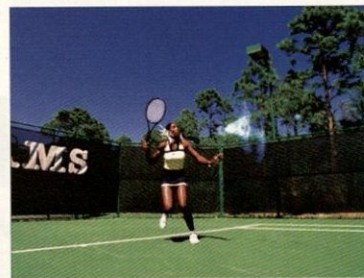


<< thress spots for
"I am sci fi"
on-air campange

< Busta



< Everclear



< Williams

「番組アート・ディレクターの要求は、レゴと同じ方法論によるデザイン・システムの構築、つまり制作者が楽しめる、パーツごとに入れ替え可能なデザインを作ることだった。そこで我々はグリッドに基くモジュール方式を採用して、プロモーションビデオの雛形を作ることにした。モジュールのフレーム内に、制作者が新しい要素を毎週付け加えることができるようにしたのです。

最も重要な条件は、チャンネル全体のデザインの統一感をあくまでも維持しながら、編集マンやプロデューサーが創造的になれるような構成を作ることだった。こうすることによって、プロモ、CMスポット、その他様々な要素をアップデートする際、SCI FIチャンネルのクリエイティブはすごく柔軟になることができる。

僕らはこのチャンネルのアイデンティティ・デザインに際して、ロゴが飛び出てきて、消えて、おしまい、というようなよくあるフォーマットから遠ざかりたかった。僕らはSCI FIチャンネルのロゴを、デザイン的に統合する要素として組み入れた。このアイデンティティ・イメージには、現実世界との橋渡しをする多数の実写画像が内包されていて、一方でデザインの性格がそれらに独特の感じを与えている。というのは、このスポットは視聴者にはフィルムに封じ込められた束の間の瞬間、言ってみれば時のかけらみたいに見えるからである。」

Art Director Todd Mueller requested Manhattan Transfer to create a design system that worked the way Legos work; like interchangeable pieces of design that would allow producers to have fun.

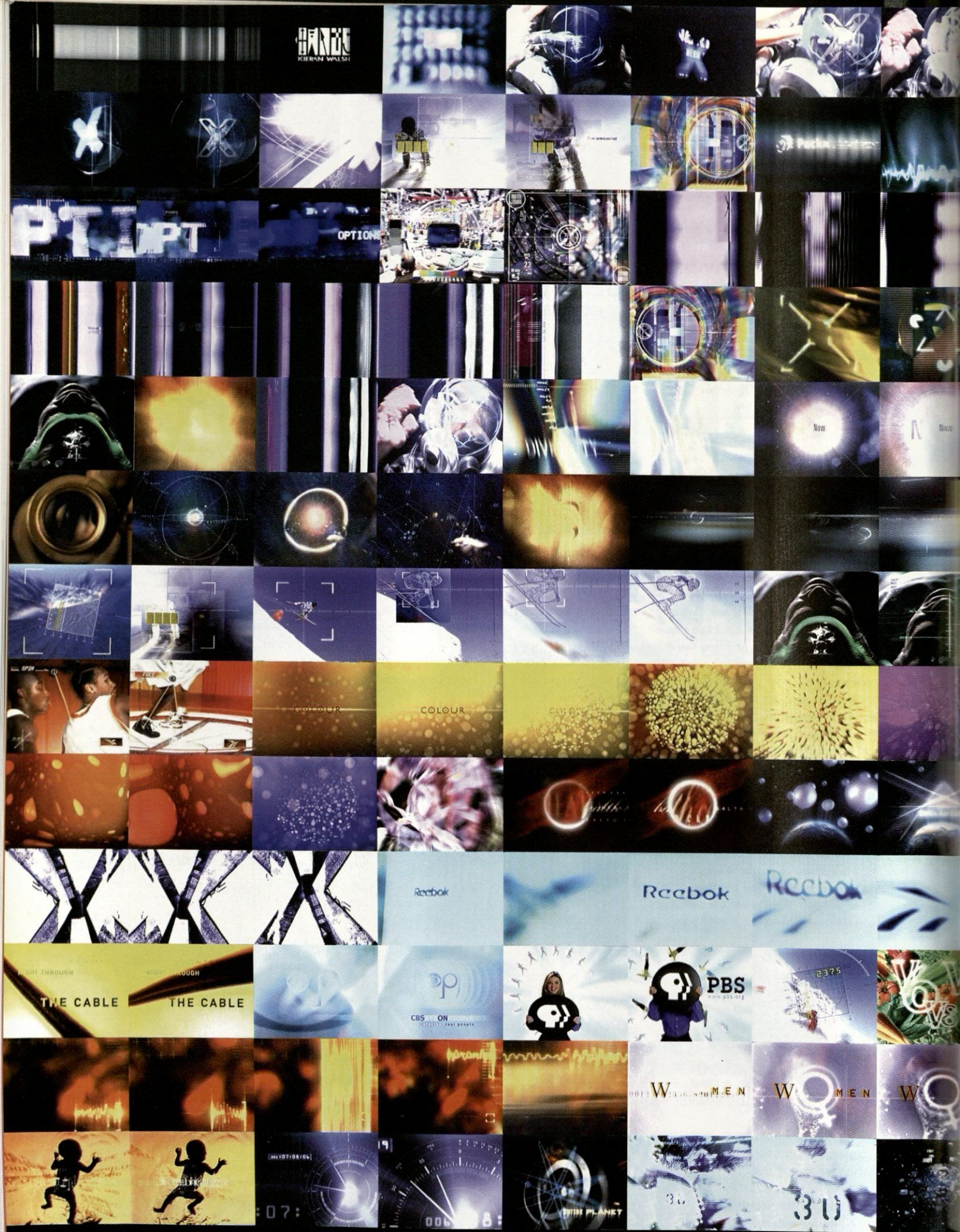
"Our solution was to build a modular grid-based promo template," explains Jeremy Hollister Designer/Visual Effects Artist, adding, "it is built so that a producer could add something new every week within a modular framework. The most important requirement was to make a structure that would allow editors and producers to be creative while still maintaining the station's design aesthetic and format. This in turn affords the SCI FI Channel creative a great deal of flexibility when updating the promos, billboards and various other elements. When designing the station identities we knew we wanted to stay away from the standard formula of a logo that builds up and resolves at the end. We incorporated the SciFi logo, using it as an integral element of the design. The identities contain a great deal of live action elements that anchor them in the physical world, while the nature of the design gives them a unique quality. For the viewer the identities appear as a fleeting moment captured on film, a slice of time if you will."

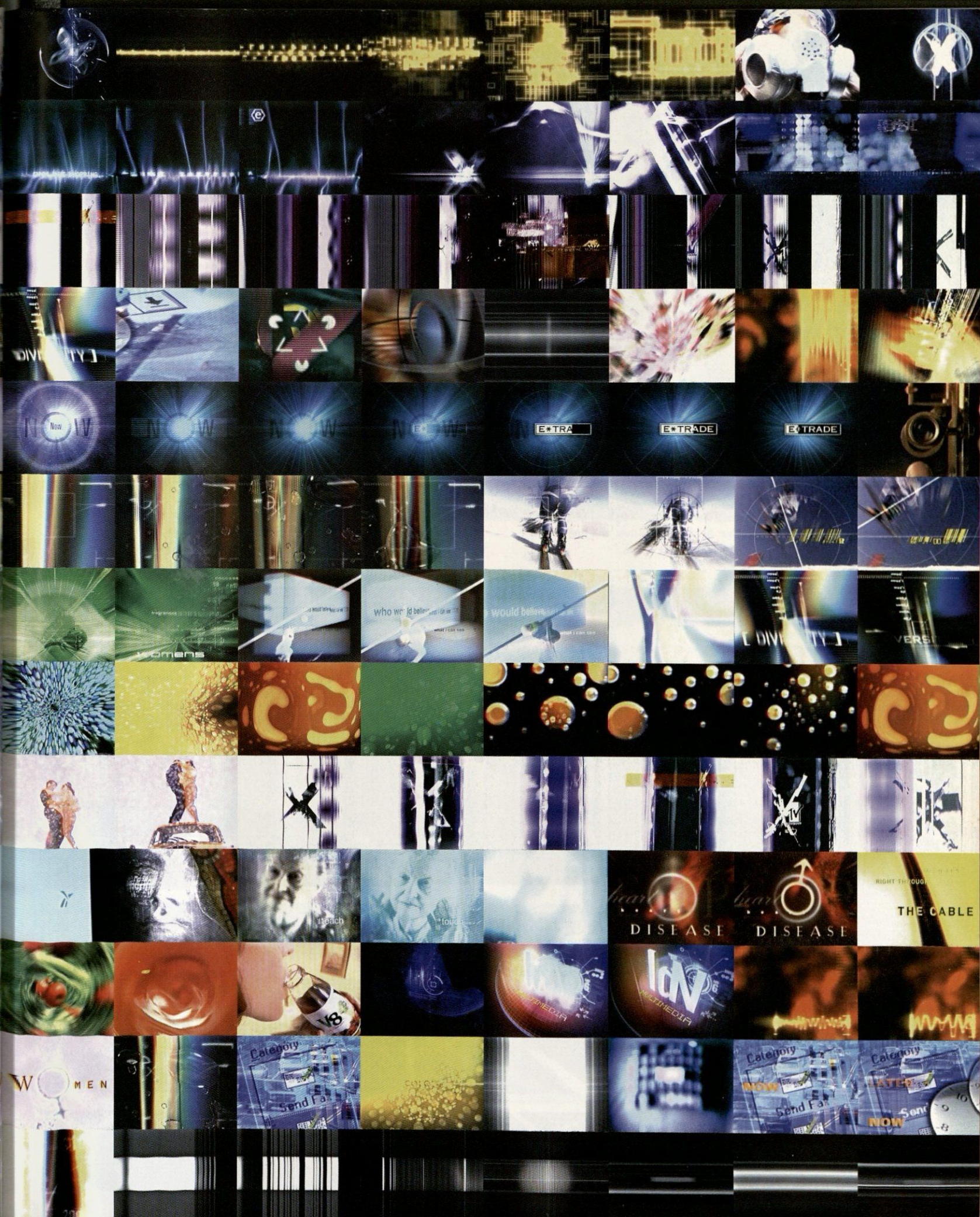
www.scifi.com

Jeremy Hollister
Designer/Visual Effects Artist



^ sequences from
various tv spots





MANHATTTRANSFER

MT's Recent Project #3

STEVE REICH

Music for 18 musicians >>coldcut remix

The Album "Reich Remixed" was released at the beginning of this year, which is namely a remix album of Steve Reich, the master of minimalistic music, and Various DJs/remixers took part in it. MT created the promo for one of the most noteworthy tracks in the album: Music for 18 musicians Coldcut remix.

Jeremy Hollister, who for first time undertook director, explains, "the record label gave us a great deal of freedom regarding both the concept and the design of the video. Reich's music is in many ways about space and form. Using simple notes and phrases he creates a complex soundscape composition. The visual style is an interpretation of the piece designed on the same principle. We purposely used a visually limited palette and explored it to develop a study of the human form, movement and architectural surroundings."

The piece premiered at RESFest 1999 a multi-city touring festival. Beginning in San Francisco (September 9-11), the festival will then make stops in Chicago, New York City, Los Angeles, and Tokyo.

豪華DJ/リミキサー陣によるスティーブ・ライヒのリミックスアルバム「Reich Remixed」が今年度初頭リリースされた。その中から最も注目しているトラックのプロモーション・ビデオをマンハッタン・トランスファーマーが手がけ、この9月にリリースされた。

今回の仕事は、レコード会社からコンセプトとデザインについてはかなり自由にやらせてもらえたという。

「ライヒの音楽は色々な意味で空間と形体に関するものだ。シンプルな音階とフレーズを使って、複雑な音世界の組み合わせを創り出す。映像のスタイルは同様の原理に基づいた、この曲の映像的解釈なんだ。僕たちはあえて視覚的な要素を限定して、そのなかで人体の形、動き、建築環境を探求してみたんだ。」と、この作品で初めてディレクターを務めたJeremy Hollisterは語る。

このビデオはRESFest1999（デジタル映像制作の展覧会。詳しくは<http://www.resfest.com>参照）に出品され、アメリカ主要都市及び日本に巡回する予定。

[this spread]
Title: Music for
18 musicians

Client:
Atlantic/Nonesuch
Records
(Coldcut remix)

Artist:
Steve Reich

Length: 5:58

Airdate:
September 1999

International





Production Company/Editorial Company:
Manhattan Transfer (New York, NY)
Live Action Directors: Jeremy Hollister,
Patrick O'Brien
Executive Producer: Connie Griffin

Director of Photography: John Sawyer
Avid Editor: James Mazzullo
Producer: Adam Schlossberg
Shoot Location: New York Metro Area
Design Studio / Postproduction:

Manhattan Transfer (New York, NY)
Lead Visual Effects Artist/Designer:
Jeremy Hollister
Designer/Animator: Eddie Pak
CG Animator: Patrick O'Brien

Online Editor: Jeremy Hollister
Colorist: Chris Gennarelli
Producer: Adam Schlossberg
Executive Producer: Connie Griffin

MANHATTANTRANSFER

MT's Recent Project #4

CNET TV.com CNET NEWS.com

Airing each weekend, CNET News.com will provide an in-depth look at the information economy and the businesses shaping it by offering perspective, opinions and insight.

"The key was to maintain the human connection and not go overboard using cool graphics that really don't belong there" says Micha Riss Manhattan's Creative Director. "I think we found a nice balance conveying the technical nature of the programs subject matter while maintaining a clean graphic approach that says "CNET."

CNET NEWS.comは毎週末に放映され、情報経済とビジネスについての視座や意見を提供する番組である。

「人間とのつながりを保ち、必然性のないクールなグラフィックをむやみに使わないようにすることが、鍵だった。」とクリエイティブ・ディレクターのMicha Rissは語る。「CNETのイメージであるクリーンなグラフィックを保ちつつ、番組が扱うテーマの専門的な性格を伝える、いいバランスを見つけることができたと思う。」

Micha Riss
Creative Director

CNET TV.com features revealing stories on key people in the technology industry, the latest techno-trends and e-commerce issues as well as reviews of new products and useful web sites.

"This program is for viewers who want to keep up with the latest information trends, so we incorporated a sense of playfulness while still maintaining the overall feeling of importance - a show not to be missed," explains Manhattan's Lead Visual Effects Artist/Designer Kieran Walsh. "Picking-up on the color scheme from CNET'S branded Internet network we worked in hues of yellow and red and incorporated green as an impetus for the techno-graphic elements."

CNET TV.comは新製品情報、ウェブサイト紹介と共に、技術産業界の業界秘話、テクノロジー界の最新トレンド、電子商取引などの話題を提供する番組である。

「この番組は常に最新情報を追い求める視聴者向けのものだ。そこで我々は「見逃せない番組」という全体感をキープしながら、遊び心を盛り込んだんだ。」とKieran Walshは語る。「お馴染みであるCNETのインターネットから配色をとって黄色と赤を基調色として作業し、テクノ系グラフィック要素のための刺激として緑を組み入れたんだ。」

Kieran Walsh
Visual Effects Artist/Designer



Client: CNET, Inc. (San Francisco, CA)
Titles: "CNET TV.Com", "CNET News.com"
Product/Program: "CNET TV.Com", "CNET News.com"
Length: Show opens and graphics packages
Airdate: October 1999
Production Company: CNET, Inc. (San Francisco, CA)
Director of Production: Bryan Glickman
Senior Producer: Michael McInerney
Directors: Michael McInerney, Vladimir Lubel
Senior Art Director: Vladimir Lubel
Director of Photography: Norman Bonney
Senior Designer: Stefanie Atkinson
Designer: Everett Campbell

Visual Effects & Design Studio:
Manhattan Transfer (New York, NY)
Creative Director: Micha Riss
Lead Visual Effects Artist/Designer: Kieran Walsh
Visual Effects Artist: Julie Watkins
Designer: Hoon Chong
Online Editor: Kieran Walsh
Producer: Peter Metsopoulos
Executive Producer: Connie Griffin
Telecine: Varitel (San Francisco, CA)
Colorist: Bob Campbell

Audio Post/Music House: Sacred Noise (New York, NY)
Composer/Mixer: Michael Montes

MANHATTAN TRANSFER



<< Visual Effect crew



^ Creative Directors

Kieran Walsh

Juan Rosenfeldt

Micha Riss

For more than 15 years, Manhattan Transfer has been a landmark on New York City's post production skyline. Initially founded as a telecine transfer house, Manhattan Transfer has transformed itself into a full service visual effects and design studio with a global business perspective.

Working on a wide range of projects from complete channel redesigns to visual effects for high-end commercials, Manhattan's fastest growing area is its visual effects/design division. Over the past three years it has consistently created award winning work. This August the company opened its newly renovated 5000 square foot design wing which now houses both its broadcast design and CG divisions. The talented artists, designers, and animators at Manhattan Transfer work with high-end tools such as Discreet Logic's flame, inferno, and fire, Quantel's Henry, HAL and Paintbox, and CG software such as SoftImage I 3D, Alias Maya, 3D Studio Max, and a host of proprietary software tools created by Manhattan's team of in-house programmers.

15年以上に渡り、Manhattan Transferはニューヨークのポストプロダクション界における最前線として活躍してきた。

当初テレ・シネ変換所として設立されたManhattan Transferは、国際的な事業展開を視野にいた、すべての設備を整えたヴィジュアル・エフェクト/デザインスタジオへと変貌を遂げてきた。

TVチャンネルの完全なリ・デザインからハイエンド・コマーシャルの為にヴィジュアル・エフェクトまで幅広いプロジェクトをこなす中、最も成長著しい分野はヴィジュアル・エフェクト/デザイン部である。このセクションは過去3年間に渡り、様々な賞をコンスタントに獲得している。

この夏、マンハッタン・トランスファーは5000フィート平方の広さを持つデザイン棟を新たに開設し、現在テレビ放送デザイン及びCG部を収容している。マンハッタン・トランスファーの有能なアーティスト、デザイナー、アニメーター達はDiscreet Logic社製のflame, inferno, and fireをはじめとする最上級の機材を用い、またマンハッタン・トランスファーの自社プログラマー・チームに支えられている。

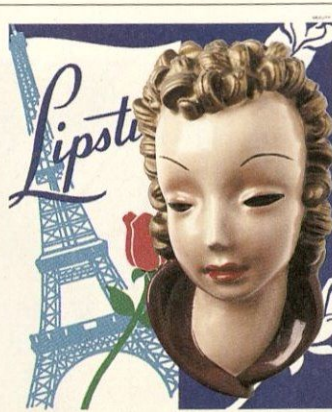
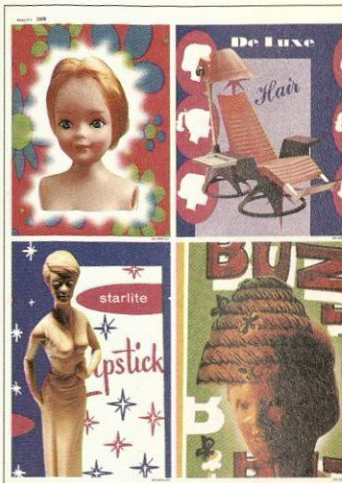


The card features projects from their current broadcast design showreel, information about the creative staff, and most importantly how to contact them after having had a chance to view their work. The cards can hold up to 30Mb of data - virtually anything that can be burnt on to a traditional CD-ROM.

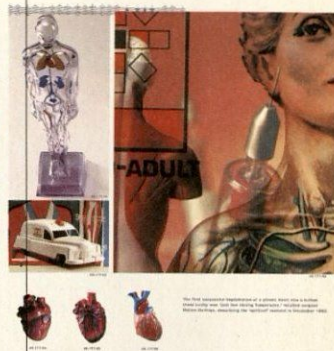
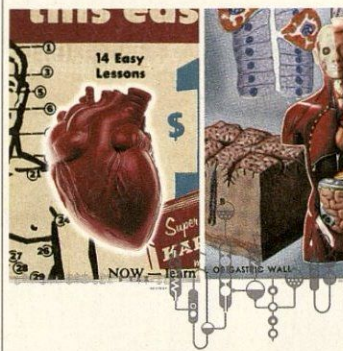
彼らがプロモーション用に配布している名刺はCD-ROMで読みとり可能である。

30MBのデータが収納可能なこのデジタル名刺には、彼らの仕事のサンプル、制作スタッフについての情報、そして最も重要なことには、作品を見る機会があった後彼らにコンタクトをする方法が納められている。

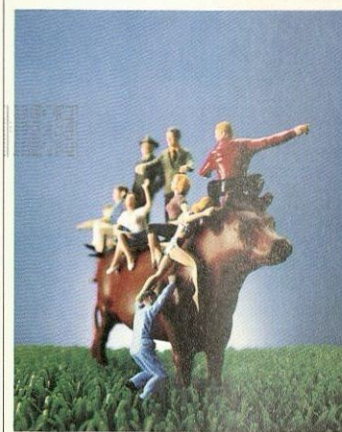
<< The Manhattan Transfer digital business card



Observed by surfaces, and by others, the Reproduction of the Eiffel Tower and the Lipstick tube are shown in this image. "EIFFEL TOWER TO A LIPSTICK"



The first photograph of a plastic object was taken in 1954 by Charles S. Anderson. This image is a reproduction of the original photograph.



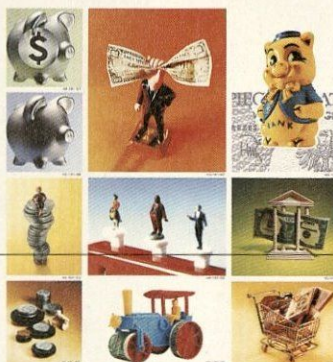
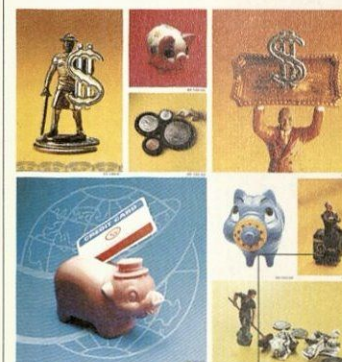
1954, the first plastic object was taken and was called "THE COW". This image is a reproduction of the original photograph.



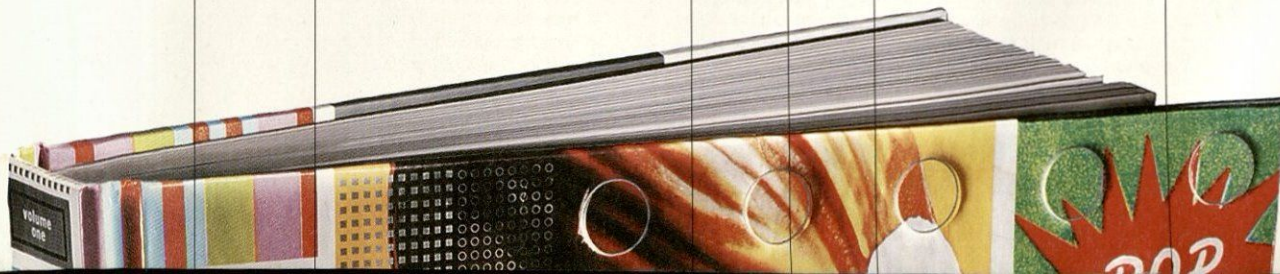
CSA Plastock is a digital synthesis of photography, design, and illustration. At the core of this collection is plastic, or more accurately, photographs of plastic objects. This book takes plastic outside its original context, treating these objects as vernacular sculpture: a type of mass-produced modern folk art. Arguably, plastic is still the most modern, versatile, and unnatural material ever devised. Malleable, amorphous, and ubiquitous, it can be shaped into any form and is defined by use. The photographs of these items reflect that very same nature. The initial digital photographs of the plastic objects were enhanced, reshaped, recolored, and composited to form the final images shown in the CSA Plastock Catalog.

This stock photography resource was conceived and designed by the Charles S. Anderson Design Company. Initiated by Charles Anderson's lifetime collection of over 100,000 plastic objects, the catalog contains over 2500 images.

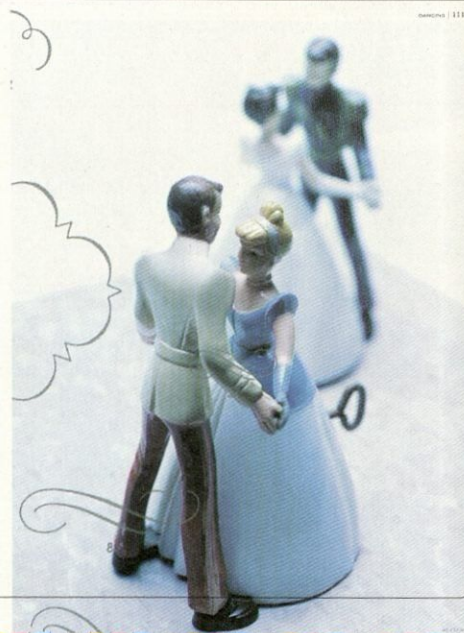
2



1954, the first plastic object was taken and was called "THE COW". This image is a reproduction of the original photograph.

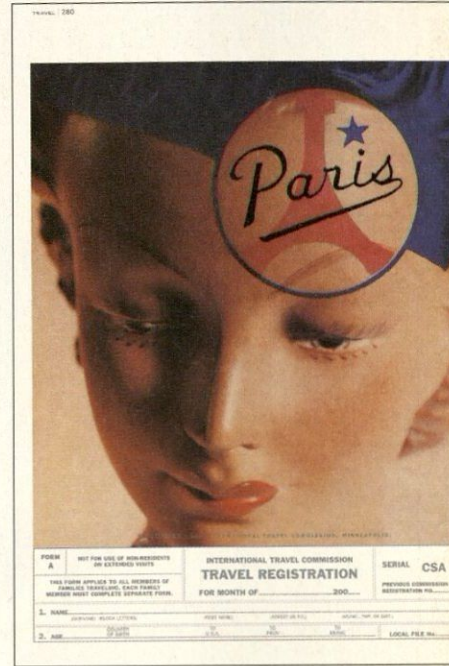


3

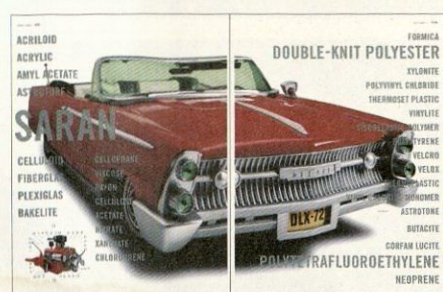


➔ The Charles S. Anderson Design Company wanted CSA Plastock to be a flexible and interpretive resource. So in addition to the Plastock photographs, there are also Plastock visual components including backgrounds and cut-out objects that may be digitally mixed, allowing the art director or designer the ability to create individual custom stock images, a revolutionary new direction in the stock image industry.

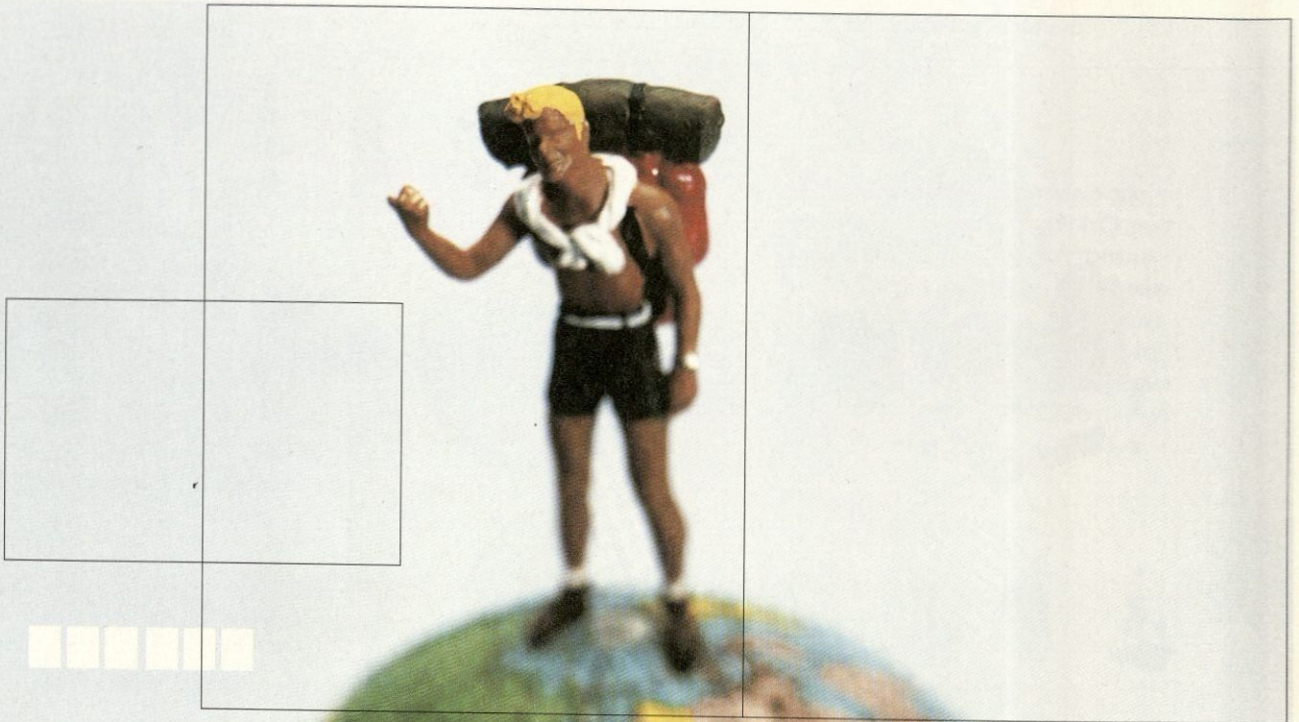
CSA Plastock is represented worldwide by Photonica / amana images. For more information on Photonica, please call their Tokyo office at 03-3406-1911, their London office at 0-171-278-4117, or their New York office at 212-505-9000. For further information on CSA Images, please visit their web site at www.csaimages.com.



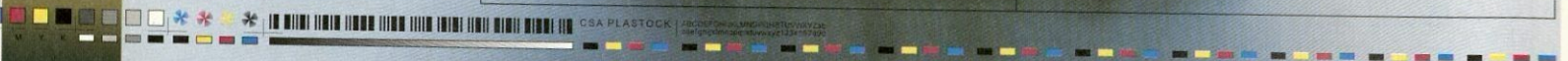
4



5



YEARS BEFORE IT BECAME THE LAST WORD IN WHITE TRASH AESTHETICS, DOUBLE-KNIT POLYESTER WAS ENTHUSIASTICALLY EMBRACED BY THE FASHION PRESS AS THE IDEAL MATERIAL FOR THE EMERGING DRIP-DRY, **GLOBE-TROTTER** JET SET.



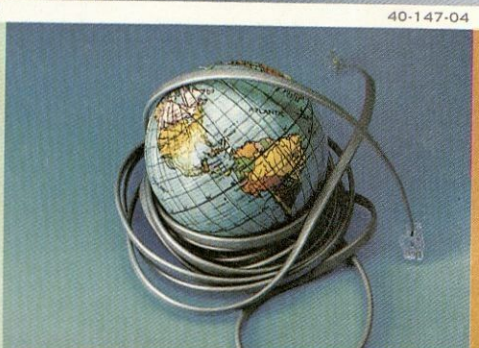
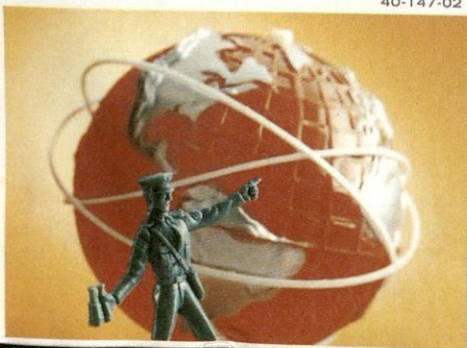
40-147-02

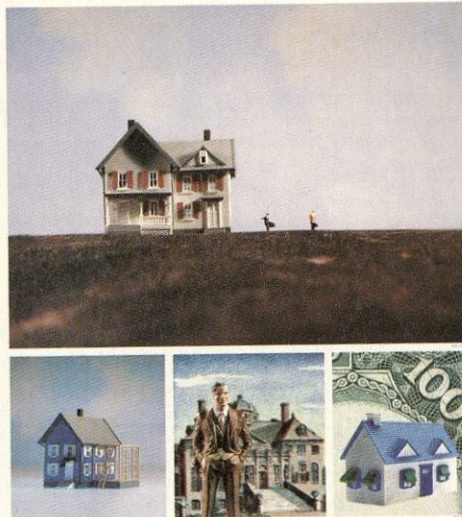
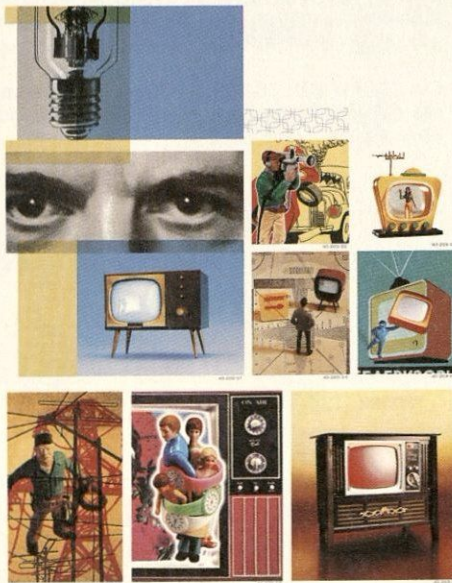
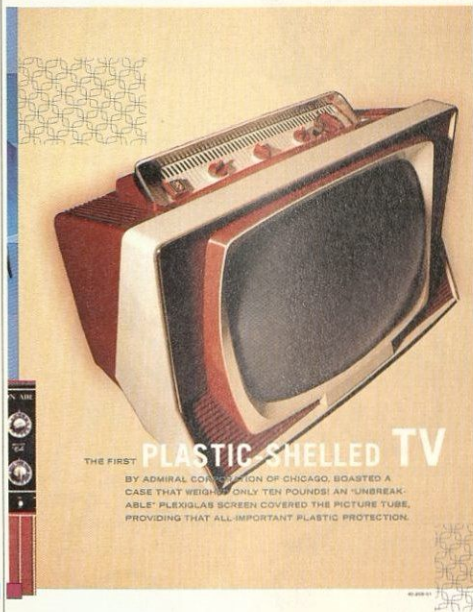
40-147-03

40-147-04

40

40





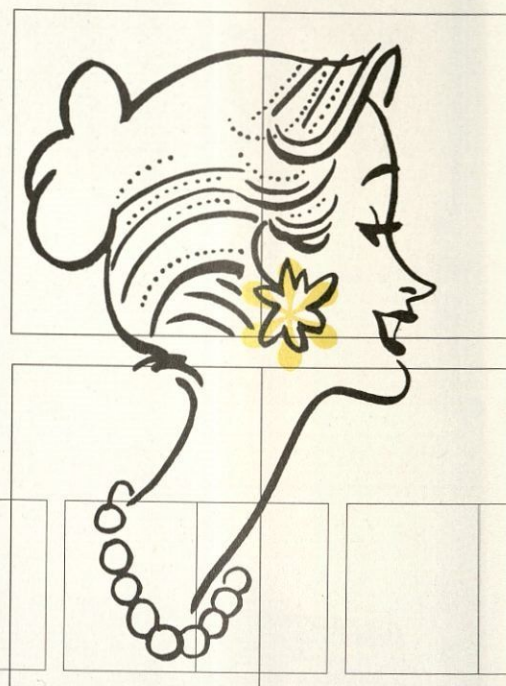
Charles S. Anderson Design Company, founded in 1989, specializes in identity, packaging, product design and development, and design for advertising. The company's influence on contemporary design has been recognized in national and international design publications and their work has been exhibited worldwide by museums and galleries including The Museum of Modern Art, New York; The Smithsonian Institution's Cooper-Hewitt Museum; The Library of Congress Permanent Collection; The Museum of Modern Art, Hiroshima; The Institute of Contemporary Arts in London; The Ginza Gallery in Tokyo; and The Museum Für Gestaltung in Zürich. Clients include French Paper, Nike, Levi's, Ralph Lauren, Nissan, Sony, Turner Broadcasting, and Paramount Pictures.



CSA Snapstock

CSA Snapstock is a unique stock line art resource that contains over 7,000 images. Drawing heavy influences from such late twentieth century art movements as Pop Art and Cubism, the illustrations contained in this collection take on a more textural and design-influenced style.

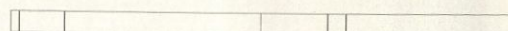
Like CSA Plastock, CSA Snapstock is stock imagery source for use in advertising, design, or product applications, with usage rates negotiated per project.



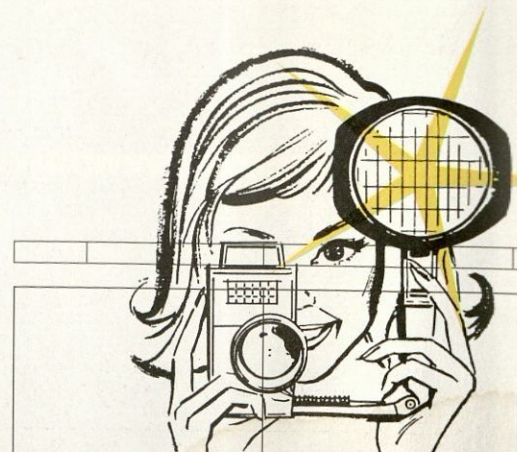
©Copyright 1999 CSA Images
Images may not be reproduced, stored, altered or transmitted without prior authorization. Unauthorized reproduction is strictly prohibited by Federal Law under Pan American and International Copyright Conventions.



CSA IMAGES | ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
www.csaimages.com | 08efghijklmnopqrstuvwxyz1234567890



over 100,000
Images
available
for use.



Mr. French™ Fonts, Elements, Images

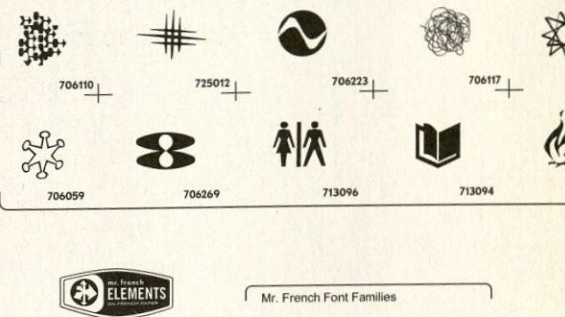
Since 1871, the French Paper Company has been creating unique text and cover papers for printing. This tradition of print and the tactile look of ink on paper was the inspiration for Mr. French, a vast digital resource of compelling images, icons, design elements, typefaces...and the paper to print them on.

French Paper: frenchpaper.com

Mr. French: a one-stop resource for designers and art directors accessible 24 hours a day at www.mrfrench.com

royalty free

elements



royalty free

type icons



Mr. French San Serif & Slab Serif

MANZO

Bigford

Chuzpah

Tanek

Goliard Bold

Goliard Bold Ext

VALIN

Mohan

Paydirt

Platon

Mr. French Snappy Fonts

Koten Reg.

Koten Cond.

Melvorn

Lollop

Flookem

Plummox

Gladhand

Potsky

BESONIO

Biffin

Mr. French Font Families

Niles Thin

Niles Regular

Niles Oblique

Niles Bold

Niles Bold Obl.

Niles Condensed

Niles Bold Cond.Obl.

Cylinder Thin

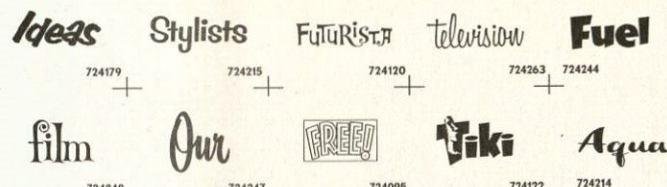
Cylinder Regular

Cylinder Oblique

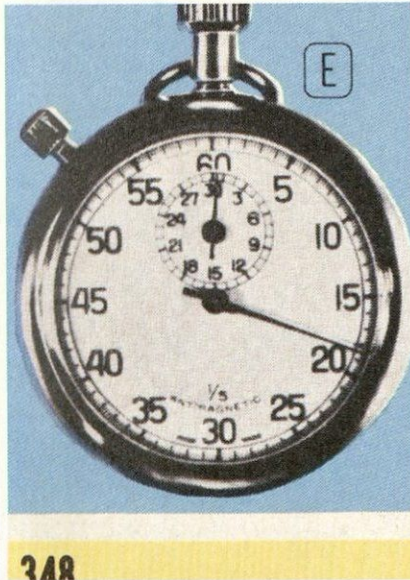
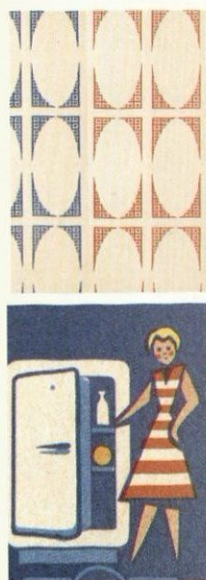
Cylinder Bold

Cylinder Bold Cond.

word images

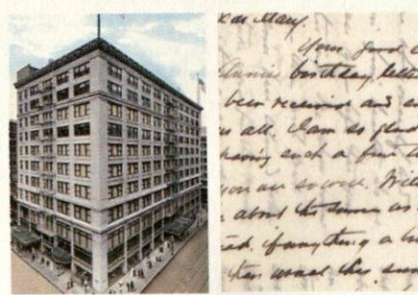


Mr. French™ Printstock



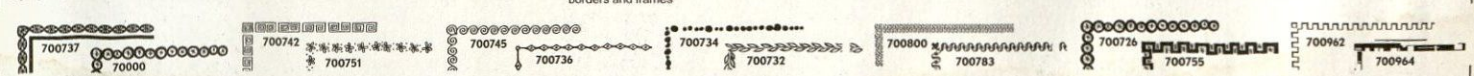
Average File Size
40MB Tiff
400dpi
8x10

File Format:
RGB standard
CMYK available*



royalty free

borders and frames



横尾忠則ーデザインの原ヴィジョン

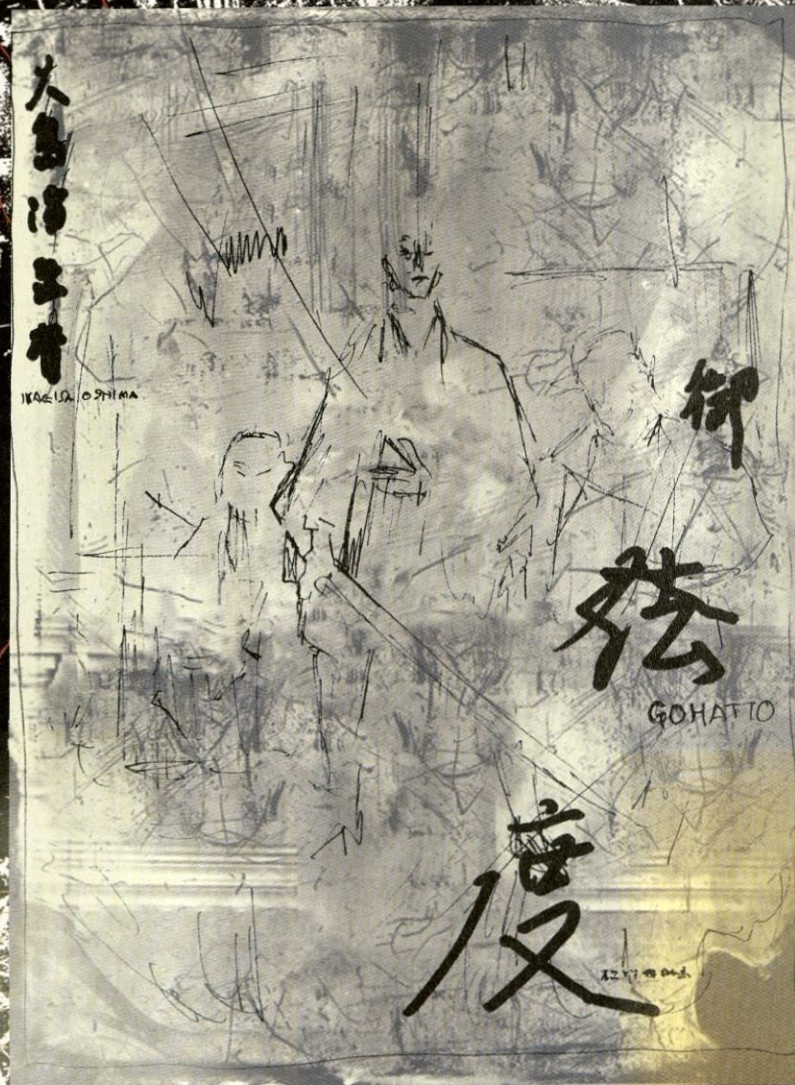
TADANORI YOKOO Source Vision of Design Vol.5

大島渚

IKAGISA OSHIMA

大島渚

IKAGISA OSHIMA



大島渚

大島渚

GOHATTO

大島渚

GOHATTO

大島渚

大島渚

GOHATTO

大島渚



大島清三郎

IKAGISA OSHIMA

柳

弦

GOHATTO

度

12月10日

大島清監督作品

製作・大島清

大島清監督作品

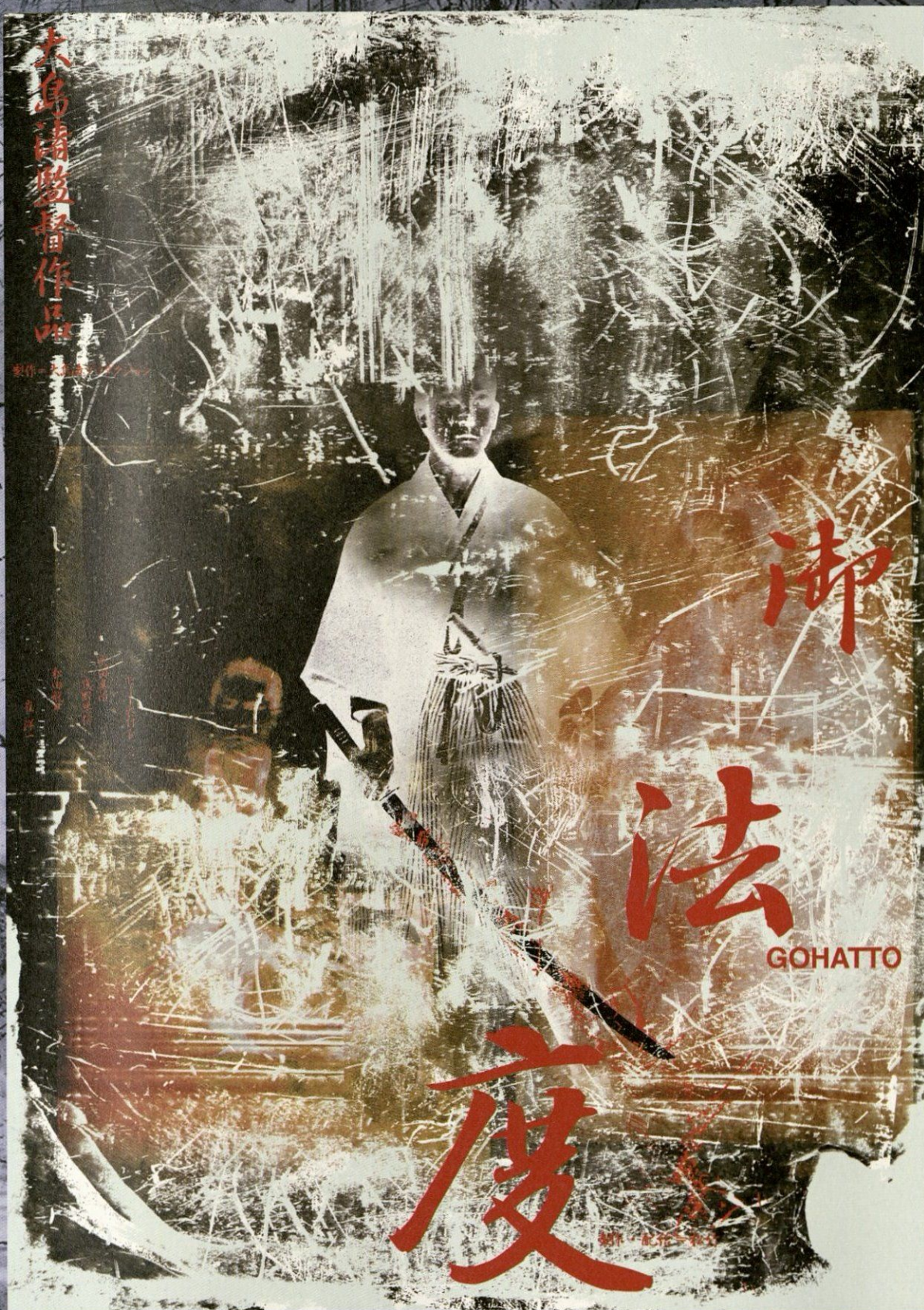
製作・大島清

御

法

GOHATTO

度



The Realistic Tone

From The Series CLINIC Photography by YASUhide KUGE

ここにある久家靖秀の写真を撮る前に、いくつか踏まえておくべき点がある。病院(ここには実際に存在するものの他にドラマ用のセットもある)、歯科医、わが国ではなじみの薄いエンバーミング……。これらがモチーフとなった画面には、通常であれば視算を通して「死」や「疾病」など血生臭い痛感をもたぬ情感を喚起する信号が条件反射的に意識の中に送り込まれる。まずはこの意識を遮断する必要がある。

久家自身、このようなクリニカルな映像専門のカメラマンではなく、普段の仕事は圧倒的に雑誌などでの人物の撮影が多い。その反動として風景や無機質なもののへ心が向かうのは、一表現者が自身の中でバランスを取るための自然な衝動として受け止めることができる。対象が有機的であれ、無機的であれ、リアルさの向こう側にある美質を写したとすると久家の視点は絶えず一定である。そしてここで久家のファインダー越しに収められたクリニカルな記録も、モチーフを異にする他の作品と何ら変わりはない。

我々は同じ日常にありながら、こういったクリニカルな環境に対しては身体的に構えつけたれた痛覚的記憶によって充分な判断認識ができていない。例えばレストランでもいいし温泉でもいい。それらと、その対角にあるクリニカルな環境のいずれも「生きていく」ことを実感する上では変わらない。しかし後者の方にはるかに直感的なのは、「生きる」ことの意識がそれと背反、同居する上では変わらない。しかし後者の方には一つの意識によって強められるからである。よって、自ずとその場における視点はリアルな光景を目にし、いながらも恐怖的な観念によって認識が歪められる。芸術の中にはこうした環境や場がもたらす死への連想力や畏怖を援用した作品も当然存在する。有名なところではウォーホルが事故現場の写真や、電気イスをシルクスクリンで表現したものがあり、最近ではペネトンの広告やダミアン・ハーストの作品集に見出すことが出来る。だが、それらとここにある久家の作品とを同軸でとらえようとするのは間違っている。事実、根本的に表現の目的が双方で大きく違っている。久家の場合、恐怖も苦痛も怖いもの見たさの悪趣味の興味が表現上において必要としておらず、純粋にリアルな美質のみを求めている。

そもそも久家がこのようなクリニカルな写真を撮るに至ったきっかけとして、自身の子供の誕生があった。産まれたばかりの赤ん坊が発する不思議な色が彼の心をとらえ、生命の神秘の瞬間へと触れていくうちに、久家の眼前からは完全にクリニカルな場を持つ薄暗い意識は散消していった。そして彼の目に映ったこれらの環境は問題意識や人生観を左右するような重さから解放され、それまでの日常の裏側の存在から日常の一端へとその存在が変わっていくように、遠んだ心境の下、非常にシンプルで衝動的に導かれてさらなる真実の姿へと近づいていった。一見、何気ない機器や空間が、生命、そして生きることへとつながっていく大なる神秘。クリニカルならではの独特の機器の形態や空気感は畏怖の念を蓋かに越えて、我々の手の及ばない生命の世界と現実とを繋ぐ聖域のような光をそこそこどこに垣間見せる。

久家靖秀の作品は、ここに掲載した作品のみならず、すべての作品に渡って撮影からプリントワークまで一貫した自己管理の下で生み出されている。「今は写真は言葉のように思っている」と思っているのは彼の言葉である。我々が彼のクリニカルな作品から前述したような神秘的な「光」を感じるのは、彼ならではのテクニカルなプリントワークもさることながら、実際にそれぞれの現場を体感した久家の気持ちの「素直な言葉」として写真に表れているからではないだろうか。

ともあれ、我々は久家靖秀の視点とクリエィティヴィティを通じて、薄暗く重く垂れ込んだ暗雲を突き抜け、日常の裏側に解がっている光をまもった生命の聖域をすぐ目の前にある事実として再認識するのである。

(編集部)

写真●久家靖秀

【くげ・やすひで】
1962年生まれ
1989年よりフリーランスとして活動
Q1984-95年 STREET STYLE MUSEUM
VICTORIA & ALBERT MUSEUM, LONDON(参加)
Q1985年 INNUMBER スポーツ写真展-BLOW UPI FACES IN THE SPORTS 参加
Q1996年 神戸ファッション美術館 写真収蔵
Q1996年 ALIENS 出版
Q1998年 立花文庫作品集「紙々」撮影

YASUhide KUGE
Born in 1962
Began to work as a freelance photographer
1994-95 Joined 'Street Style' at Victoria&Albert Museum, London
1995 Joined 'BLOW UPI Faces in the Sports' the photo exhibition for Number Magazine
1996 Work housed in Kobe Fashion Museum
1996 Published 'ALIENS' (book / CD)
1998 as photographer in Fumio Tachibana's art book 'Kami-Gami'

Before viewing Yasuhide Kuge's photographs here, there are some points we should take into account. Hospitals (in addition to the real ones, some of them here are theatrical sets), dentists' offices, embalming work that is not well-known in Japan... His photographs of such motifs normally send a signal visually to our consciousness as a conditioned response that arouses some emotions accompanying bloody pains such as 'death' and 'diseases'. We need to exclude such consciousness first.

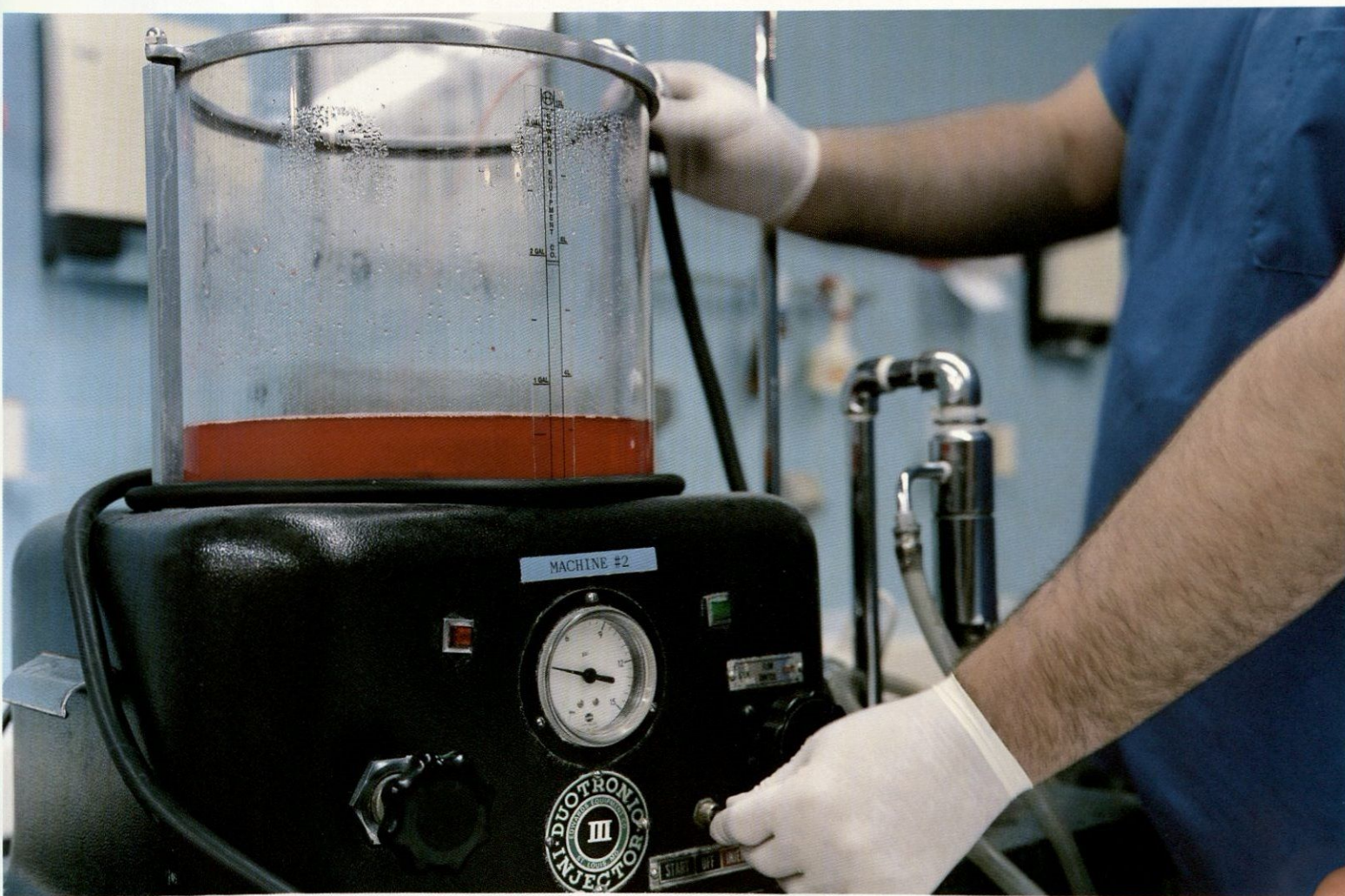
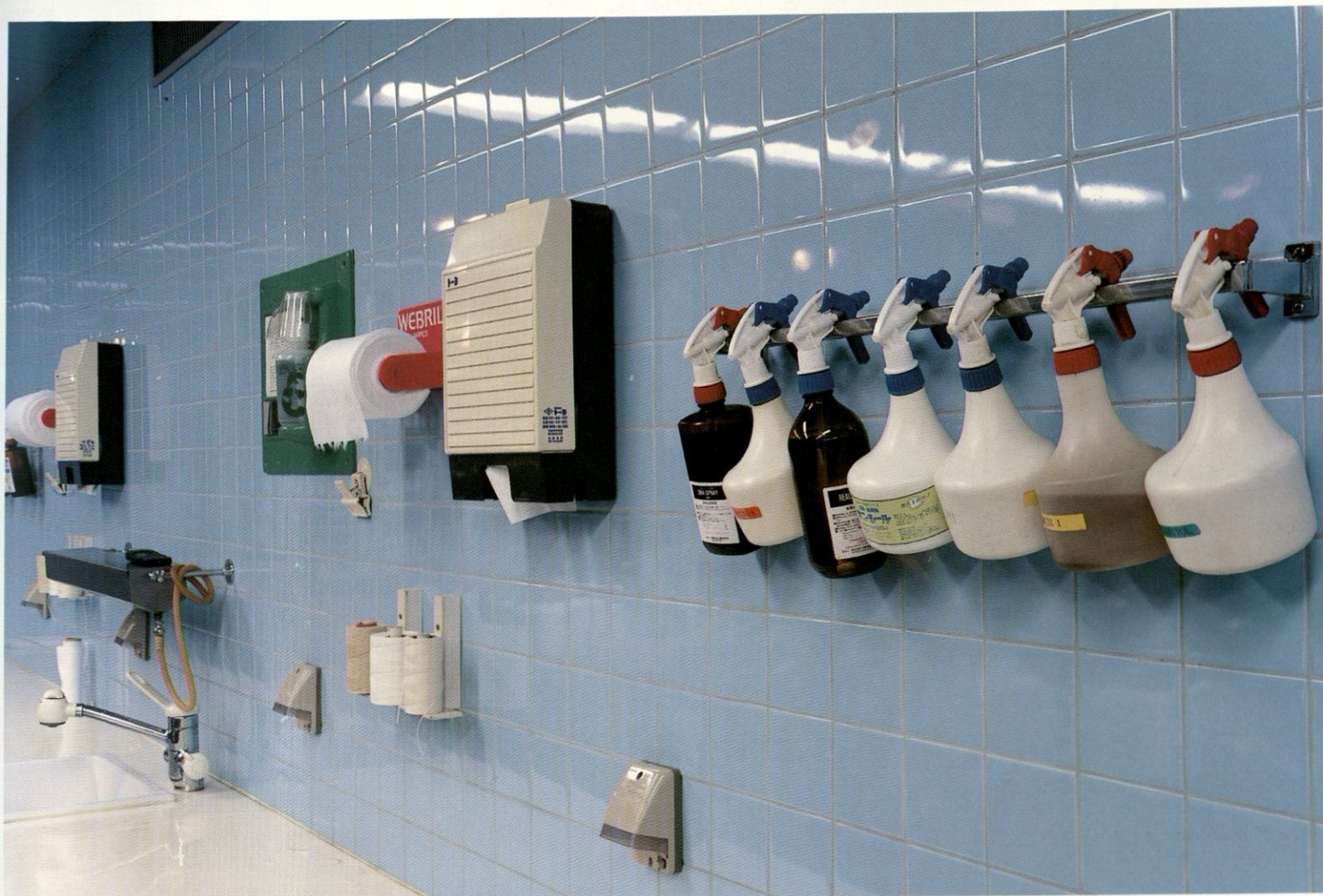
Kuge is not a photographer who specializes in such clinical visuals. Instead, his regular works are overwhelmingly of portraits for magazines. His desire for landscapes and something inorganic as a reaction to his regular works can be understood as a natural impulse of an artist to create internal balance. Whether his subjects are organic or inorganic, Kuge's viewpoint is unchanged at any time as he tries to capture the beauty behind the realness. These records of clinical scenes Kuge caught with his camera are in line with his other works of different motifs.

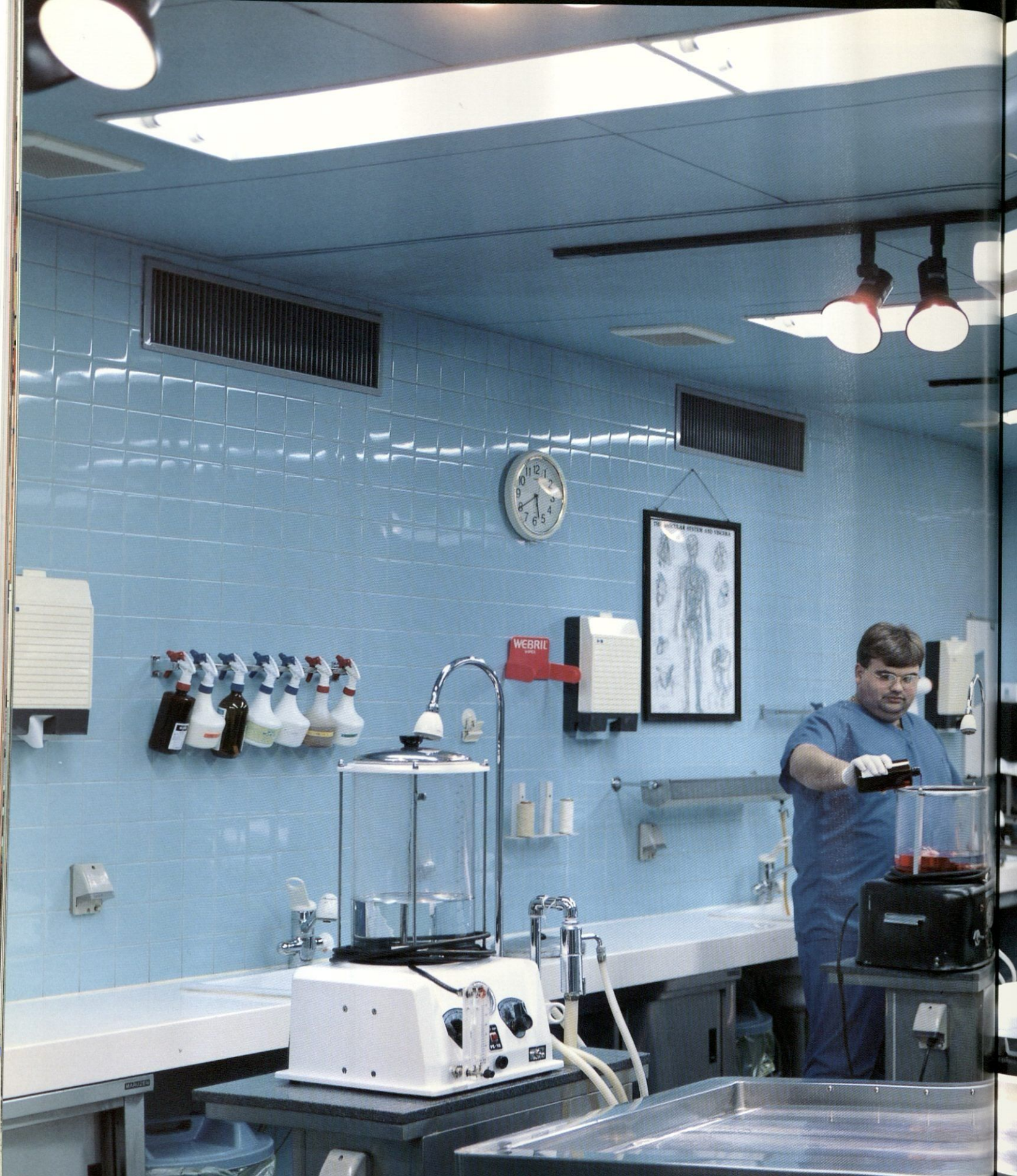
Our memory of pain disables us to pass fair judgment or fully understand such clinical environments although they are part of our daily life. Restaurants or hot spas, for example, have nothing different from the clinical environment with which they are of a sharp contrast in terms of giving the sense of 'the moment of being alive'. The latter, however, is much more straightforward as the consciousness to 'live' is emphasized by the darker consciousness of 'death' and 'suffering' that are contradictory yet co-existing. Therefore, recognition is distorted by the notion of fear despite the viewpoint that witnesses a real sight. Naturally, there are some artworks that employ an association with death and the sense of dread that such an environment or a scene gives. Well-known examples are Andy Warhol's silk screen works that depicted accident scene photos and an electric chair. More recent examples are of Benetton advertisements and Damien Hirst's. However, it is wrong to understand these photographs of Kuge's on the same axis with those examples. In fact, a huge gap is found between his works and the others in terms of the fundamental purpose of expression. In expressing, Kuge does not need fear or pain or an interest with a bad taste of wanting to see the dreadful. He purely pursues the realistic beauty alone.

The birth of his own child led him to start shooting these clinical photographs. The wonderful colors the newborn baby gave out captivated him. As he was feeling for the moment of the mystery of life, the gloomy notion that a clinical place has totally disappeared from him. These environments in his eyes were relieved from a sense of issues and the heaviness that can determine someone's view of life. As they became part of the everyday life from the hidden being, Kuge was prompted by a very simple impulse to approach their more truthful state with a lucid mental frame. An awesome mystery that seemingly casual equipment or space is connected to life, and to living. Shapes unique to the clinical equipment and senses of the air go well beyond the sense of awe. They show here and there some sacred light that connects the world of life that we cannot control and the reality.

Yasuhide Kuge consistently produces all of his works from shooting to print works, not just these printed here, under his own control. "Photographs are now like words," says he. Why do we sense the sacred 'light' mentioned before in his clinical works? I believe it is because his emotions he actually experienced at each site are expressed as 'honest words' in his photographs, in addition to his technically superb print works.

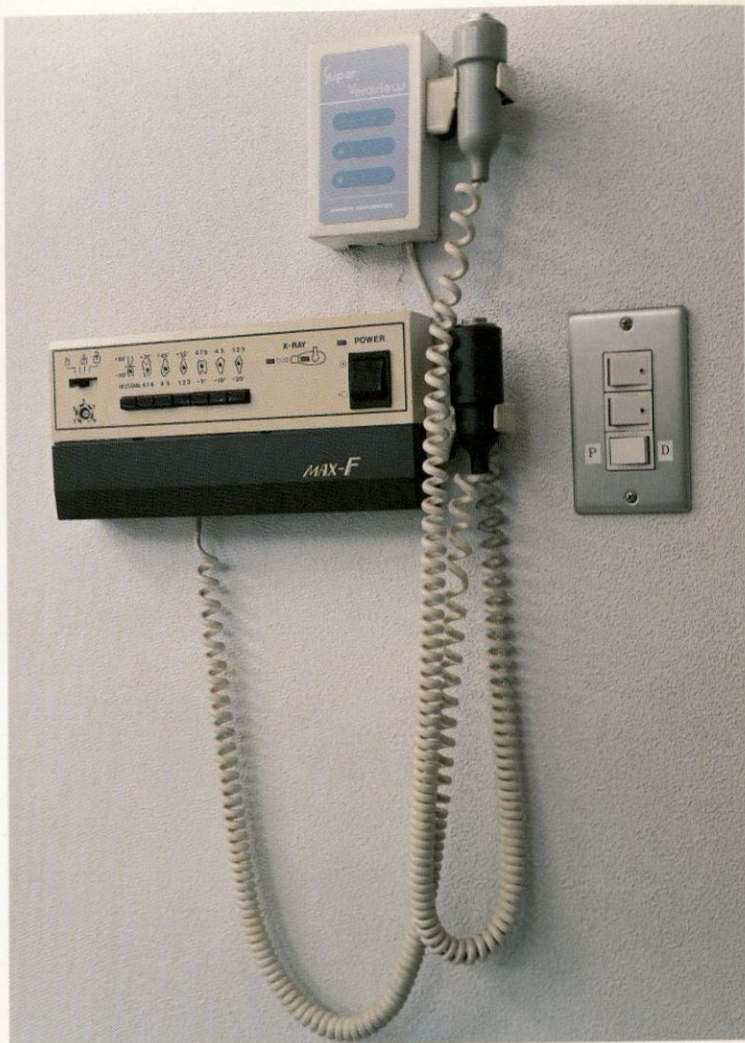
In any event, through Yasuhide Kuge's viewpoint and creativity, we have a new appreciation of the sanctuary of life covered with light that is connected from behind of the ordinary daily life and is shining through the gloomy and heavy clouds as the fact in front of our eyes. (Ed.)











READY

X-RAY



WARNING
THIS X-RAY UNIT MAY BE DANGEROUS TO PATIENT AND OPERATOR



KV















ANTIELECTRON
F2550-2555 288866

19



T. MATSUO TOKYO KYOTO

TM-3 AUDIOMETER

LINE ADJUST

HEARING LOSS D.B.



SIGNAL LAMP

FREQ %

250 500 1K 2K 4K 8K ON

TYPE

STRONG
ADJUST

AUTO
STOP

TM NEBULIZER UNIT USA TYPE

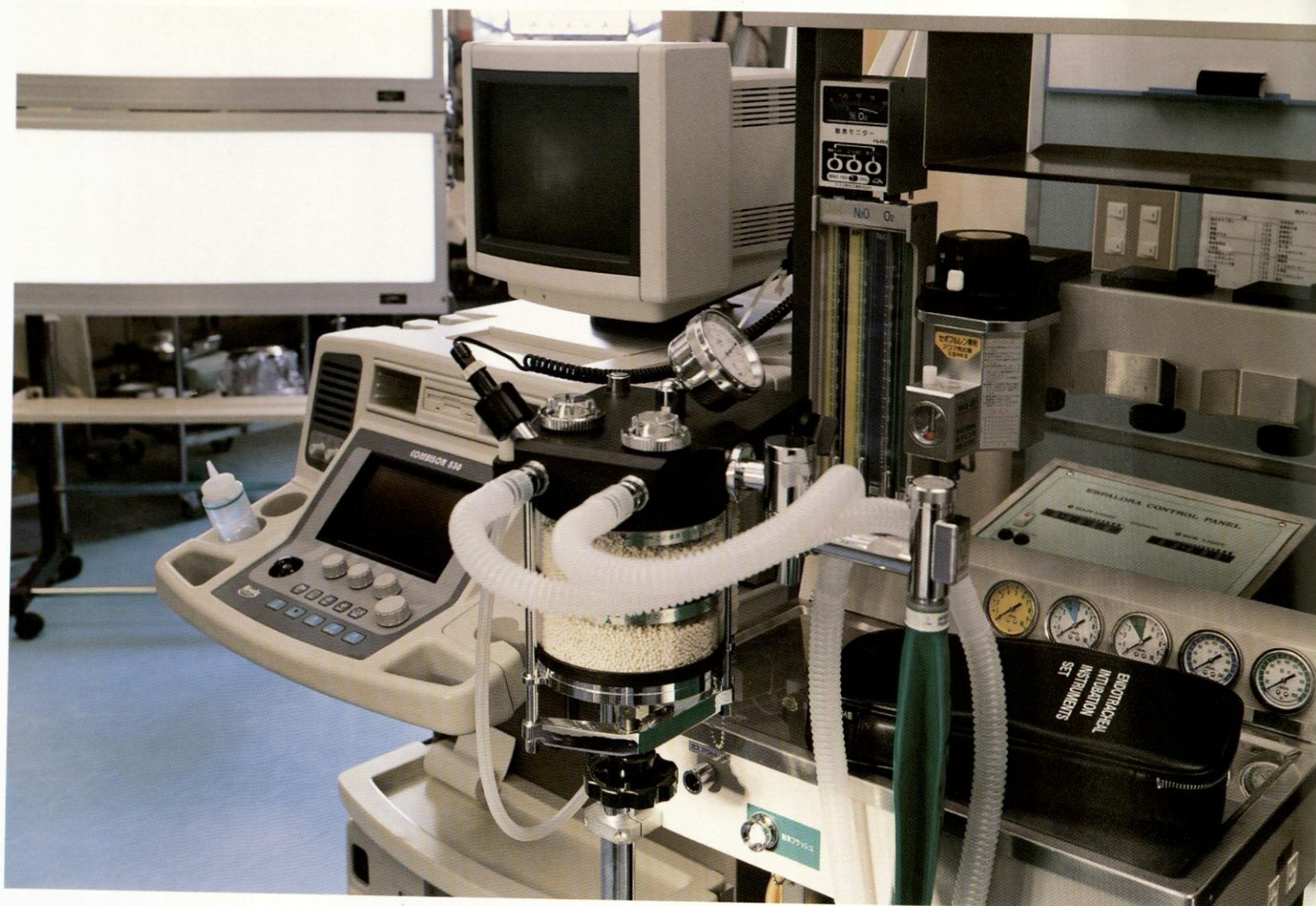
STRONG
ADJUST

AUTO
STOP

T. MATSUO MEDICAL INSTRUMENT CO.

T. MATSUO MEDICAL INSTRUMENT CO.





NEWS & INFORMATION

IDEA FAX
➔ **03-5805-7766**
[+81-3-5805-7766]

ニュース、インフォメーション、展覧会などの情報掲載を希望される方は上記の番号までFAX,または郵送でお送り下さい。掲載料は無料です。
あて先=〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-11 株式会社 誠文堂新光社アイデア編集部 N&I 係。

If you have exhibition or other news and information you would like listed (free of charge), please fax your press releases to our editorial office at Seibundo Shinkosha Publishing Company. address=Seibundo Shinkosha Publishing Co., Ltd. 3-3-11 Hongo Bunkyo, Tokyo 113-0033, Japan

19th Brno Biennale 2000 21.6 -24.9.2000

Graphic design and type in books, magazines, newspapers and new media. The 19th international Biennale of Graphic Design Brno 2000 will take place in Brno (Czech Republic) since June 21 to September 24, 2000. The organisers are the Ministry of Culture of the Czech Republic and the Moravian Gallery in Brno, the co-organisers are the City of Brno, the Brno Biennale Association, the Design Centre of the Czech Republic and the Union of Visual Artists of the Czech Republic. The event is endorsed by ICOGRADA the international Council of the Graphic Design Associations. Books, magazines and newspapers, type design and new media will be exhibited.

Submitting an entry is free of charge. The exhibits sent in will be judged by a pre-selection committee composed of Czech and at least one foreign expert.

At the opening the international Jury: David Carson (USA), Gert Dumbar (The Netherlands), Clara Istlerova (Czech Republic), Mitsuo Katsui (Japan), Ales Najbrt (Czech Republic), Rick Poyner (UK), Wang Xu (China) will announce the Grand Prix, Gold, Silver and Bronze Medals in each category and the special prizes. Also on June 21-23, 2000 the international lecture symposium on the theme:

Design as an open space will take place in Brno. The lectures will be simultaneously interpreted into four languages.

The deadline for sending exhibits is January 15, 2000.

The conditions of entry to the Brno Biennale exhibition as well as information on the symposium can be obtained at the address below:

Brno Biennale Moravska galerie
Husova 18, CZ-662 26 Brno,
Czech Republic
Tel: +420 5 42211464
Fax: +420 5 42215758
E-mail: bienale@mg-brno.anet.cz
<http://www.bienale-brno.cz>

[TERMS OF PARTICIPATION] 1. EXHIBITION CATEGORIES

1. Books (concept of a book, typographic layout of book page, title page, heading, end-paper, serial bindings, illustrations); book cover, sheet music (including CD covers), exhibition catalogues.
2. Magazines and newspapers (concept of a periodical, typographic layout of a page, magazine cover, newspaper headings, magazine and newspaper illustrations).
3. Type (design of new typefaces for books and periodicals, DTP and PC).
4. New media (graphic design of electronic information: CD-ROM, computer games, WWW pages, etc).

NOTE >>

promotional illustrations for press advertising or promotional printed matter, covers, illustrations and layout of promotional brochures and publications, annual reports, company catalogues, etc., individual book bindings and advertising WWW pages.

2. PARTICIPATION

Designers/artists who wish to participate should apply directly to the organizer for application forms. They may apply on their own behalf; or on behalf of an organization of which they are members; or through a publishing house, agency or company for which they work.

3. NUMBER OF SUBMISSIONS

Each designer/artist may enter a maximum of 8 submissions from one or several books or magazines. One submission is deemed to mean one illustration only (1 page), one typographic layout (1 page), one cover, etc., not a set of works. In the category of new media: 8 printed outputs of A3 format (42x30cm) + information medium (CD-ROM, video or internet address). Only works published between 1996-1999 shall be accepted.

4. DELIVERY OF SUBMISSIONS

Each submitted exhibit should bear a label containing data identical with those in the Application Form. Two copies of each work shall be sent, unframed and unmounted, in a hard protec-

tive cover together with a signed entry form and photo-graphs (See/5/). The exhibits must arrive by 15 Jan. 2000 at the latest. Any package burdened by any outstanding customs or postal fees shall not be accepted.

5. EXHIBITION PROMOTION, AND CATALOGUE

It is desired that each entrant provide colour slides of two or three exhibits to assist the organizer in promotion of the exhibition. A condition of entry is that the organizer is entitled to freely use any submitted photographs and / or slides (including the making of photo / slide reproductions and video recordings of the exhibits) in order to promote the exhibition, produce the catalogue, the electronic media, and for educational purposes.

The illustrated catalogue, published by the organizer, will be available to each entrant at a 50% discount.

6. RETURN OF EXHIBITS

The works entered for the exhibition shall not be returned or insured, unless a special request is received from the entrant concerned, and then only after the full payment of all related costs. The prize winning and some other selected works shall become part of the Brno Moravian Gallery's collections.

Each exhibitor shall receive a certificate of participation after the exhibition.

7. SELECTION OF EXHIBITS

The Pre-selection committee shall make selections from the submitted works in accordance with its professional experience, and with regard to the entrant having complied with the terms of participation, and space available.

Pre-selection committee:

PETR BABAK (Prague),
PAVEL HRACH (Prague),
KALIOPI CHAMONIKOLA (Brno),
IVA JANAKOVA (Prague),
MIROSLAV KUDRNA (Prague),
TOMAS MACHEK (Prague),
ALES NAJBRT (Prague),
MARTA SYLVESTROVA (Brno),
DUSAN JUNEK (Bratislava),
CHRISTIE VAN YZENDOORN (The Netherlands)

8. AWARDS

The works on display at the 19th International Biennale of Graphic Design Brno 2000 shall be judged by the international jury which shall award the Grand-Prix (the Golden "B"); together with the Gold, Silver and Bronze medals in each of the separate categories. In addition to these, the jury shall also confer the "ICOGRADA Excellent Award" and other special prizes. The "President of the Brno Biennale 2000 Award" shall be presented by the president of the Brno Biennale independently from the jury. Upon conclusion of the

Biennale, the Critics Award shall be awarded following a vote by journalists and critics.

The international jury:

DAVID CARSON (USA)
GERT DUMBAR (The Netherlands)
CLARA ISTLEROVA (Czech)
MITSUO KATSUI (Japan)
ALES NAJBRT (Czech)
RICK POYNOR (UK)
WANG XU (China)

ブルーノ・ビエンナーレ 2000 来月6月21日開催に先立ち 応募作品を募集

第19回国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ・ブルーノ2000がブルーノ市(チェコ共和国)にて、2000年6月21日から9月24日まで開催される。主催は同国文化省とブルーノのモラヴィアン・ギャラリー(共催はブルーノ市、ブルーノ・ビエンナーレ協会、チェコ共和国デザインセンター、チェコ共和国ヴィジュアルアーティスト協会、ICOGRADA協賛)で、書籍、雑誌、新聞、タイプデザイン及びニューメディア各部門の展示が行なわれる。

応募料は無料。応募作品はチェコ国内及び最低1名の外国人の専門家からなる予備選考委員会が審査し、オープニング時に国際審査員団がグランプリ、金賞、銀賞、銅賞の各賞をそれぞれの部門ごとに、また特別賞も併せて発表する。また2000年6月21日から23日まで「開かれた空間としてのデザイン」をテーマにした国際シンポジウムも開催。シンポジウム中の講演は四カ国語

の同時通訳付。

作品応募締切は2000年1月15日。

作品応募要項は下記の通り。

問い合わせ先は英文参照のこと。

【応募要項】

1. 展示部門

1: 書籍部門(書籍の構成、本1P分のタイポグラフィのレイアウト、タイトルページ、見出し、見返し、シリーズ本の装丁、挿画): 表紙、楽譜(CDジャケットを含む)、展覧会図録。

2: 雑誌・新聞部門(雑誌の構成、タイポグラフィのレイアウト、雑誌の表紙、新聞見出し、雑誌及び新聞挿画)。

3: 活字部門(書籍、雑誌、DTP及びコンピュータのための、新しいタイプフェイスのデザイン)。

4: ニューメディア部門(電子情報のグラフィックデザイン: CD-ROM、コンピュータゲーム、ウェブサイト等)。注意: 報道広告宣伝用イラスト、または宣伝用印刷物、書籍の表紙、宣伝用パンフレット・出版物のレイアウト及びイラスト、会社年鑑、カタログ等。単行本の装丁、宣伝用ウェブサイト等が該当。

2. 参加方法

参加希望のデザイナー及びアーティストは、主催者から申し込み書を直接取り寄せの事。個人の資格での参加、所属団体を代表しての参加、あるいは雇用されている出版社や代理店、会社を通じての参加が可能。

3. 応募点数

単一または複数の書籍・雑誌から、1人最大8点まで。ここで言う1点は、イラスト1点(1P)、1タイポグラフィックレイアウト1点(1P)、表紙1点 等であり、

組になった作品全体を意味しない。ニューメディア部門ではA3(42×30cm)に出力された印刷物8点とそのメディア(CD-ROM、ビデオまたはインターネットアドレス)。1996年~1999年の作品のみ応募可。

4. 作品の搬入

応募作品に申込書と同様の情報を記入したラベルをそれぞれ添付の事。作品1点につき2部ずつ、マウントまたは額装をせずに作品を保護できる硬いカバーに入れ、署名入りの申込書を添付の上送付する(項目5参照)。

応募作品は2000年1月15日必着。

関税がかけられた作品、もしくは郵便料金不足の作品は受け取り不可。

5. 応募作品の宣伝と図録

主催者の宣伝用に、参加者は応募作のスライドを2~3枚ずつ用意する事が望ましい。宣伝、図録あるいは電子メディアの作成、または教育目的での利用のために、参加者の応募作品またはスライドを主催者が自由に使用できる事が参加条件である(写真またはスライドの転載とビデオによる作品の収録を含む)。参加者は主催者発行の図録入りのカタログを50%引で購入できる。

6. 応募作品の返却

当該参加者からの特別な要請があり、かつ所定の費用が支払われた場合以外は返却しない。受賞作品および選ばれた何点かの作品は、ブルーノ・モラヴィアン・ギャラリーの所蔵品となる。

参加者にはビエンナーレ終了後に参加証が渡される。

7. 作品の審査

予備選考委員会が、応募作品が参加条

House IndustriesからHouse-A-Ramaフォントセット発売

House Industriesは、「Sign Painter」や「Tiki Type」など、アメリカの 대중文化のなかから生まれてきた書体をモチーフに、独自の味わい深いフォントをリリースしてきた。その様な態度は彼らの言葉によれば「近代文化のなかで生まれてきた図像を保存する」ためであるという。

今回、1950年代のボーリング場をモチーフにした「House-A-Rama」フォントセットがリリースされた。

このセットにはLeague Night, Strike!, Kingpinのアルファベット3書体、Tenping, Gutterball, High Rollerの3つの図像フォント。及び、17のクリップアートが収められている。他のフォントと同様、いずれもペンやブラシの質感を完全にデジタルフォント化することに成功している。

House-a-rama セットは100ドル+送料で、www.housindustries.comから購入可能。もしくは下記住所に問い合わせのこと。

House Industries
P.O Box 30000
Wilmington, DE 19805

Phone:+1-302-888-1218
Fax:+1-302-888-1650
www.houseind.com

STRIKE!

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

123456789!@#\$%^&*(){}+



HOUSE-A-RAMA FONT COLLECTION RELEASED



件を満たしているか、また会場のスペースに合ったものかを考慮し、プロとしての経験から応募作品の選抜を行なう(予備審査員メンバーは英文参照)。

8. 賞

展示作品は国際審査団が審査し、グランプリ(Golden "B"賞)と共に各部門の金賞、銀賞、銅賞を決定する。さらに審査団は「ICOGRADA優秀賞」、その他の特別賞も審査。「ブルーノ・ビエンナーレ2000組織委員長賞」は、これらの賞とは別に、単独で組織委員長から授与。ビエンナーレの締めくくりにして、ジャーナリストと評論家の投票に続いて「評論家賞」の授与が行われる。国際審査員団メンバーは英文参照。

THE 6TH INTERNATIONAL POSTER TRIENNIAL IN TOYAMA, 2000

This exhibition of posters chosen from throughout the world is intended to provide a review of the current state of international poster design.

[ORGANIZER]

The Museum of Modern Art, Toyama

[DATE]

5th August to 29th October, 2000

[SITE]

The Museum of Modern Art, Toyama

[ENTRY QUALIFICATIONS]

All entries must be the work of the entrant, printed in poster form after 1997. Entries should be no smaller than 36.4×51.5cm (14.3×20.3inch) and no larger than 180 × 120cm (70.9×47.3inch), and must fall into either of the following two categories:
(A) Printed and published posters
(B) Unpublished poster in self-promotion (It's theme is freely. But it must be put the word "IPT 2000" as credit.)

[NUMBER OF ENTRIES]

Not more than three per artist or group in each categorie.

[REGISTRATION FEES] None

[ENTRY DEADLINE]

All entries must be received at the following address by March 20, 2000.

The Organizing Committee of IPT 2000

The Museum of Modern Art, Toyama
1-16-12 Nishinakano-machi
Toyama-shi, Toyama, JAPAN
Tel: +81 76 421 7111
Fax: +81 76 422 5996

[SCREENING]

The National Jury will select all posters for the exhibition.

Prize will be awarded by the international Jury.

National Jury:

Kazumasa NAGAI, Ikko TANAKA, Shigeo FUKUDA, Masataka OGAWA, Mitsuo KATSUI, Koichi SATO, Masatoshi TODA, Makoto SAITO, Kaoru KASAI, Kenya HARA

International Jury:

Brad Holland (USA),
Uwe Loesh (Germany),
Niklaus Troxler (Switzerland),
Mitsuo KATSUI (Japan),
Masataka OGAWA (Japan)

[PRIZE]

Grand-Prix 1 million yen
(one from both categories)

Gold Prize 500,000yen
each(one per categories)

Silver Prize 300,000yen
each (three prizes from both categories)

Bronze Prize 100,000yen
each (ten prizes from both categories)

Yusaku Kamekura International
Design Award 500,000yen
(one from both categories)

第6回世界ポスタートリエンナーレ・トヤマ2000 世界に向けて作品募集中!

2000年8月5日から10月29日まで、富山県立近代美術館にて「第6回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2000」(略称IPT 2000、主催:富山県立近代美術館)が開催される。これは世界のポスターデザインの現況を概観するために世界各国から公募・選抜されたポスター作品を展示公開する国際展覧会で、今年もまた開催に先立って時代を示唆するポスター作品を公募する。応募資格は一切不問。詳しい応募要項等の申し込みは下記までお問い合わせを。

[募集作品]

応募者本人が制作した平面表現のポスターとする。フロッキーによる応募は不可。サイズは36.4×51.5cm～180.0×120.0cmの範囲内。

A部門:実際に印刷発表されたポスター(1997年以降に製作されたもの)

B部門:オリジナル自主制作ポスター(テーマ特定はないがIPT2000の文字を必ずポスター内に入れること)

[出品点数]

1人または1グループにつきA、B部門それぞれ3件以内。シリーズポスターは3点以内で1件とみなす。

[出品料] 無料

【応募締切】2000年3月20日必着

[審査]

同美術館が組織した第一次審査会によって選出された入選作品の中から、第二次審査会によりAB両部門の入賞作品を決定する。

第一次審査員:永井一正、田中一光、福田繁雄、勝井三雄、佐藤晃一、葛西薫、戸田正寿、サイトウ・マコト、原研哉、小川正隆

第二次審査員:ウーヴェ・レーシュ(ドイツ)、ニコラウス・トロクスラー(スイス)、ブラッド・ホーランド(アメリカ)、勝井三雄、小川正隆

[賞・賞金]

グランプリ...両部門で1点 100万円
金賞.....A・Bそれぞれ1点 50万円
銀賞.....両部門で3点 30万円
銅賞.....両部門で10点 10万円

亀倉雄策国際賞...A・B両部門の入選者から1名選出し、賞状、トロフィー、賞金50万円を授与

【作品送付・問い合わせ先】

〒939-8636

富山市西中野町1-16-12

富山県立近代美術館 IPT 2000係

Tel: 076-421-7111

Fax: 076-422-5996

International Biennale of Graphic Design Moscow 2000

[Organizers]

Academy of Graphic Design, Association Golden Bee, Association of Designers of Russia, Design Union Magazine, Expo Park Firm, Kak Magazine, Linia Grafic Firm, Ministry of Culture of Russian Federation, Russian Design Center.

[Entry categories]

Posters: Posters published between 1999-2000. No special format or printing technique is required.

One slide or transparence must be submitted with every entry. Brochures: Printed matter, covers and layouts of promotional brochures, annual reports, exhibition or company catalogues, etc. published between 1999-2000. T-shirt Design: T-shirts manufactured between 1996-2000. Number of entries is unlimited.

[Participation fee] None

[Deadline] 15. 2. 2000

[Entry Form & Entry Label]

You can make form & label with

neccesary information. Also make description of work in free view. They must be filled in block letters. Labels must be attached to the buck of the pieces with adhesive tape (don't glue). Make a copy of the entry form, if necessary.

[International Jury]

Shigeo Fukuda (Japan).

Serge Serov (Russia).

Leonardo Sonnoli (Italy).

Stephan Sagmeister (USA).

Niklaus Troxler (Switzerland).

[Awards]

Golden Bee Grand Prix, Golden Bee Awards and Special Awards.

[Exhibition]

Entries selected by Pre-Selection Committee will be displayed at Moscow Central Artists Hall.

April Exhibition Entries selected by Pre-Selection Committee will be displayed at Moscow Central Artists Hall April 4 - 9, 2000.

[Accompanying events]

Special show "The Best posters of 90's from Golden Bee 1-4", exhibition "Design and Advertising", inter-national symposium and numerous other accompanying events will take place at the biennale-week.

[Catalogue]

An illustrated retrospective catalogue "The Best from Golden Bee 1-5" will published after biennale.

[Mailing address]

Linia Grafic Golden Bee
Russia 117049 Moscow
Kaluzhskaya Square 1
Please don't forget to mark "Printed matters", "Non-commercial value", etc. for customs.
Fax: +7 95 230 3452
Tel & Fax: +7 95 211 5966
Dr. Serge Serov
Golden Bee President
E-mail: serov@mega.ru
Internet: http://goldenbee.design.ru

国際ビエンナーレ グラフィックデザイン モスクワ2000 作品募集

【主催】グラフィックデザインアカデミー、Golden Bee 協会、ロシアデザイナー協会、他(以下英文参照)

【募集部門】

ポスター: 1999~2000年に発表されたもの。形体、印刷手法は自由。

1作品につきボジ1枚を提出のこと。

パンフレット：印刷物、宣伝用パンフレットの表紙とレイアウト、年鑑、展覧会や企業のカatalogなど1996～2000年に発行されたもの。

Tシャツデザイン：1996～2000年に製造されたTシャツ。

何点でも応募可。

【参加料】 無料

【締切】 2000年2月15日

【応募書類・応募票】

応募用紙からコピーを取るか、基本的な情報とともに自由に作成すること。必要であれば作品の解説も。

応募票にはブロック体で記入し、作品の裏に粘着テープで貼り付ける(糊付けは不可)。応募書類は必要ならコピーをとる。(各国審査員は英文参照。)

【賞】

Golden Bee グランプリ, Golden Bee賞, 特別賞

【展示】

予選通過作品はモスクワ中央芸術ホールにて2000年4月～9月まで展示。

同時開催として特別展「Golden Bee 90年代秀作ポスター1～4」、「デザインと広告」展。この他にビエンナーレ週間には国際シンポジウムや多数のイベントを開催予定。また写真付き回顧カタログ「Golden Beeの秀作1～5」をビエンナーレ終了後出版予定。

なお応募作品発送の際に、必ず表に「Printed matters」 「no commercial value」と記入すること。応募・問い合わせ先は英文参照。

「FUSE EXHIBITION」 10月26日までgggで開催

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

(東京・銀座)では1999年10月26日(火)まで、第161回企画展「FUSE EXHIBITION～AN EXHIBITION OF

FUSE POSTERS AND FONTS」(企画・監修：Neville Brody, 江並直美)を開催中。

1991年、Neville Brody(UK)によって創刊された季刊フロッピーマガジン「FUSE」は、タイポグラフィと視覚言語、変貌するコミュニケーションメディアへの考察をコンセプトに、90年代のタイポグラフィシーンに多くの問題提起を行ってきた。毎号4人のデザイナーによる実験的デジタルフォントと様々なメッセージがパッケージされたそれは、コンテンツパブリケーションの始まりともいえるもの。同展では新鮮なアイデアと文字表現の可能性を開いたFUSEフォントとタイポグラフィの視覚言語を用いた抽象表現の可能性を模索する。開館時間は11:00～19:00(土曜は18:00まで、日曜・祝日は休館)、入場無料、詳細は下記まで。

☆問い合わせ先

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

〒104-0061 東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル

Tel: 03-3571-5206

Fax: 03-3289-1389

<http://www.dnp.co.jp/gallery/contents.html>

眺めて、手に取って楽しむ ドイツの最も美しい本展 MOTSにて開催中

ドイツのエディトリアル・デザイン財団がその年の新刊書の中から最も美しい本を選ぶコンクール「ドイツの最も美しい本展」が、東京ドイツ文化センター協賛により11月30日(火)まで東京・新宿のMOTS(モリサワ・タイポグラフィ・スペース)で開催されている(開館は10:00～18:00、日曜・祝日休館、入場無料)。

今年で3回目の開催となる同企画展で

は、1998年の応募総数836点の中からタイポグラフィ、グラフィックデザイン、印刷、製本など造本の全要素について審査され、選出された受賞作品50点、奨励作品10点を展示紹介。ブックデザインのすべての要素が調和した美しく完成度の高いドイツの本の数々を、直に手に取って鑑賞することができる。

また今回は独エディトリアル・デザイン財団事務局長ウォルフガング・ラッシュ氏を招いての交流会も企画(11月12日、13日)。参加者は事前に自分の手掛けた本を提出し、ラッシュ氏とともに問題点等をディスカッションするという趣旨。このワークショップへの参加希望者は下記まで。

☆問い合わせ先

MOTS

〒162-0822 新宿区下宮比町2-27

モリサワビル1F

Tel: 03-3267-1233

Fax: 03-3267-1536

新しいメディア・アートの 可能性を追求する ICCビエンナーレ'99開催

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] では、10月15日(金)から11月28日(日)まで「ICCビエンナーレ'99」を開催する。これはメディア・アートの新しい表現の可能性を追求し、優れた新人の発掘育成を目的に隔年で開かれる指名制によるコンペで、第2回目となった今回は「インタラクティブ」をテーマに世界各国から選出された10名(組)のアーティストが参加。この中から展示会に先駆けたグランプリ発表会(10月14日)にて、グランプリ1点と準グランプリ2点が決定。受賞者には同展のオープニングポスターやロゴデザインを手掛けた矢萩喜徳郎氏デザインのトロフィーが授与される。また関連イベントとして、10月16日(土)14:00～16:00、同館5階ロビーにて、本年度受賞アーティストと前林明次氏('97年準グランプリ)のディスカッション「メディア・アートの行方(仮題)」を予定。

☆問い合わせ先

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

〒163-1404 新宿区西新宿3-20-2

東京オペラシティタワー 4階

Tel: 03-5353-0800

Fax: 03-5353-0900

日本の生活デザイン展に 20世紀のジャパニズム を巡る

10月15日(金)から24日(日)まで、名

古屋のナディアパーク・国際デザインセンターにて「日本の生活デザイン展～20世紀のモダニズムを探る」が開催される。これは「生活デザイン」をキーワードに、1920年代の大正期から戦後ポストモダンが出現するまでの約50年間を展望し、都市環境から住宅建築、家具、日用雑貨まで、住環境という枠組みから20世紀の日本の生活文化を検証するもの。

会場は「デザイン運動の始まり」近代化の実践をした建築家など6つの展示テーマに分けられ、代表的なデザイン運動とデザイナーをクローズアップ。会場内には著名デザイナー37人のビデオインタビューも流される。同展の開場時間は11:00～20:00(最終日は18:00まで)で会期中無休、入場無料。

☆問い合わせ先

日本の生活デザイン名古屋事務局

〒460-0008 名古屋市中区栄3-18-1

デザインセンタービル

(株)国際デザインセンター内

Tel: 052-265-2104

コンペ応募作品を募集中 広島国際アニメーション フェスティバル

来年2000年で8回目を迎える映画祭「広島国際アニメーションフェスティバル」が、2000年8月24日から28日までの5日間に渡って開催される。

1985年からビエンナーレ形式で開かれてきた同フェスティバルは、アニメーションというジャンルを通じて愛と平和の国際文化都市・広島をアピールする趣旨をもって発足されたもの。今回も本大会プログラムの中心となるコンペティションへの応募作品を募集している。

応募作品の条件は

- 1) コマずつ制作された作品であること
- 2) フィルムまたはビデオテープ作品
- 3) 上映時間は30分以内
- 4) 1998年4月1日以後に完成された作品であること
- 5) 既製キャラクターやシナリオ、音楽などを使用する場合は許可済みであること
- 6) フィルム・ビデオ1本につき1作品
- 7) 他フェスティバルの受賞作品でも応募できる。

出品料は無料。入選作品にはグランプリ100万円ほか各賞金が贈られる。出品申込書等の請求、応募の詳細は下記事務局まで問い合わせを。

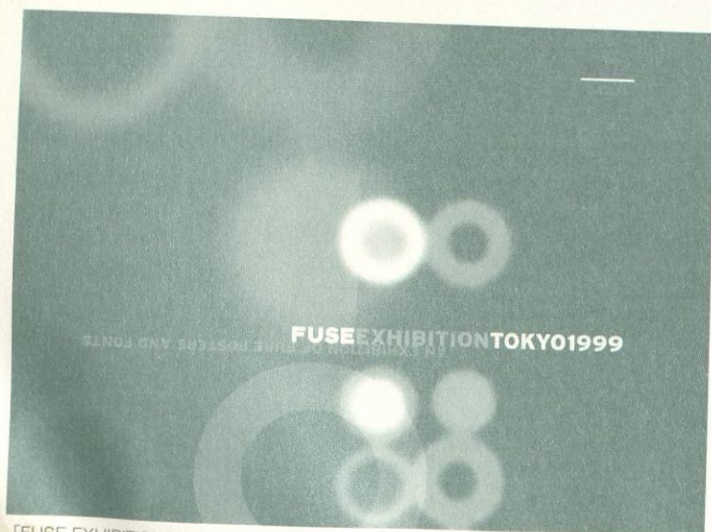
【出品申込み締切】

2000年3月21日必着

【作品の送付期間】

2000年3月1日～4月21日

☆出品申込書請求・問い合わせ先



「FUSE EXHIBITION」10月26日までgggにて開催中

広島国際アニメーション
フェスティバル事務局
〒730-0812 広島市中区加古町4-17
アステールプラザ内
Tel: 082-245-0245
Fax: 082-245-0246
E-mail: hiroanim@urban.ne.jp

キリンコンテンポラリー・ アワード1999の 入賞作品が決定!

若手芸術家への支援活動の一環として
毎年開催されている現代芸術のコンク
ール「キリンコンテンポラリー・ア
ワード1999」(主催・キリンビール(株))
の各受賞作品が決定された。

最優秀作品賞に選ばれたのは東手氏の
インスタレーション作品「にっぽんの
台所」で、インスタレーションジャン
ルが同賞に選ばれたのは初めての事。
立体装置にアニメーションの映像を投
影したこの作品は、明快でリズム感に
溢れたメッセージ、また映像のもつ特
性を生かしたデザイン力、構成力など
が高い評価を得ての受賞となった。

その他優秀賞にはAlias Compagnic/
Guilherme Botelho「On ne pent pas
toujours etre en apnee」(ダンス)、
糸崎公朗「フォトモによる非人称芸術
の記録」、板倉亜由子「おふろ生活」
(パフォーマンスアート)の3作品が受
賞、また奨励賞には国内外9作品が選
出された。

今年で10周年を迎えた同コンクール
は、例年インスタレーションジャンル
に多数の応募があるのが特徴(99年度
は117点)。今後も新鋭アーティスト
の発掘と育成を支援する活動を目指す。
なお、10月15日~11月7日まで、キ
リンプラザ大阪にて「キリンコンテ
ンポラリー・アワード1999 受賞作品
展」が開催される(東京会場は終了)。
詳細は下記までお問い合わせを。

☆問い合わせ先

キリンビール お客様相談室

Tel: 0120-111560
(フリーダイヤル)
キリンホームページ
http://www.kirin.co.jp

四万十デジグリは デジタル・コンテンツを待つ

デジタルコンテンツのコンテスト「第
2回四万十デジタルビレッジ・クリエ
イタースグランプリ」(通称デジグリ、
主催:高知県・「こうち2001プラン」
推進協議会ほか)では、デジタルの力
で創り出す「物語=コンテンツ」作品を
募集中。これまでのキャラクター・コ
ンテンツ部門に加え、今回からネット
ワーク・コンテンツ部門、土佐四万十
コンテンツ部門を新設、次世代コンテ
ンツの動向を先取りしてコンテスト拡
充を図る。各入賞作品にはグランプリ
100万円ほか賞金が贈られる。応募締
切は1999年11月30日(火)当日消印
有効。詳しくは下記係まで応募要項を
請求するか、下記のHPへアクセス。

☆問い合わせ先

〒780-0870

高知県高知市丸ノ内1-2-20

高知県庁 デジグリ係

Tel: 088-823-9165

Fax: 088-823-9647

http://www.digitalvillage.gr.jp/con
test

ブレイク予感のキャラ大募集 創作キャラコンとは?

全国の大学生、デザイン系専門学校生、
高校生を対象にしたオリジナルキャラ
クターコンテスト「第4回創作キャラ
コン学生大賞」(主催:(株)ナンバース
リー)の作品応募が始まっている。募集部
門は個人部門の1.電脳キャラ、2.び
っくりキャラ、3.ほのぼのキャラ、4.動
物キャラ部門の4つとグループ部門(5.
動画アニメーションを使ったメッセ
ジカード・グリーティングカード用キ
ャラクター)。田中惣二、いがらしゆみ

こ、竹中直人各氏ら7名の審査員により
「新鮮な驚きと可能性を感じさせる、学
生らしい感性を生かした作品」という
選考基準のもとに各部門の入賞作が選
出される。大賞には賞金各20万円ほか
各賞に賞金が贈られる。詳しくは下記
事務局まで応募要項を請求、またはHP
を参照。

【応募資格】

各種大学、専門学校、各種高校、予備
校在学中の学生

【出品料・応募用紙】

作品出品料として500円分の現金書留
又は郵便切手を事務局まで送付。入金
確認後、応募用紙が送られる。

【応募締切】

1999年11月30日(火)必着

☆応募用紙請求・問い合わせ先

創作キャラコン学生大賞事務局

〒112-0002

東京都文京区小石川1-7-7

ラ・ベルティ小石川5F

(株)ナンバーズリー内

Tel: 03-3818-0575

Fax: 03-3818-7970

E-mail: characon@number3.co.jp

http://www.number3.co.jp/charac
on.html

第5回札幌国際デザイン賞 公募テーマは夢ある 国際都市・札幌の街づくり

1991年から開催されている標記デザ
インコンペ「第5回札幌国際デザイン賞」
への作品公募がもうすぐ始まる。今年
度は「夢のある札幌をデザインする~
新しいまちづくりのためのデザイン~」
をテーマに、国際都市・札幌の夢を自
由に、より個性的に創造されたデザイ
ンを日本国内はもちろん世界各国のあ
らゆるデザイン分野から広く募集する。
応募資格は一切不問(団体可)、応募
点数には制限なし(未発表作品に限る)。
応募希望者は住所、氏名(ふりがな)、
年齢、職業、電話番号を明記して、郵
便、ファクス、電子メールのいずれか
の方法で下記事務局まで出品書類を請
求のこと。細かい出品方法や規格につ
いては、後日事務局から送付される応
募要項を参照してほしい。

入賞作品には大賞1点100万円ほか賞
金が贈与。なお今年度の受賞作品展は
2000年3月8日(水)~26日(日)、札幌
市資料館ギャラリーで開催予定。

【作品提出期間】

2000年1月10日~1月31日必着

☆出品書類請求・問い合わせ先:

札幌国際デザイン賞実行委員会事務局

〒060-0001

札幌市中央区北一条西7丁目

住友海上札幌ビル8F
(社)北海道未来総合研究所内
Tel: 011-207-2630
Fax: 011-261-4882
E-mail: design@voicenet.co.jp
http://www.city.sapporo.jp/shimin
/dezain/saphtml/index.htm

中谷宇吉郎生誕100年記念 「雪のデザイン賞」作品公募

石川県加賀市の中谷宇吉郎生雪の科学
館では、「雪博士」宇吉郎の生誕100
年を記念して、雪や氷の現象をモチ
ーフにしたオリジナルデザイン作品を公
募する。募集分野は小物、工芸品、ポ
スター、オブジェなど搬送可能な現物
作品のみ。応募資格はプロアマ問わず、
グループ・企業での参加も可。応募希
望者はまず出品申込書を取り寄せて参
照のこと。入賞作品には金賞50万円ほ
か各賞金が贈られる。出品申込書請求、
詳しくは下記事務局まで問い合わせを。

☆問い合わせ先

雪のデザイン賞事務局

〒922-0411 石川県加賀市津田町

イ-106 中谷宇吉郎雪の科学館内

Tel: 0761-75-3323

Fax: 0761-75-8088

●誠文堂新光社ホームページが開設 しました

アイデアを含めた弊社発行の雑誌書
籍及びバックナンバーの検索・購入
が可能な弊社のホームページがオー
プンいたしました。

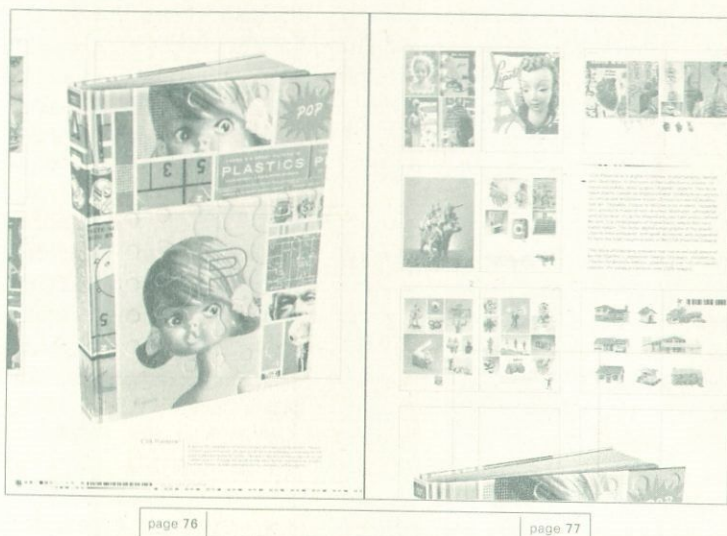
URLはhttp://www.seibundo-
net.co.jpです。皆さまのアクセス
をお待ちしております。

●お詫びと訂正

弊社アイデア275号248ページの
五十嵐威暢氏の著書に関する記述の
中で、五十嵐氏がTBS社の企業ロ
ゴをデザインしたかのような記述が
ございましたが、そのような事実関
係はございません。
関係者各位にはこの場を借りてお詫
び申し上げます。



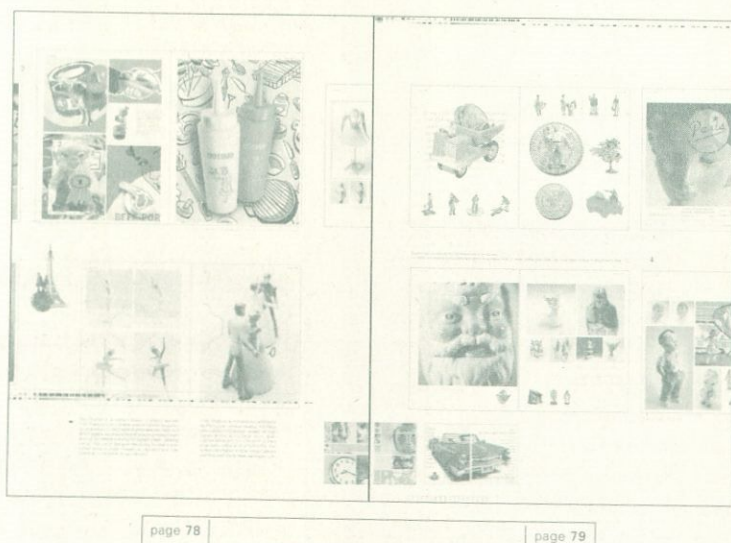
キリンコンテンポラリー・アワード1999 優秀受賞作品
糸崎公朗「フォトモによる非人称芸術の記録」



「There's a Great Future in Plastics」というタイトルで、320ページの特別ハードカバー版CSA Plastock Bookが、署名と番号入りの3000部限定で制作された。本書には通常版の画像に加えて、2500点を越す映像と共に、Stephen Fenichellによるプラスチックの歴史に関するテキストが収められている。www.csaimages.com で詳細と在庫を確認できる

●CSA Plastockは、写真、デザイン及びイラストレーションのデジタルデータ・ストックである。この集大成の核となるのはプラスチック、正確にはプラスチックで出来たオブジェの写真である。この本では、プラスチックを本来のコンテキストから外し、これらの物体を土着の彫刻、つまり大量生産される現代的民俗芸術の一つの類型として扱っている。これまでに発明されたものの中で、プラスチックが未だに最も近代的で用途万能な人工的物質であることは明らかである。柔軟で、変形が利き、どこにもあるプラスチックは用途に応じて、どのような形にでも造形できる。ここに収録されたそれらの物体の写真は、まさしくそのような性質を映し出している。初めに撮影した元デジタル写真は、様々な画像処理を経てCSA Plastock Catalogに見られる最終的な画像に合成された。

●この素材集はCharles S. Anderson Design Companyの発案である。Charles Andersonが生涯に集めた10万以上ものプラスチックのオブジェをはじめ、この図録には2500を超える映像が集められた。



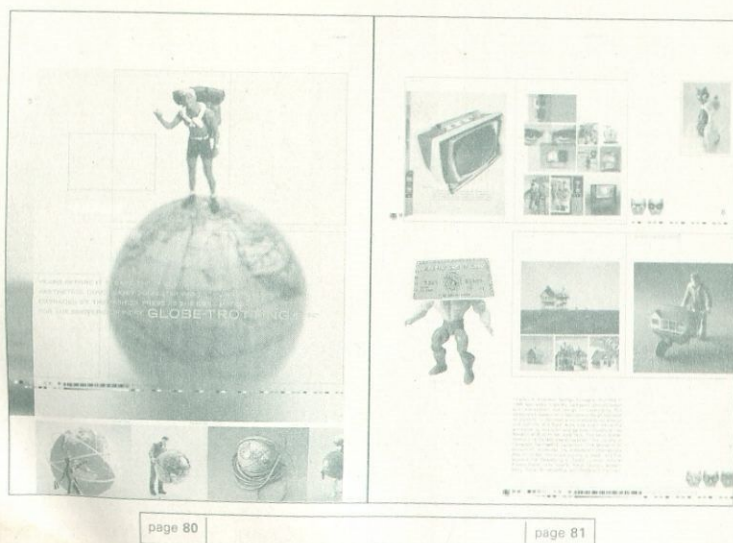
page 78

●The Charles S. Anderson Design Companyは、CSA Plastockがフレキシブルに、自由な解釈のもとで使われる素材となるように望んでいる。Plastockの写真に加え、映像の蓄積という世界における革命的な手引きである、デジタル加工可能で、アートディレクターやデザイナーが自分用に独自の映像の在庫を作る、背景や切り抜いて使うオブジェを含む、Plastock Visual Componentsもある。

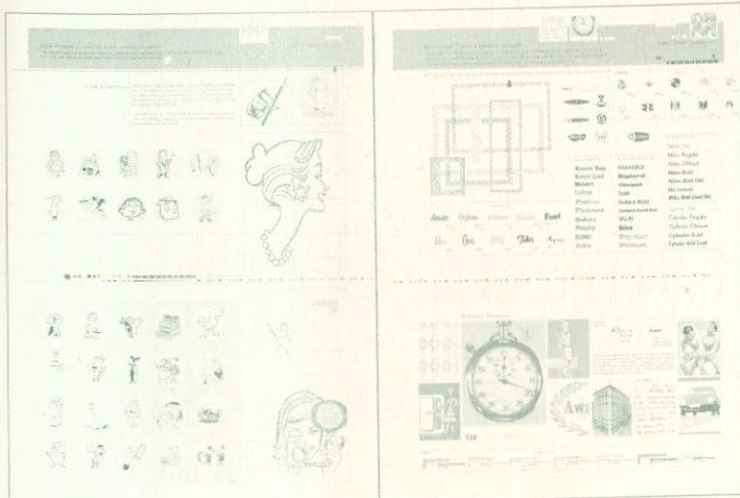
●CSA PlastockはPhotonica/amana imagesを通じて世界中に供給されている。Photonicaに関しての詳細は、Photonicaの東京事務所03-3406-1911、ロンドン事務所0-171-278-4117、またはニューヨーク事務所212-505-9000まで。尚、CSA Imagesに関する情報は、インターネットwww.csaimages.comで入手できる。

page 79

●どの時代も、その時代の産物によって定義される。1979年、世界のプラスチック生産高は鋼鉄の生産高を上回った。以来、我々はプラスチック時代に暮らしている。



●1989年創立のCharles S. Anderson Design Companyは、ロゴマークデザイン、パッケージデザイン、製品デザイン及び開発、そして広告デザインを専門とするデザイン事務所である。現代のデザイン界にこの会社が与えてきた影響は、内外のデザイン関連の出版物から高く評価されている。また、その作品は、The Museum of Modern Art, New York, The Smithsonian Institution's Cooper-Hewitt Museum, The Library of Congress Permanent Collection, 広島近代美術館, The Institute of Contemporary Arts in London, 東京のGGG, The Museum für Gestaltung in Zürich等、世界中の美術館、画廊で展示されている。また、主なクライアントには、French Paper, Nike, Levi's, Ralph Lauren, 日産, Sony, Turner Broadcansing, Paramount Pictures等が名前を連ねる。



page 82

page 83

page 82

●Mr. French (TM) fonts, Elements, Images

1871年以来、The French Paper Companyは、独特の文字と包装紙を創りつづけている。印刷の伝統と、紙に書いたばかりのインク感がMr. Frenchという、圧倒的な図像、マーク、デザイン要素、タイプフェイス……そしてそれらを印刷する紙模様に関する、膨大なデジタルアーカイブの着想の源である。

●Mr. French: デザイナーとアートディレクターのための、24時間気軽にアクセスできる素材の宝庫。www.mrfrench.com

●Mr. French (TM) Printstock

あちこちのポップカルチャーイメージを反映し、Printstockは、最も詳細、広範かつ選び抜かれたイメージの集大成である。絵画的、写真的、イラスト的なあらゆるアプローチにおける何千もの画像が、印刷物の質感で統一されている。低解像度のものは直接ダウンロードが可能。

page 83

●CSA Images : CSA Aechive, CSA Snapstock, CSA Plastock, CSA Assignment

この見開きに掲載されている図像はまた、CSA Imagesで利用可能です。詳しくはwww.csaimages.comとwww.mrfrench.com参照。

●CSA Snapstock: CSA Snapstockは7000以上の線画を集めたユニークなリソースである。ポップアートやキュビズムといった20世紀後半の芸術運動の影響を受けつつ、このコレクションに集められた線画は、より原典に忠実かつデザインに影響を受けたスタイルになっている。CSA Plastockと同様、CSA Snapstockは、広告、デザイン、製品への応用を目的としたレンタル画像素材集である。

■日本での利用について

CSA Plastockを初め、この冊子に掲載された図像はアマナ・イメージズにて利用可能です。

●Stock Illustration Catalog

ページ数: 464ページ

作品数: 7800点

貸し出し形態: デジタルデータ

●PlastockCatalog

ページ数: 320ページ

作品数: 2332

作品の貸し出し形態: ポップアート系、デジタルデータ

上記2冊はいずれもストックイメージとして商業的なレンタル使用を前提として作成されたカタログです。一般書店での取り扱いはありませんのでご注意ください。素材使用に関する詳しいお問い合わせはアマナ・イメージズ青山店 (03-3406-1911)、銀座店 (03-3544-1499) までお願いいたします。また、CSA Plastockの3000冊限定版につきましては、現時点での国内販売は決定しておりません。



写真は限定版の表紙

Addresses of Contributor

Farrow Design Ltd. (p.10)
Second Floor
19-21 Great Portland Street
London, W1N 5DB
United Kingdom

0171 580 4090
0171 636 3385 (FAX)
0171 637 3516 (ISDN)

Paul Elliman (p.49)
<paul.elliman@yale.edu>

Charles S. Anderson Design Co. (p.76)
30 North 1st Street, 4th Floor
Minneapolis, Minn. 55401
Phone +1-612-339-5181
FAX +1-612-339-3283

Manhattan Transfer (p.64)
545 Fifth Avenue New York NY 10017
U.S.A.
+1 212 907 1216 (TEL)
http://www.mte.com

Tadanori Yokoo (p.84)
4-19-7 Seijo, Setagayaku, Tokyo
157-0066, Japan

+81 3-3482-2826 (TEL)
+81 3-3482-2451 (Fax)

Yasuhide Kuge (p.88)
5-10-2 #103 Taishido, Setagayaku, Tokyo
154-0004, Japan
+81 3-3424-5235 (TEL)
+81 3-3424-9505 (Fax)

Shinro Ohtake (supplement)
3-6 Nishikicho, Uwajimashi, Ehime
799-0034, Japan
+81 89523-2868 (TEL)
+81 89523-3747 (Fax)

横尾忠則 (p.84)
〒157-0066
東京都世田谷区成城4-19-7
03-3482-2826 (TEL)
03-3482-2451 (Fax)

久家靖秀 (p.88)
〒154-0004
東京都世田谷区太子堂5-10-2 #103
03-3424-5235 (TEL)
03-3424-9505 (Fax)

大竹伸朗 (とじ込み付録)
〒1799-0034
愛媛県宇和島市錦町3-6
0895-23-2868 (TEL)
0895-23-3747 (Fax)

追悼 P. SCOTT MAKELA

彼の先見性に富んだ作品集による
スコット・マケラ [WIDE OPEN]展が
大阪・DDDギャラリーにて開催中

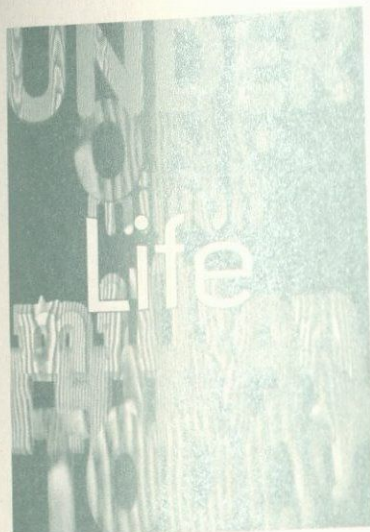


スコット・マケラ[WIDE OPEN]展
9/21-10/20まで大阪・DDDギャラリーで
開催中。

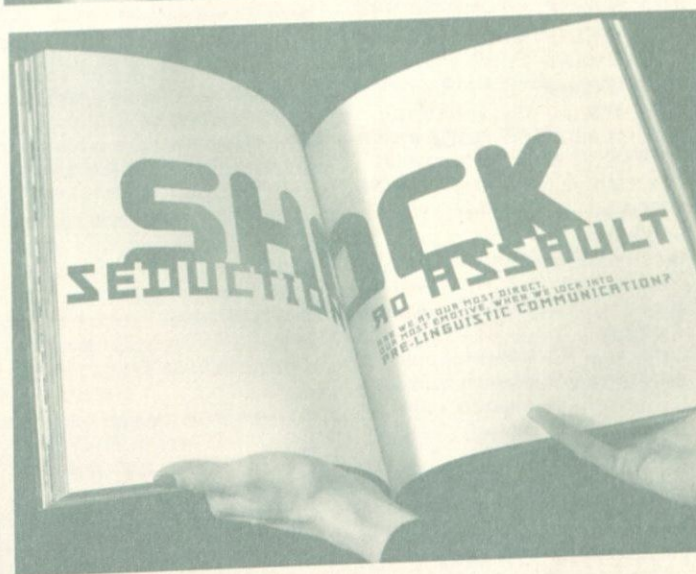
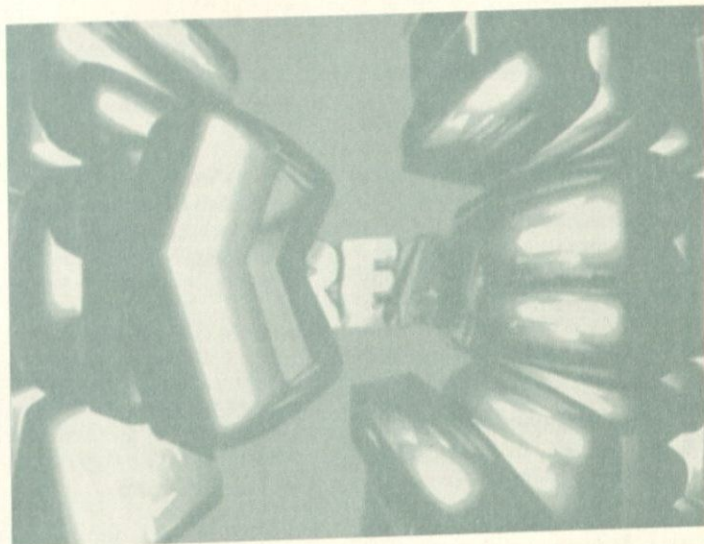
P. スコット・マケラは1960年ミネソタ州セントポール生まれ。ミネソタ大学で政治学を学んだ後、ミネアポリス カレッジ・オブ・アート&デザイン、クランブルック・アカデミー・オブ・アートで学位を取得。彼は電子展示理論、デジタル映像、印刷物のタイポグラフィなど、新興の媒体に早くから関心を寄せ、特に音楽ビデオではマイルス・デイヴィス、ライフ、セックス・アンド・デス、10,000マニックス、アー・ジ・オーバークル、そしてマイケル・ジャクソンの『Scream』などを手がけ、さまざまな領域を行き来し、多くのクリエイターに影響を与えた。1998年秋にはルイス・ブラックウェルとの共著、『WHERE IS HERE』をロンドンのカルマン&キング社から出版し、現代の映像とデザイン、そして写真の展開における心的態度と強迫観念の思想を探究した。さらにデヴィット・フィンチャー、ジェフリー・ブランスカーとともに制作した映画『ゲーム』のオープニングタイトル・シーケンスは1998年ID誌年間デザインレビュー賞を受賞し、近日公開のデヴィット・フィンチャー監督の『ファイトクラブ』でも新たなタイポグラフィの可能性を感じさせるタイトル・シーケンスを手掛ける。そのほか、AUDIOAFTERBIRTH(インダストリアル・ソウルミュージックバンド)としてemigre musicより2枚のCDをリリースしている。

パートナーであるローリー・ヘイコック・マケラとともにクランブルック芸術大学の平面デザイン学科の共同学科長であり、MAKELA (元Words + Pictures for Business + Culture) を共同経営していた。1995年6月7日、急逝。

Portrait of P. Scott and Laurie Haycock Makela
Photo: Laura Heyman



do the People
WHO LIVE HERE SING THE PRAISES OF THEIR "ART-AWARE" TWIN
CITIES. THE EXTREMES OF THE FOUR SEASONS. LOOKS ON 10,000
LAKES. THE BOUNDARY WATERS CANOE AREA. THE SHORES OF
LAKE SUPERIOR. MILES AND MILES OF HIKING-SKING-BIKING-
BOATING PATHS IN 137,000 ACRES OF CITY PARKS! WHAT CAUSES
PEOPLE TO MOVE AWAY AND THEN MOVE BACK AGAIN?
The answers are as varied as temperature
changes in March:
"IN NEW YORK, PEOPLE ARE ANGRY. IN L.A. YOU HAVE TRAF-
FIC AND EARTHQUAKES. I'LL TAKE SOME COLD WEATHER OVER
THAT ANY DAY."
"THE APARTMENTS ARE GREAT."
"IT'S SAFER THAN MOST OTHER CITIES."
"WHERE ELSE CAN YOU MAKE AN ICE SCULPTURE FOR A CLASS
PROJECT OR SAIL AN ICE BOAT ON A CITY LAKE?"
"THERE'S A STRONG UNDERGROUND CULTURE."
"THE BLUE SKY IN WINTER."
"BECAUSE WHEN YOU GO TO BERLIN OR LONDON AND SAY
YOU'RE FROM MINNEAPOLIS, PEOPLE KNOW IT FOR ITS ART
AND MUSIC."
"THE CITY HAS A GREAT SUPPORT SYSTEM FOR ARTISTS."
EVERY STREET CORNER HAS A GALLERY. I WAS
SURPRISED BY THAT.
"I GO TO THE MINNEAPOLIS INSTITUTE OF ARTS. NEXT TO OUR
CAMPUSE, AND SIT IN FRONT OF MY FAVORITE PAINTINGS."
"PEOPLE IN MINNEAPOLIS ARE VERY OPEN-MINDED."
"MINNEAPOLIS IS FILLED WITH ARTISTS WITH FRESH IDEAS."
THERE'S AN ENERGIZING FEELING OF GROWTH IN THIS CITY
AND AN OPENNESS TO NEW NAMES AND FACES IN THE LOCAL
ARTS COMMUNITY.
"THE ARCHITECTURE IS INTERESTING
AND THERE'S WATER EVERYWHERE."
"WHEN IT'S COLD, THERE'S NOTHING TO DO BUT WORK."
YOU GET A LOT DONE.
"I THINK YOU'D BE HAPPY TO GO TO AN ART SCHOOL IN A CITY
WHERE THERE'S NO ART ACTIVITY. MINNEAPOLIS HAS SO
MUCH TO OFFER."
"EVERYWHERE YOU GO, THE CITY'S EYES ARE OPEN TO ART."
"I LOVE IT HERE. THE CITY IS GREAT. THERE IS A LOT OF GREAT
ARCHITECTURE AND THE RESOURCES ARE ENDLESS. YOU GOT
MUSEUMS ALL OVER THE PLACE. ALL KINDS OF MUSIC
EVENTS, AND THERE ARE LAKES EVERYWHERE FOR RECRE-
ATIONAL ACTIVITIES."



"The Minneapolis College of Art + Design 1993-1995 Prospectus," 1993
Advertisement for Rossignol Snowboard Campaign

Still from Michael and Janet Jackson's music video "Scream," 1995
"Whereishere," spread ©MAKELA

"Scott died suddenly on May 7 of a rare infection of the epiglottitis" —Eメールの差出人はLaurie Haycock Makela. スコット・マケラの死はこうしてあまりにも唐突に知らされた。

今年5月。我々編集部はちょうど『typography ex (pt.2)』の準備で追われている最中だった。原稿依頼デザイナーリストの中にはスコット・マケラの名前も含まれており、3月末には直接本人より掲載内容確認のための電話があった。陽気で快活な口調は、順風満帆に創作活動を展開する彼の万事快調ぶりを感じさせるものがあった。そんなやり取りをしていたからこそ、なおさら約一月後の悲報には信じ難いものがあった。

思えば、デザインがアナログからデジタル主導へと移行する微妙な時期に、スコット・マケラは新時代におけるヴィジュアルクリエイティブを牽引する重要な位置に立っていた。大学時代、スイスタイポグラフィの堅い路線を行く厳密なヒエラルキーのもとで基礎を学んだ彼は、その一方でポスト・パンクのハードコアバンドで演奏活動を行い、この時点でシンプルなタイポグラフィと画像、

そして音楽のコンビネーションが織りなす90年代の共通視覚言語の素地となる表現感覚が準備されていた。

その特異な才能は、若干24歳の若さでGalArtsとして世界的に有名なカリフォルニア・インスティテュート・オブ・ジ・アーツに教師として招聘された事実が示すとおり、常に斬新であり続けた。さらに彼は後に教鞭を執ることになるクランブルック・アカデミー・オブ・アートの大学院へ入学し、ハッカーなみの最先端テクノロジーをマスターしサイバーパンク、アンチヒーロー思想を身に付け、次代に対する素養を固めていった。

90年にemigre誌上でデジタルタイポグラフィの幕開けを象徴する「デッドヒストリー」を発表してから、恐るべきスピードでスコット・マケラは時代を駆け抜けていった。常人の倍以上の仕事量をこなし、近年は私生活でもよきパートナーであるローリー・ヘイコック・マケラと共同経営するMAKELA (元WPBC=Words + Picture for Business + Culture) の活動が円熟期へとさしかかっていた。印刷メディアから映像メディア、そしてサウンドと一体化したマルチメディアな表現方法へと進化していった彼が辿り着いた理論が「オーディオグラフィ」と自ら命

名する新たなメディア概念である。「我々が信じているところでは、タイポグラフィは音声を表象し、音声とは新たなメディア用語で言えばオーディオグラフィである。」

既成概念の枠組みを取り外し、新たな地平を模索し続けたスコット・マケラとMAKELAの過去10年の偉業を振り返る展覧会が大阪・DDDギャラリーで現在開催中だ。振り返るとは言っても、この機会は彼のデザイン的な生涯をただ回顧するのではなく、未完の可能性を内包したまま永眠に就いた彼のスピリットを分かち合い、継承し、近い将来、それぞれの手で開花させるための「未来へと続く」内容のものである。会場に並ぶさまざまな彼の作品はきっと観る者の中に潜むイマジネーションの扉を開くことだろう。クランブルックの学生が彼から享受したデザインの真価と意義を会場の作品から感じ取ることが出来るはずである。

DNP DUO DOJIMA 大阪市北区堂島浜2-2-28 堂島アクシズビル1F
TEL: 06-6347-8780 FAX: 06-6347-8795
http://www.dnp.co.jp/gallery/contents.html

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル1F
Tel: 03-3571-5206 日曜・祝日休

●FUSE EXHIBITION

-10/26

●松井桂三展

11/1-11/26

クリエイションギャラリー-G8

中央区銀座8-4-17 リクルートG8ビル1F
Tel: 03-3575-6918 土・日曜・祝日休

●第1回亀倉雄策賞受賞作家展

「田中一光のアートディレクション」
10/12-10/29

ガーディアン・ガーデン

中央区銀座7-3-5 リクルートG7ビルB1F
Tel: 03-5568-8818 日曜・祝日休

●第14回写真「3.3m展」

10/12-10/28

ワコール銀座アートスペース

中央区銀座5-1-15 第一御幸ビルB1
Tel: 03-3573-3798

●村上絵美Glass展

10/11-10/16

●「花ごよみ」カレンダー原画展

佐野有子・小滝雅道

10/18-10/23

●関夏夫展

11/1-11/6

●山口和加子・吉田淳子展

11/8-11/13

●ミレニアムビート—千年期の胎動—

矢島雲居

11/15-11/20

●原木せつ子展

11/22-11/27

プラスマイナスギャラリー

中央区銀座6-11-1 TEPCO銀座館2F
Tel: 03-3575-0456 水曜休

●柳澤信男展

～溶解する言葉 発光する意識～

-10/26

●アイディアブティック展(仮)

10/28-12/28

日本橋三越本店

中央区日本橋室町1-4-1
Tel: 03-3241-3311

●アンリ・カルティエ=ブレッソン写真展

「ランドスケープ」

10/12-10/17

●モードの仕掛人たち

11/2-11/7

ギャラリー・ショウ・コンテンポラリー・

アート

中央区日本橋3-2-9 三晶ビルB1F

Tel: 03-3275-1008 日曜・祝日休

●ポーレッタ・チャンコ展

-10/29

●リン・ギーサマン写真展

11/9-12/4

スパンアートギャラリー

中央区銀座2-2-18 西欧ビル1F
Tel: 03-5524-3060

●フリーランス見本市in東京'99

11/3-11/7

ギャラリー・ヴィヴァン

中央区銀座6-8-3 尾張町ビル5F
Tel: 03-3574-6725 日曜休

●PART II: 写真シリーズ

10/14-10/23

日本都市センター会館・緑道ギャラリー

千代田区平河町2-4-1

Tel: 03-3791-8651

●小さな彫刻展 vol.2

-11/28

大丸ミュージアム・東京

千代田区丸の内1-9-1

Tel: 03-3212-8011

●猫のヨーロッパ名画展

10/14-11/2

東京国際フォーラム・Aギャラリー

千代田区丸の内3-5-1

Tel: 03-5221-9000

●久保博二写真展

「アジアと食料」

10/29-11/12

アクシスギャラリー・アネックス

港区六本木5-17-1 AXISビル4F

Tel: 03-5572-0800

●「ジャスパー・モリソン」展

11/19-11/28

ストライプハウス美術館

港区六本木5-10-33

Tel: 03-3405-8108 日曜・祝日休

●宇家◎天童大人

—Letter Scape—展

-10/29

パステルミュージアム

港区南青山2-24-15

青山タワービルアネックス1F

Tel: 03-5410-6445 日曜休

●「シリウスの小包」

合田佐和子新作原画展

10/12-11/1

とくの忘れもの

港区南青山3-3-3

Tel: 03-3470-2631 日曜・祝日休

●第8回環九展—銅版画

-10/23

●没後30年 セルジュ・ボリアコフ展

10/29-11/6

リトルモア・ギャラリー

港区南青山3-3-24

Tel: 03-3401-1042 月曜休

●浅野忠信画展 (仮題)

11/30-12/26

アニヴェルセル表参道

港区北青山3-5-30

Tel: 03-5411-2488

●アフリカのかたち展

-10/24

東京都庭園美術館

港区白金台5-21-9

Tel: 03-3443-0201

●バリ・モード1870-1960

-12/19

サントリー美術館

港区元赤坂1-2-3 東京サントリービル11F

Tel: 03-3470-1073 月曜休

●特別公開 国宝 信貴山縁起絵巻

-10/24

品川インターシティギャラリー

港区港南2-15-4

Tel: 03-5402-6235 12/31-1/3休

●イタリア ボンベイ展

-2/19/2000

国立西洋美術館

台東区上野公園7-7

Tel: 03-3828-5131 月曜休(10/11開, 翌日休)

●オルセー美術館展

-12/12

国立科学博物館

台東区上野公園7-20

Tel: 03-3827-1467 月曜休(10/11開, 翌日休)

●大顔展

-10/17

バルコギャラリー

渋谷区宇田川町15-1 渋谷バルコPart1・8F

Tel: 03-3477-5873

●トレイシー・モファット展

10/15-11/9

HARAJUKU GALLERY

渋谷区神宮前3-6-8 サンライツビル1F

Tel: 03-3401-4025 月曜休

●オージェアンドミツボ エキジビジョン

-10/17

●大岡隆志写真展

10/19-10/24

●杉田憲也展

10/26-10/31

●FuriFuri Thangka

11/2-11/14

●今福ちか展「声の色」

11/16-11/21

●永富悦史オブジェ展

11/23-12/5

●ReMix!!

12/7-12/12

NADiff<ナディッフ>

渋谷区神宮前4-9-8 カソレール原宿B1F

Tel: 03-3403-8814

●イッセー尾形の【肉体とりくつ】

10/22-11/23

《Rocket》ART LABORATORY

渋谷区神宮前4-12-1

同潤会青山アパート5-101

Tel: 03-3470-6604

●『Ed. TSUWAKI EXHIBITION』

-10/13

●groovisions 秋の展示会

10/15-10/20

●バンザイペイント

『BONZAIPAIN 2000』

10/22-10/27

●映像山脈展

10/29-11/3

●金子亜矢子展

『Rawalpindi Popular Inn』

11/12-11/17

●常盤響写真展

11/19-11/24

●大岩正志展「I'm here! 2000」

11/26-12/1

ワタリウム

渋谷区神宮前3-7-6

Tel: 03-3402-3001

●エンブティ・ガーデン展

-11/7

Gallery ART SPACE

渋谷区神宮前3-7-5 篠原ビル4F

Tel: 03-3402-7385 月曜休

●『ハザマヨウイチ キドミユキ

ピースコン』

10/12-10/17

●高橋理加展「幼年期の終り」

10/19-10/24

●大塚明美展「Moratoriumな殻の空」

11/2-11/7

●『視線の記録』

11/9-11/14

●「Story Snap Shot」

11/16-11/21

HB GALLERY

渋谷区神宮前4-5-4 原宿エノモトビル1F

Tel: 03-5474-2325 木曜休

●藤枝リュウジ個展

-10/13

アートラッシュギャラリー

渋谷区代官山町1-7 B1

Tel: 03-3770-6786

●「手作り時計展」

11/13-11/26

ZOOM

渋谷区渋谷3-6-7 ゼクセルビル1F

Tel: 03-5485-4101 土・日曜休(祝日は開館)

●松本秋則「バンブー族の祭り」

-11/30

ザ・ディーブ

渋谷区南平町16-29 石川ビル3F

Tel: 03-3463-1907 日曜・祝日休

●HOMMA TAKASHI EXHIBITION 99

11/8-12/18



①



②



③



④



⑤

MOTS

新宿区下宮比町2-27 モリサビル1F
Tel: 03-3267-1233 日曜・祝日休
●ドイツの最も美しい本展
-11/30

INAXガレリア セラミカ新宿
新宿区西新宿1-6
新宿エルタワー20F
INAX新宿ショールームL21
Tel: 03-3340-1700 10/13休

●徳丸鏡子展
一陶 コズミックプランツ
-10/28

NTTインターコミュニケーション・
センター[ICC]
新宿区西新宿3-20-2
東京オペラシティタワー4F
Tel: 03-5353-0800
●「ICCビエンナーレ'99」
10/15-11/28

東京オペラシティアートギャラリー
新宿区西新宿3-20-2
Tel: 03-5353-0756 月曜休
●「Releasing Senses—感覚の解放」
-11/21

パークタワーホールOZONEプラザ
新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー3F
Tel: 03-5322-6500
●建築からグラフィックまで
—エトトレ・ソットサス展
10/31-11/28

世田谷美術館
世田谷区砧公園1-2
Tel: 03-3415-6011 月曜・祝日の翌日休
●煌めくプラハ展
-12/12

タワーギャラリー
横浜西区みなとみらい2-2-1
ランドマークタワー 3F
Tel: 045-222-5008
●「THE POETICS OF LANDSCAPE」
-10/24
●ハンス・シルベスター写真展
「Cats in the Sun」
地中海の猫たち
10/29-12/5

横浜美術館
横浜西区みなとみらい3-4-1
Tel: 045-221-0300
木曜・10/12・11/5・11/24休
●セザンヌ展
-12/19

彫刻の森美術館
神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
Tel: 0460-2-1161
●森に生きるかたち
-9/10/2000

宇都宮美術館
栃木県宇都宮市長岡町1077
Tel: 028-643-0100 月曜・祝日の翌日休
●東アジア/絵画の近代
-10/20

甲府市総合市民会館
山梨県甲府市青沼3-5-44 2F展示室
Tel: 055-231-1951 火曜休
●現代アーティストブックの世界展
-10/24

富山県立近代美術館
富山市西中野町1-16-12
Tel: 0764-21-7111 月曜・祝日の翌日休
●'99公募：日本海美術展
-10/24

水戸芸術館
茨城県水戸市五軒町1-6-8
Tel: 029-227-8111 月曜・10/12休
●イリヤ・カバコフ展
-11/3

雨引の里と彫刻(大和村中央公民館)
茨城県真壁郡大和村大字羽田1028-1
Tel: 0296-58-7117 月曜休
●第3回雨引の里と彫刻
-12/5

CCGA現代グラフィックアートセンター
福島県須賀川市塩田宮田1
Tel: 0248-79-4811 月曜・祝日の翌日休
●「版画の話」展
-12/19

INAXギャラリー名古屋
名古屋市中区錦1-16-20
INAX名古屋ショールーム2F
Tel: 052-201-1716 水曜休
●人間住宅
—環境装置の未来形—
-11/26

サブリエ・ド・ヴェリエ
名古屋市千種区山門町2-67
ナビオ覚王山B1
Tel: 052-752-0695 11/9休
●砂時展「3度目も本気」
11/3-11/5

国際デザインセンター
名古屋市中区栄3-18-1
デザインセンタービル
Tel: 052-265-2100
●JIDAデザイナーズウィーク'99
「私のサステナブルデザイン」
10/20-10/25
●デザインマネジメント展
10/28-11/5
●デザイン名古屋フェスティバル'99
10/30-10/31
●メタル エレメント オブ
スリー・カントリーズ
11/10-11/15

キリンプラザ大阪
大阪市中央区宗右衛門町7-2
Tel: 06-6212-6578
●キリン コンテンポラリー・アワード1999
受賞作品展
10/15-11/7

サントリーミュージアム[天保山]
大阪市港区海岸通1-5-10
Tel: 06-6577-0001 月曜休
●日本のガラス2000年
-11/7

INAXギャラリー大阪
大阪市西区新町1-7-1
INAX大阪ショールーム2F
Tel: 06-6539-3518 水曜休
●道具の心理学—いまモノ語りが始まる—
-11/26

CREAM ROOM
大阪市西区江戸堀1-23-12 Boo高木ビル2F
Tel: 06-6445-1239 日曜・祝日休
●30/ワタクシゴト展
10/19-10/29

DDDギャラリー
大阪市北区堂島浜2-2-28
堂島アクシスビル1F
Tel: 06-6347-8780 土・日曜・祝日休
●スコット・マケラ [WIDE OPEN]
-10/20

アジア太平洋トレードセンター/
ATCホール
大阪市住之江区南港北2-1-10
Tel: 06-6346-2612
●第9回国際デザイン・フェスティバル
国際デザイン展'99
-10/13

清涼山雲源寺透静庵 Gallery ○
京都市北区西賀茂北今原町41
Tel: 075-491-7975
●Go'99展覧会
10/30-11/7

神戸ファッション美術館
神戸市東灘区向洋町中2-9-1
Tel: 078-858-0050 水曜・祝日の翌日休
●モードの仕掛人たち
1/8-2/6/2000

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
香川県丸亀市浜町80-1
Tel: 0877-24-7755
●「みずのきさからの発信」展
10/24-1/10/2000

《Overseas》

Royal Academy of Arts
Piccadilly, London W1V 0DS, U.K.
Tel: +44 171 300 8000

●John Hoyland RA
-31 Oct.
●John Soane: Architect
-3 Dec.
●Van Dyck 1599-1641
-10 Dec.
●Amazons of the Avant Garde:
Six Russian Artists
13 Nov. - 6 Feb. 2000

Victoria and Albert Museum
Cromwell Road, London SW7 2RL, U.K.
Tel: +44 171 938 8500
●Designing in the Digital Age
-1 Mar. 2000
●A Grand Design:
The Art of the Victoria and
Albert Museum
14 Oct. - 16 Jan. 2000

The Museum of Modern Art
11 West 53 St., New York,
NY 10019, U.S.A.
Tel: +1 212 708 9400
●Modern Starts: People
-1 Feb. 2000
●Modern Starts: Places
28 Oct. - 14 Mar. 2000
●Modern Starts: Things
21 Nov. - 14 Mar. 2000

Cooper-Hewitt National Design
Museum
2 East 91 St., New York,
NY 10128, U.S.A.
Tel: +1 212 849 8344
●The Work of Charles and Ray Eames:
A Legacy of Invention
12 Oct. - 9 Jan. 2000

Whitney Museum of American Art
945 Madison Avenue, New York,
NY 10021, U.S.A.
Tel: +1 212 570 3676
●The American Century:
Art and Culture 1900-2000
Part 2/1950-2000
-13 Feb. 2000

Design Museum
28 Shad Thames, London SE1 2YD
U.K.
Tel: +44 171 378 6055
●Conran Foundation Collection 1999
4 Nov. - 5 Dec.
●Design-Process, Progress, Practice
21 Oct. - 20 Feb. 2000

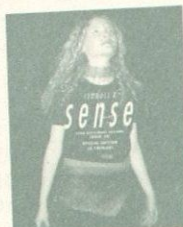
Vitra Design Museum
Charles-Eames-Str.1
D-79576 Weil am Rhein, Switzerland
Tel: +49 7621 702 35 78
●Automobility
-What Moves Us
-9 Jan. 2000



⑥



⑦



⑧



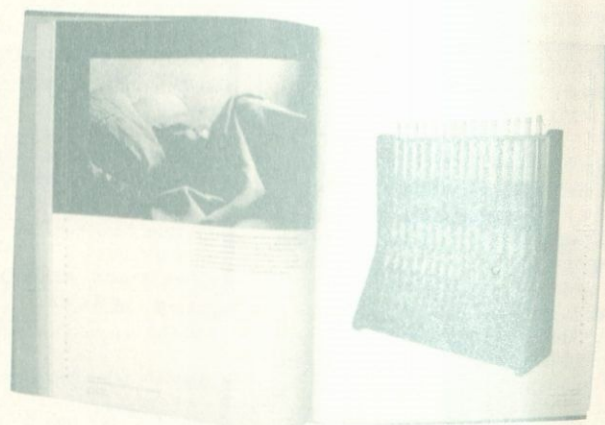
⑨



⑩



■Young British Art: The Saatchi Decade編
 デザイン: Jonathan Barnbrook and Jason Beard
 発行: Booth-Clibborn Edition
 体裁: 24.3X31.6cm, 615ページ
 定価: £ 75.00
 ISBN: 1861540337



1988年、ゴールドスミス大学の学生達が、魔ビルを使って開催した、インデペンデントのグループ展「Freeze」。この展覧会は若い芸術家達の間ではほとんど伝説になっている。ロイヤルアカデミー創設以来の伝統を抱えるイギリスの美術界は極めて保守的であり、若い現代芸術家達が自分の作品を展示するスペースを見つけることすら容易でない。ギャラリーや美術ジャーナリズムも、彼らに対しては閉鎖的。良識ある多くの人にとって、彼らの作品は奇妙で気色悪いものとしか眼に映らなかった。「Freeze」はそのような状況下で、「じゃあ自分たちでやればいいじゃん」と、行動を起こす契機となった展覧会として記憶される。そのオーガナイ

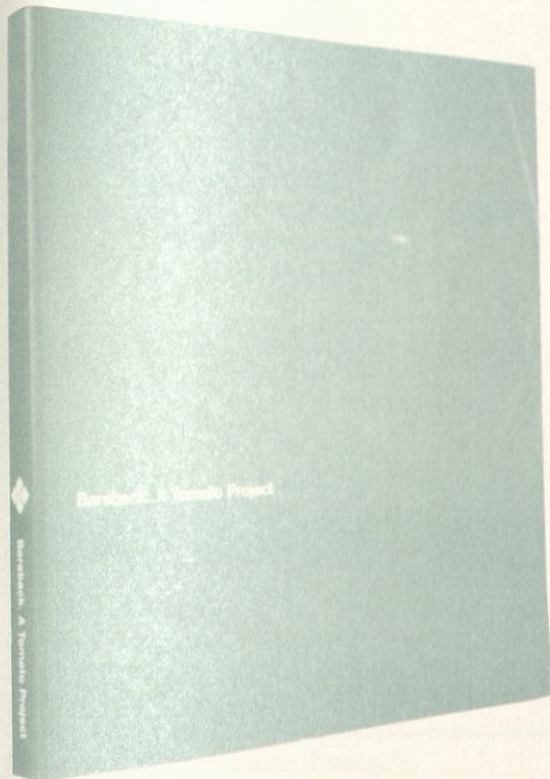
ズを行ったのが今やイギリス現代美術界のポップ・スター、ダミアン・ハーストである。以後、「アウトサイダー」とされていた芸術家達は、時にはスター気取りと揶揄されながらも、積極的に社会に自らをアピールしていく。そして9年後、1997年、美術アカデミズムの総本山ロイヤルアカデミーで、ダミアン・ハースト、レイチェル・ウィットレッド、ジェーク&ディノス・チャップマン等、気鋭の現代作家達による「Sensation」展が開かれ、多くの観衆が詰めかけた。大部分の人にとって、これは彼ら若手作家の作品に触れる初めての機会であった。結果、この展覧会はアカデミズム、マスコミ、一般大衆を巻き込み、作品にイン

クを投げる人や関係者の辞職問題まで飛び出す一大騒動にまで発展した。兎にも角にも「Sensation」は、イギリスの美術界に風穴を空けた格好となる。「Freeze」展から「Sensation」展までの9年の間、ハーストを筆頭とする若手芸術家の活動を積極的に支えたのがチャールズ・サッチである。彼はこれら新世代作家の作品をコレクションし、アビー・ロードにあるギャラリー・スペースを提供した。本書はその9年間に収集されたコレクションからなる、まさにイギリスの新世代作家達の集大成であり、600点以上の図像に、Saatchiギャラリー関連の賞賛と批判両方の記事のコピー、アーティスト達のインタビュー、豊富なインデックス

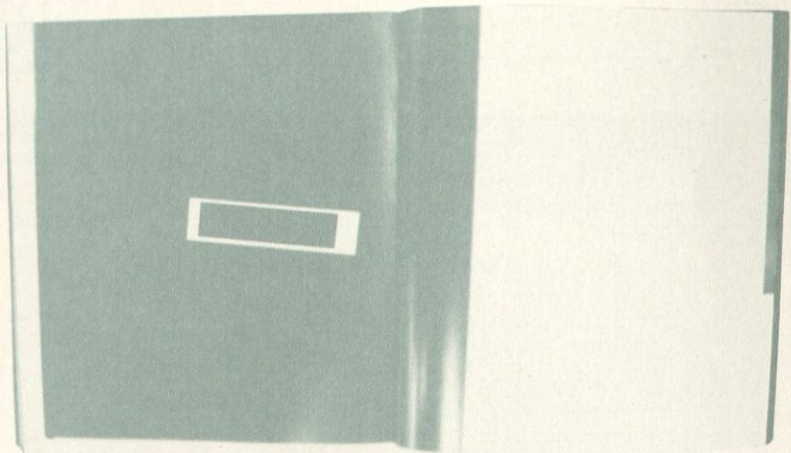
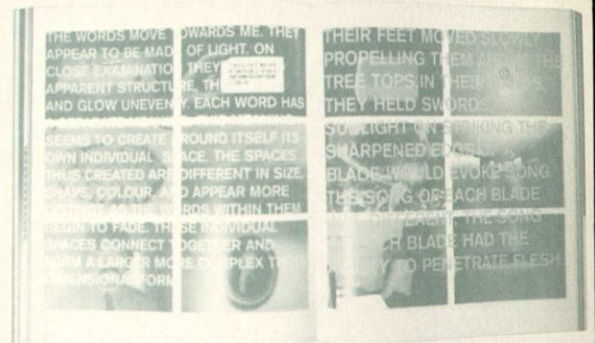
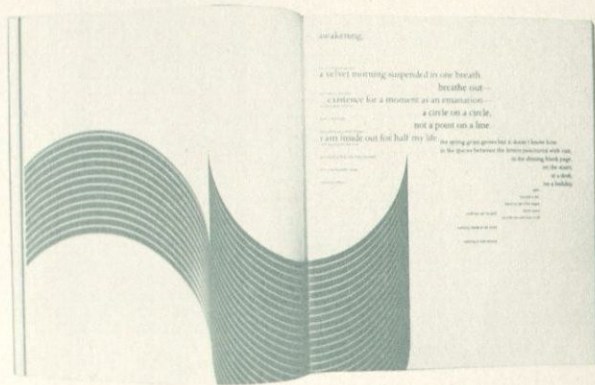
が用意されている。

トータル・デザインは数々の秀作フォントやダミアン・ハーストの作品集も手がけたジョナサン・バーンブルック。表紙はいかにも彼らしいデザインである。テキストページはCourier書体をメインモチーフとし、ジョーン・スタークのアスキー・アート（テキスト文字を組み合わせで絵を書く手法）を大々的にフィーチャーしており、少しばかり意外であるものの全体を通じて面白いアクセントをつけている。

内容の重厚さに違わず片手で持つには少々厳しいが、是非手に取ってみてほしい。



■ Bareback: A Tomato Project
編著・デザイン: tomato
体裁: 22.8cmX24.8cm, ハードカバー, 240ページ
発行: Laurence King Publishing
定価: £25.00
ISBN: 1856691608



常に現代グラフィックデザインシーンの先端を行き、すでに別次元の風格を漂わせるデザイナー集団, tomato. 『mmm...skyscraper, I love you』, 『Process: 』に続く3冊目の作品集になる本書を、既に眼にした人も多いことだろう。

近年のアンダーワールドのブレイクと共に、彼らの仕事もマスに広く知られるようになり、周囲の注目度も今まで以上に高かったはずである。良かれ悪しかれ、多くのフォロワーがtomatoに追随し、彼らの次なる一手を求めている。だが、周囲からの圧倒的な期待に「裏切り」をもって答えてきた彼ら流のやり方は今回も貫かれている。

tomatoの次なる回答は、これ以上進むには危うすぎる真性のエッジ感と「読む」と「見る」という行為の臨界点である。

多くの人は『bareback』のメインフィーチャーはアンダーワールドのヒットアルバム『beaucoup fish』風の抽象表現である、と半ば思いこんでいた。しかし、ページの大変を占めているのはコンクリート・ポエトリー（具体詩）、散文詩、アフォーリズムをはじめとするタイポグラフィの全面的な使用である。冒頭の40ページ近くは非連続的な散文の断片のタイポグラフィに、60年代のブリジット・ライリー風のオプティカル・アートが組み合わされる。アンダーワールドのジャケットで使われていた連作もそれなり盛り込まれているが、先述のページを初め、ニス（光沢のある透明な印刷）とタイポグラフィのみのページ、

巻末の読まれることに拒むかのような全面ニス印刷のテキストページなど、全体に渡って極めて能動的な関与を本書は要求する。

「タイポグラフィ」と言ったが、「タイポグラフィ」はそれ以前に、一つの「テキスト」として眺められることを思い出させる。以前からその兆候はあったように、ここにいたって狭義のデザインという言葉だけで、すなわち造形面だけで彼らの活動を眺めることは不可能、と思うのは深読みのしすぎか、それともそれすら彼らの誘うところであるのか。しかし、ここでは「感性」という名のオールマイティカードはあまり通用しそうにない。次のCMの為のイメージを求めていた業界関係者は裏切られた形になる。

「宣言」や「連帯」は抜きにしてもtomato周辺は、少なくともその多彩さにおいては、70年代を最後にこしばかり耳にしない芸術運動風の熱気を年を追うごとに感じさせる。ひとつじっくりと読んでみましょうか。

余談。もしやどこかに「スネーク・ファイティング」と書いてないかと探したものの、見つかりませんでした。

アイデア バックナンバーのご案内

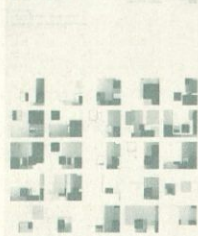
■お近くの書店でご注文ください。お近くに書店がなく、お買い求めが不便な場合は、確実にお手元にお届けできる本の宅配システムををオススメします。

■ご注文は、ご注文される号数、お名前、ご住所、電話番号を明記のうえ、下記の誠文堂新光社販売部あてに電話、またはFAXにてお申し込みください。(電話でのご注文受付は15:00まで。それ以降は翌日の扱いとなります。)

■商品のご注文を受けた翌日(本州・四国)、または翌々日(北海道・九州)に宅急便がお届けします。

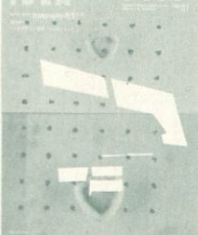
■送料は1回のご注文につき冊数にかかわらず380円です。お支払いは、宅急便の係員に本の代金に送料をプラスしてお渡しください。なお、昼間ご不在の場合は夜間指定(18:00~20:00)もできます。

IDEA 274 7月1999



276 Sept. 1999

IDEA 275 7月1999



275 July 1999

IDEA 274 7月1999



274 May 1999

IDEA 273 3月1999



273 Mar. 1999

特集1: 中島英樹 一美しき抑圧 エディトリアル、ミュージック・パッケージ、ポスターなど代表作から最新作まで32ページで徹底紹介/ 特集2: ミュージックパッケージに見るネクストスタンダードの予感—147のレコード+CDジャケットから次代を考察/ディラン・ケンドルによる幾何学と情感のハイブリット空間/葛西薫/ユーモアはポスターを解放したか—サヴィニャックほか/連載: 横尾忠則—デザインの原ビジョン/連載とし込み付録4: 大竹伸朗

Special Feature1: Hideki Nakajima—exquisite restraint/Arrival of the Next Standard in Music Package—147 record+cd jackets/Refraction Overflowed—Dylan Kandle/Kaoru Kasai—Cue/Did Humour Release Posters?—Raymond Savignac, Herbert Leupin, Bernard Villemot etc./Series Part4: Tadanori Tokoo—Source Vision of Design/Serial Bound-in Magazine Supplement-Part 4: Shinro Ohtake

特大号 Special Issue: typography-ex. [pt.2]
デジタル世代の新たなデザイナーとタイポグラフィック・デザインを世界中からピックアップ、検証する。
Neville Brody/Why Not Associates/The Attk Design Inc./tomato/Jonathan Barnbrook/v23/Vince Frost/Stuktur Design/The Designers Republic/STILL/automatic/Johnson & Wolverton/Imaginary Forces/Stefan Sagmeister/Charles S. Anderson/Chip Kidd/Pablo Medina/House Industries/David Carson/52mm/MAKELA/Koewiden Postma Associates/Ija Gallacz/Cornel Windlin/Ralph Schraivogel/cyan/Graphic Havoc avisualagency/Robert Bergman-Ungar/Tristan Pranyko/Hajime Tachibana 立花ハジメ/Hideki Nakajima 中島英樹/Katsunori Aoki 青木克憲/Noriyuki Tanaka 田中ノリユキ/Namaiki 生念気/Ichiro Higashizumi 東泉一郎/Fumio Tachibana 立花文徳
連載: 横尾忠則 第3回/連載とし込み付録3: 大竹伸朗
Series Part 3: Tadanori Tokoo/Serial Bound-in Magazine Supplement-Part 3: Shinro Ohtake/etc.

特大号 Special Issue: typography-ex. [pt.1]
今日のタイポグラフィ・ムーブメントの源泉である今世紀におけるタイポグラフィのイクスペリメント、先人たちのタイポグラフィにおける実験的系譜を完全網羅。
Futurism/Dada/Kurt Schwitters/Destijl/El Lissitzky/Aleksandr Rodchenko/Russia Avantgard - Constructivism/Dada-Constructivism/Bauhaus/Bauhaus-László Moholy-Nagy/Piet Zwart/E. McKnight Kauffer/Charles Loupot/A.M. Cassandre/Jan Tschichold/Max Bill/Josef Müller-Brockmann/Emil Ruder/Armin Hofmann/Max Huber/Wolfgang Weingart/Bruno Monguzzi/Tissi & Odermatt/Giovanni Pintori/Reid Miles/Rhythmic/Psychedelic/Milton Glaser/Tadanori Yokoo/Kiyoshi Awazu/Saul Bass/Masayoshi Nakajo/Gieljin Escher/Kijuro Yahagi
連載: 横尾忠則 第2回/連載とし込み付録2: 大竹伸朗
Series Part 2: Tadanori Tokoo/Serial Bound-in Magazine Supplement-Part 2: Shinro Ohtake

特集1: ビョーク vs ミー・カンパニー—サウンド&デザイン—カンパニーによるビョークのイメージクリエーティブ/最先端を行く特殊効果映像: Smoke and Mirrors products Limited/デザインとインサツ: 北川一成/EXIT metal work supply/連載: 横尾忠則—デザインの原ビジョン/ 特集2: ドイツデザインコミュニティの中核—grappa design-grappa.blotto, grappa.dor, cyan/連載とし込み付録1: 大竹伸朗

Special Feature1: Björk vs Me company-Me Company's image creation for Björk/The Strongest Elite in the Post-Production Industry: Smoke and Mirrors productions Limited/Design and Printing: Issay Kitagawa/EXIT metal work supply/Series Part1: Tadanori Tokoo—Source Vision of Design/Special Feature 2: At The Center of The German Design Community: grappa design-grappa.blotto, grappa.dor, cyan/Serial Bound-in Magazine Supplement-Part 1: Shinro Ohtake

ORDER

For international delivery of IDEA magazine, please contact our sales agent directly;

Nippan IPS Co., Ltd.

Iidabashi 3-11-6, Chiyodaku, Tokyo 102, Japan.

Fax: +81 (3) 3238-7944

272
Jan. 1999

特集: 社会的テンションとヴィジュアル・インパクト—リッツキー、ロドチェンコらによる「USSR」の全貌、ジョン・ハートフィールドのフォトモンタージュなど、1920~90年代までのインパクトポスターを検証/第5回メキシコ国際ポスタービエンナーレ/Johnson & Wolverton [U.S.A.] /groovisions/スペシャルブックレビュー: 「Why Not?」

Special Feature: Visual Impacts and Social Tensions—Lissitzky, Rodchenko, J. Heartfield etc./The 5th International Biennial of Poster in Mexico/Johnson & Wolverton/A Special Book Review: "Why Not?" etc.

271
Nov. 1998

特集: デヴィッド・カーソン「ムーヴィン・オン」/立花文徳/佐藤可士和/第18回フルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレ1998/Claudia Schmauder/アメリカ・ショービス界を活性化させる若手デザイナー: Alexei Tylevich/新作特集: 矢萩喜徳郎の「隠された視覚世界」

Special Feature: DAVID CARSON "moving on"/Fumio Tachibana/Kashiwa Sato/The 18th International Biennale of Graphic Design Bn 1998/Claudia Schmauder/Alexei Tylevich/A Special Feature on New Works: "Hidden Visual World" of Kijuro Yahagi

270
Sept. 1998

特集: タイポグラフィの行方—Special Feature: What's New in Typography Virus: Jonathan Barnbrook/T-26/Carole Segura/Eric Lin, Mario Feliciano, Peter Bruhn, Stephen Farrell, Frank Heine/T-26/Eyesaw Fontz: Dirk Unterbrock/Edward Fella/House Industries/Elliott Peter Eells/Thomas Müller/P. Scott Makela/Thirst: Rick Wiegman/Paul Sych/Patrick Giasson/Magnus Rakerd/Frank Ford/Thirst/The Attk Design/Scott Clum/Plazm Media/Pete McCracken/Marcus Burile, Pablo Medina: Plazm Fonts/Charles Wilkin: Plazm Fonts/Phototype/Kyle Cooper/Jonathan Hoefler/Hoefler Type Foundry/Jeffery Keedy Festival D'Atiches De Chaumont 1998/The 16th Biennale in Warsaw

269
July 1998

特集: 抽象表現の現在—Tomato, David Carson, 矢萩喜徳郎、大竹伸朗、平野敏子/デザインの世紀展/世界へのイメージビジュアルをディレクションするユニット: アブドゥ・オナーノ/1998東京タイポディレクターズクラブ (TDC) 賞/N.Y.を中心に活躍する藤井祐史のデザイン・プロセス
Special Feature: Abstract Expressions Today—Tomato, David Carson, Kijuro Yahagi, Shinro Ohtake, Keiko Hirano/Le Siecle du Design/ABOUD SODANO/Tokyo Typodirectors Club 1998 Annual Award/Visual Insight—creative approach from New York: Teiji Fuji

定期購読のご案内

■毎月確実にアイデアをお届けできるよう、お近くの書店に定期購読としてお申し込みください。お近くに書店がなく、ご不便な場合は下記の方法で誠文堂新光社まで直接お申し込みください。ご入金が確認されしだい最新号からお送りいたします。年間購読料は直接お申し込みいただいた場合19,790円(送料・税込)です。書店でお申し込みの場合は送料が不要です。

■年間購読料を郵便振替でご送金ください。振替口座は00170-6-6294加入者は(株)誠文堂新光社です。振替用紙に、お名前、ご住所、お電話番号、通信欄に雑誌名(アイデア)とご明記ください。ご送金から年間契約完了まで10日ほどかかります。

ご注文は下記にご用命ください。

誠文堂新光社 販売部

〒113-0033 東京都文京区本郷3-3-11 IPBビル1F

TEL: 03-5800-5780 FAX: 03-5800-5781

営業時間 月曜日~金曜日(祝日を除く) 9:30~17:30

小社ショールームのご案内

■小社販売部のショールームが本社1階にオープンしました。『アイデア』をはじめとする小社発行の雑誌はもちろん、新刊・既刊の書籍を取りそろえてあります。お近くの書店で入手困難な商品がございましたらお気軽にご利用下さい。なお、バックナンバーをお求めの際は品切れの場合もございますので、あらかじめお電話での確認をお願いいたします。

■所在地および電話番号は、上記小社販売部と同じです。

■交通: JRお茶の水駅より徒歩8分、地下鉄丸の内線お茶の水駅より徒歩5分、地下鉄千代田線新御茶ノ水駅より徒歩10分
*駐車場は完備しておりませんのでご注意ください。

■営業時間 10:00~17:00 (土日祝日休)



TEL (601) 3350

新画

100冊・割引は各々

<p>天使の主、眩車 桂木麻也子・柄本 明</p>	<p>美奈子</p>
<p>赤い淫画 伊藤京子</p>	<p>穂泉</p>
<p>目くさし</p>	<p>宮井えりけ</p>

8

0

御入場料金一般1000円

92

100% 豊饒の地 送られた「ビートル」が
100% 豊饒の地 送られた「ビートル」が

にかけ

樓のイ子・中

唐加景子·中

卷二

水原ゆき紀・水

羊



DESIGN: KAZUMASA NAGAI

マーメイド

株式会社 竹尾

101色、大行進。

おなじみの「マーメイド」がリフレッシュ。
幅広い階調のグレーと現代的なカラーの
合わせて23色が増え、全101色になりました。
誕生以来40年。
愛され続けてきたベテランは
いつも新鮮な表情を見せてくれます。
モノトーンだけでも
11段階もの均衡のとれた階調で
ますます「使える」定番です。

マーメイド

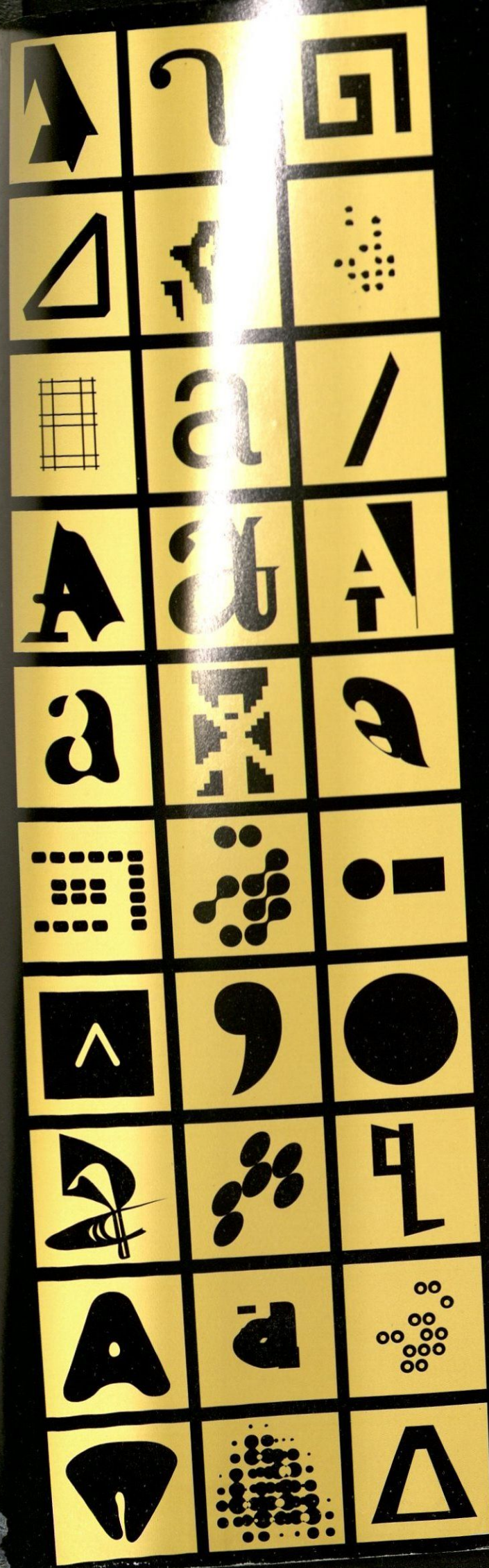
Mermaid
101

マーメイド ()内は色数

四六判	Y目	90	115	135	160	210	350kg
		(10)	(101)	(4)	(101)	(28)	(11)
菊判	Y目	80	93.5	111	146kg		
		(29)	(4)	(29)	(4)		

本店 101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 Tel.(03)3292-3611大代
板橋支店 175-0082 東京都板橋区高島平6-6-1 Tel.(03)3979-2121代
大阪支店 577-0065 東大阪市高井田中1-1-3 Tel.(06)6785-2221代
名古屋支店 462-0866 名古屋市北区瑞穂光町1-7 Tel.(052)911-3151代
仙台支店 984-0011 仙台市若林区六丁の目西町7-31 Tel.(022)288-1108代
福岡支店 812-0042 福岡市博多区豊1-9-20 Tel.(092)411-4531代
札幌営業所 060-0002 札幌市中央区北2西2服部ビル3F Tel.(011)221-4691
ショップ竹尾 Tel.(03)3292-3631 青山見本帖 Tel.(03)3409-8931
大阪見本帖 Tel.(06)6785-2224
海外／香港・シンガポール・上海・クアラルンプール
物産／東京・有明・高島平

竹尾



デジタルフォントの世界水準



時代のスタンダード

FontFontはNeville Brody, Max Kissman, Erik Spiekermanなど
世界を代表するトップタイポグラファーによる
まったく新しいフォントシリーズです。
1000を超えるオリジナル書体群に加えて
年4回、最大40ファミリーの新書体を発表していきます。
まずは、FontFont LIBRARY (価格1,500円(税別))をご購入ください。
また、デジタログのホームページ上にもフォントファインダーが展開中です。

Font *Shop* ^{Japan}

font pavilion

日本発ネオタイポグラフィー
時代の文字の記録として発刊を開始したフォント・パビリオンシリーズ
最新のフォントが満載されています。
現在9巻まで発売中! 大好評続刊中!
2000年より海外での発売も開始いたします!
ハイブリッドCD-ROM 価格6,800円

FONTWORLD EXPO 2000

公募中!

世界で唯一のオリジナルフォント公募展、FONTWORLD EXPOが今年も開催されます。
前回は実に500に及ぶオリジナルフォントがエントリーされました。
この公募展は無審査のアンデパンダン展です。
エントリーされたフォントはすべてデジタログギャラリーに展示、販売されます。
また、選抜されたフォントは、その時代の記録としてCD-ROM「フォント・パビリオン」
に収められ、広く流通販売されます。奮ってご応募ください。
応募用紙のお取り寄せ、お問い合わせはデジタログまで。

通信販売 <http://www.digitalogue.co.jp> <http://www.divo.co.jp>

DIGITALOGUE

株式会社デジタログ 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-36-20 TEL.03-5474-7741 FAX.03-5474-7744



大学院美術研究科(修士課程)
絵画専攻/彫刻専攻/デザイン専攻/芸術学専攻

美術学部 絵画学科(日本画専攻/油画専攻/版画専攻)
彫刻学科/工芸学科/グラフィックデザイン学科
生産デザイン学科(プロダクトデザイン/テキスタイルデザイン)
環境デザイン学科/情報デザイン学科/芸術学科

造形表現学部
造形学科/デザイン学科/映像演劇学科

多摩美術大学

<http://www.tamabi.ac.jp> pro@tamabi.ac.jp
上野毛校舎(本部・大学院・造形表現学部) 158-8558 東京都世田谷区上野毛 3-15-34
Tel 03-3702-1141(代表) Fax 03-3702-2235
八王子校舎(大学院・美術学部) 192-0394 東京都八王子市延永 2-1723
Tel 0426-76-8611(代表) Fax 0426-76-2935

入試やイベントなどの情報を随時お知らせいたします。
はがき、ファクシミリもしくはE-mailで、あなたの住所・氏名(ふりがな)電話番号を
上記上野毛校舎入試ID係に登録してください。



T1101429112912

定価2910円

本体277円

Printed in Japan 雑誌0140 11